

私立大学図書館協会東地区部会

研究部報告書

2021年度

2022年7月

研究部担当理事校

立正大学図書館

目 次

《2021年度研究部活動報告》

1. 運営委員会	1
2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議	2
3. 研究会	2
4. 研修委員会	3
5. 研修会	4
6. 研究分科会	4
7. 研修分科会	4
8. オンデマンド研修	4

《2021年度研究分科会活動報告》

1. 和漢古典籍研究分科会	5
---------------	---

《2021年度研修分科会活動報告》

1. 2021年度研修分科会	8
----------------	---

《研究分科会刊行物一覧》

《2021年度研究分科会月例会について（報告）》

《2022年度以降の研修体制につきまして（報告）》

《研究講演会》

1. 「創造的な学修に向けた大学図書館の役割について」（広報資料）	14
-----------------------------------	----

《研修会》

1. 2021年度研修会の開催について	16
---------------------	----

《研修委員会報告書》

1. 2021年度研修委員会報告	18
------------------	----

《オンデマンド研修》	
1. 「雑誌コース」のご案内	21
2. 「雑誌コース」実施要項	22
3. 「雑誌コース」広報資料	24
4. 「図書コース」のご案内	25
5. 「図書コース」実施要項	26
6. 「図書コース」広報資料	28
《2021年度東地区部会研究部決算報告・監査報告書》	29
《2022年度研究部活動計画（案）》	30
《2022年度東地区部会研究部予算（案）》	31
《関係規程》	
研究部細則	32
研究分科会申し合わせ	34
研修委員会規則	36
《別紙1：2021研修分科会報告書》	
《別紙2：研究講演会資料》	
《別紙3：研修会資料》	

《2021年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期 2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

委 員	細本 有理子	（成蹊大学）
	藤 順一	（早稲田大学）
	田邊 豊	（亜細亜大学）
	久留宮 健	（法政大学）
	西條 智架	（慶應義塾大学）
	吉井 香世	（専修大学）
	杉山 友美	（関東学院大学）
	森 浩生	（玉川大学）

研究部担当理事校 立正大学

第1回 2021 年 5 月 21 日（金） 10：00～11：00（Web 会議：Zoom）

1. 2021 年度運営委員について
2. 2020 年度研究部決算報告について
3. 2021 年度研究部予算と研究部活動計画について
4. 2021 年度研修分科会特別助成金申請について
5. 2020 年度研究分科会活動報告と会計報告について
6. 2021 年度研究分科会刊行物一覧について
7. 2021 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
8. 2021 年度東地区部会研究講演会について
9. 2021 年度オンデマンド研修について
10. 2021 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
11. その他

第2回 2021 年 7 月 30 日（金） 10：00～12：00（Web 会議：Zoom）

1. 2021 年度東地区部会研究講演会実施報告
2. 2022 年度東地区部会研究講演会について
3. 2021 年度オンデマンド研修について
4. 2021 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
5. 2022 年度研究分科会について
6. その他

第3回 2021 年 10 月 8 日（金） 10：00～12：00（Web 会議：Zoom）

1. 2021 年度オンデマンド研修報告
2. 2021 年度研修分科会実施経過報告
3. 2021 年度研修会開催に向けた予定
4. 2021 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて

5. 2022 年度研究分科会について
6. その他

第4回 2021年11月19日(金) 10:00~11:00 (Web会議:Zoom)

1. 2021 年度オンデマンド研修報告
2. 2021 年度研修会実施報告
3. 2021 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
4. 2022 年度運営委員会の実施方法について
5. 2022 年度以降の研究分科会について
6. その他

第5回 2022年3月18日(金) 10:30~12:00 (Web会議:Zoom)

1. 2021 年度オンデマンド研修報告
2. 2021 年度研修会報告
3. 2021 年度中間決算報告、2022年度予算報告
4. 2022 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
5. 2022 年度以降の研修会体制について
6. 2022 年度運営委員の業務分担について
7. 2022 年度研究部主催研究講演会調整状況報告
8. 次期(2023-24) 研究部運営委員会体制について
9. その他

2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第1回 2021年5月21日(金) 11:00~12:00 (Web会議:Zoom)

1. 2021 年度研究部活動計画及び予算について
2. 2021 年度研究分科会の活動計画について
3. 2021 年度研究分科会報告大会について
4. 研究分科会マニュアル 2021 年度版について
5. 分科会関連業務の分担について
6. 2021 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
7. 2022-2023 年度研究分科会会員更新について
8. その他

第2回 2021年11月19日(金) 11:00~12:00 (Web会議:Zoom)

1. 2021 年度研究分科会の活動報告について
2. 2022 年度以降の研究分科会について
3. その他

3. 研究会

2021 年度は 1 研究会のみであったことと新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえ、研究報告大会は実施せず、報告書をもって研究報告とした。

4. 研修委員会

研修委員（任期 2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

委員長 古賀 理恵子（慶應義塾大学）

副委員長 金津 有紀子（中央大学）

委員 桑原 理恵（明治大学）

可児 千裕（早稲田大学）

中田 真美子（専修大学）

吉水 拓哉（立正大学）※事務局（2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

オブザーバー 和田 貴敏（中央大学）※～2021 年 6 月 30 日

伊原 千秋（中央大学）※2021 年 7 月 1 日～

第 1 回 2021 年 4 月 28 日（水） 15:00 ～ 17:00（Web 会議：Zoom）

1. 研修会のテーマについて
2. その他

第 2 回 2021 年 5 月 27 日（水） 10:00 ～ 12:00（Web 会議：Zoom）

1. 研修会のテーマについて
2. その他

第 3 回 2021 年 7 月 2 日（水） 15:00 ～ 17:00（Web 会議：Zoom）

1. 研修会のテーマについて
2. その他

第 4 回 2021 年 8 月 20 日（金） 15:00 ～ 17:00（Web 会議：Zoom）

1. 研修会のテーマについて
2. その他

第 5 回 2021 年 10 月 4 日（月） 15:00 ～ 17:00（Web 会議：Zoom）

1. 2021 年度研修会の実施準備
2. その他

第 6 回 2021 年 12 月 20 日（月） 10:00 ～ 12:00（Web 会議：Zoom）

1. 2021 年度研修会実施の振り返り
2. 2022 年度研修会について
3. その他

第 7 回 2022 年 3 月 24 日（木） 13:00 ～ 15:00（Web 会議：Zoom）

1. 新旧研修委員 自己紹介
2. 研修委員会の概要および引継ぎについて
3. 2022 年度研修委員会の開催について
4. 研修委員のメーリングリストについて
5. その他

5. 研修会

日 時 2021年10月25日(月) Zoom(ウェビナー方式)
会 場 慶應義塾大学日吉キャンパス
テーマ ウィズ/ポストコロナの大学・図書館のリデザイン～事例を中心に
講 師 武庫川女子大学 川崎 安子 氏
和歌山大学 藤井 亜希子 氏
桜美林大学 鬼沢 恵子 氏、糸数 ナンシー 美香 氏
東京都立中央図書館 森口 歩 氏

6. 研究分科会

和漢古典籍研究分科会が月例研究会等の活動を実施した。

研究分科会更新担当理事校 亜細亜大学
研究分科会月例担当理事校 関東学院大学

7. 研修分科会

初任者を対象に単年度の研修活動を実施する。

第1回 2021年6月4日(金) Zoomビデオ会議
テーマ: コロナ禍で大学図書館の役割を問い直す
第2回 2021年7月9日(金) Zoomビデオ会議
テーマ: 電子ブックのこれから
第3回 2021年8月31日(火) Zoomビデオ会議
テーマ: バーチャルライブラリーツアー試写会
第4回 2021年9月24日(金) Zoomビデオ会議
テーマ: オープンサイエンスの世界
第5回 2021年11月5日(金) Zoomビデオ会議
テーマ: 情報サービス: その裏側の技術から
第6回 2021年12月10日(金) Zoomビデオ会議
テーマ: 図書館と学生との協働: その目的と効果を検証

8. オンデマンド研修

①「雑誌コース」の開講

募集期間: 2021年6月30日(水)～7月14日(水)

実施期間: 2021年7月29日(木)～10月27日(水)

受講者数: 16名(うち15名修了)

②「図書コース」の開講

募集期間: 2021年9月22日(水)～10月22日(金)

実施期間: 2021年11月4日(木)～2022年2月2日(水)

受講者数: 31名(うち30名修了)

《2021 年度研究分科会活動報告》

和漢古典籍研究分科会

代表者：小林 絵美（獨協大学）

会員数：4名、講師1名（2022年3月現在）

会 員：小林 絵美（獨協大学） 田島 忍（大東文化大学）
大久保 志穂（大東文化大学） 高橋 良政（元日本大学）
小此木 敏明講師（立正大学）

年会費：なし

例会開催回数：9回

延べ参加者数：36名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kotenseki/>

活動

1) 基本テーマ

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成方法の習得を目指す。テキストを用い、講義を通して、和漢古典籍の情報源に対する的確な理解、装訂に関する知識、紙質や字様・分類についての歴史、刊印修の分別などと共に、書誌事項を如何に適切に表記するかを学ぶ。

2) 活動の概要

- ・課題として出された和漢古典籍（デジタル資料）から調書を作成し、ビデオ会議（Zoom）で講師による解説を受けた。
- ・テキストの輪読、講師による補足説明、疑問点などについて共有した。
- ・2年間の活動を踏まえた研究報告の作成を行なった。

資料

1) 月例会テーマ

第1回月例会

日 程：2021年4月26日(月)

会 場：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・事前課題（調書作成）の解説

第2回月例会

日 程：2021年5月24日(月)

場 所：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・輪読、講師による解説
- ・事前課題（調書作成）の解説

第3回月例会

日 程：2021年6月28日(月)

場 所：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・ 輪読、講師による解説
- ・ 事前課題（調書作成）の解説

第4回月例会

日 程：2021年7月26日(月)

場 所：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・ 研究報告作成に向けてのテーマ検討
- ・ 輪読、講師による解説
- ・ 事前課題（調書作成）の解説

第5回月例会

日 程：2021年10月25日(月)

場 所：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・ 研究報告の内容検討
- ・ 輪読、講師による解説
- ・ 事前課題（調書作成）の解説

第6回月例会

日 程：2021年11月29日(月)

場 所：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・ 研究報告構成検討、作成
- ・ 輪読、講師による解説
- ・ 事前課題（調書作成）の解説

第7回月例会

日 程：2021年12月20日(月)

場 所：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・ 研究報告作成

第8回月例会

日 程：2022年1月24日(月)

場 所：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・ 研究報告作成

第9回月例会

日 程：2022年3月28日(月)

場 所：Zoom ビデオ会議

参加者：4名

- ・ 輪読、講師による解説
- ・ 事前課題（調書作成）の解説

2) 刊行物及び事業

なし

《2021 年度研修分科会活動報告》（活動報告書は別紙 1 参照）

代表者：島田 貴司（研究部担当理事校：立正大学）

会員数：23 名

会 員：梅内 美鈴（北里大学） 横塚 麻里（共立女子大学短期大学）
西崎 亜砂子（慶應義塾大学） 竹田 咲子（慶應義塾大学）
砂田 ゆとり（国際基督教大学） 小山 照美（国立音楽大学）
北原 敦子（駒澤大学） 横田 浩一（昭和薬科大学）
中村 陽子（実践女子大学） 小林 夏子（聖徳大学）
伊藤 美雲野（大正大学） 高木 隼人（中央大学）
古屋敷 果歩（帝京大学） 鋤形 七海（和光大学）
松原 昂希（立正大学） 川岸 哲平（立教大学）
吉光寺 美和子（明治大学） 茂木 みな（明治大学）
胡本 文耀（法政大学） 有川 博隆（法政大学）
菊地 紗彩（日本体育大学） 高橋 典子（日本体育大学）
阿部 なつき（日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学）

年会費：5,000 円

例会開催回数：6 回

研修分科会ホームページ URL：<https://jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/index.html>

活動

1) 基本テーマ

新型コロナウイルスの蔓延によって、大学ではオンライン・ハイブリッド授業が盛んになるなど、あらゆる方面でのデジタル化が推進された。

研修テーマは第 1 回～第 6 回を通じて多方面の内容を扱い、「教えてもらう」とは少し異なった「自ら学ぶ」姿勢で問題意識を持ち解決に向けて考える PBL（問題解決型）を意識した研修が行われた。

2) 活動の概要

研修は NPO 法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回ともテーマに基づいた事前学習・講演・グループ討議等を実施した。

資料

1) 月例会テーマ

第 1 回 2021 年 6 月 4 日（金）Zoom ビデオ会議

講演：新しい大学教育を創る コロナ禍で図書館の役割を問い直す

講師：松本美奈氏（ジャーナリスト）

課題：今の図書館にとっての問題点は何かを 3 つ考える

第 2 回 2021 年 7 月 9 日（金）Zoom ビデオ会議

講演 1：電子ブックのこれから

講師：西田和之氏（紀伊國屋書店）

講演2：海外電子出版・電子書籍動向
講師：川村俊之氏（紀伊國屋書店）
課題：学習支援に電子ブックを活用するためには

第3回 2021年8月31日（火）Zoomビデオ会議
テーマ：バーチャルライブラリーツアー試写会
課題：図書館紹介動画作成

第4回 2021年9月24日（金）Zoomビデオ会議
講演：「オープンサイエンス」の世界に踏み入れる図書館員のみなさまへ
講師：田辺浩介氏（国立研究開発法人 物質・材料研究機構）
課題：自分が所属する機関のリポジトリ業務を知る

第5回 2021年11月5日（金）Zoomビデオ会議
講演：情報サービス：その裏側の技術から
講師：林賢紀氏（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 情報広報室
広報資料科 情報高度利用専門職）
課題：各自の大学で導入している有料データベースの中で、使われる頻度の高い3つを用いて実際に検索し、その紹介文と取り扱い説明

第6回 2021年12月10日（金）Zoomビデオ会議
講演：学生と図書館との協働
講師：茂出木理子氏（東京工業大学 事務局参事 兼 研究推進部情報図書館課長）
課題1：参考サイトを読む
課題2：各自、学生との協働事例調査を行う

2) 刊行物及び事業
なし

《研究分科会刊行物一覧》

分科会名	和漢古典籍研究分科会
書名又は誌名	なし
刊行頻度	
価格	
発行部数	
配布対象・頒布方法・在庫	
発行目的・主な内容	
コメント・今後の刊行予定	

《2021 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 立正大学図書館 【2021 年度 4 月から担当】

月例担当理事校 関東学院大学図書館 【2021 年度 4 月から担当】

1. 月例会・夏期研究合宿開催状況

(2022 年 3 月 31 日現在)

研究分科会名称	月例会 開催数	夏期合宿（集中研究会） 開催期間
和漢古典籍 研究分科会	9	実施せず

*夏期合宿・集中研究会内訳（【】は前年度）

夏期合宿 0【0】、集中研究会 0【0】、実施せず 1【1】

2. 2021 年度中の動き

研究分科会の活動期間は 2 年間であることから、今年度より新たな活動年度となった。本年度の研究分科会は和漢古典籍 1 研究分科会のみが活動し、レファレンス研究分科会は休会継続となった。

和漢古典籍研究分科会の会員数は正会員 3 名（+オブザーバー 1 名、講師 1 名）、月例会は年間 9 回開催された。前年度より引き続き、新型コロナウイルス感染予防の観点から月例会はすべてオンライン（Zoom）にて実施し、夏期合宿（集中研究会含む）は実施しなかった。なお、月例会開催予定については通常、2 か月分を事務局へ提出することと決められているが、コロナ禍が続き社会情勢の変動で研究分科会自体の予定も変動することを考慮し、1 か月ごとの提出へと変更した。特別助成金の申請はなし。

実施研究分科会が 1 研究分科会のみであること、コロナ禍であることを鑑み、報告書の提出のみとし、報告大会は実施しなかった。

研究を続ける上で、資料現物を実際に見て、手に触れることが大きな意義を持つ和漢古典籍研究分科会ではあるが、コロナ禍という状況下で苦慮することもありつつ、前年度模索したオンラインでの実施に工夫を凝らし、研究を継続することの意義を実感する活動期間となった。

3. 今後の課題

大学において教育・研究の根幹となる図書館であるが、殊に私立大学においては職員を取り巻く環境は異動、委託化など負の外的要因が多く、図書館員として「知の形成」をするには難し状況となっていると言われて久しい。その環境が研究分科会へも大きく影響をおよぼし、昨今の研究分科会への参加者の減少、研究分科会自体の休会・廃会へとつながっている。しかし、「知の形成」の必要性はその環境とは反比例して高まることは必至である。

そこで、特に研究分科会の 2 年という活動期間、または、参加者のみによる研究態勢、研修分科会と研究分科会との乖離、参加資格（雇用形態等）の限定、実施方法（対面等）の固定について検討が必要であると考え、2021 年度末をもって現体制での研究分科会は幕を閉じ、2022 年度からは研究分科会はスキルアップ研修とし、新体制で実施することとした。新体制実施後は今後に向けて、需要度などを考察しながら、支援を継続していく必要がある。

《2022 年度以降の研修体制につきまして（報告）》

研究部担当理事校 立正大学図書館
分科会更新担当理事校 亜細亜大学図書館

大学図書館を取り巻く環境の著しい変化（業務の多様化に伴う業務量の増加、専任職員の流動性の激化、予算の削減、委託化の促進に伴う専任職員の減少等）に伴い、1990年代をピークに研究分科会の分科会数も会員数も減少の一途をたどっている（1994-97年度は15分科会存在し、2020-2021は1分科会と図書館業務初任者向けの研修分科会のみ）。そのようなタイミングで、新型コロナウイルス感染症の影響により活動自体も制限されることになった。そこで、研修の在り方を抜本的に見直し、現在またはこれからの私立大学図書館協会東地区の加盟校に所属する図書館関係者が無理なく参加できる研修体制を検討する必要に迫られた。

2021年度の研究部運営委員会にて新たな研修体制の検討を行い、2022年度より以下の体制にて新たな研修会を開催することとした。実施にあたっては、オンライン形式と対面形式をその時々で選択することとし、募集の範囲も専任職員のみならず、私立大学図書館協会東地区に加盟している大学図書館の従事者とした。

・初任者研修

これまでの研修分科会を踏襲した内容で実施。主に図書館勤務初年次職員を中心に大学図書館の様々な業務を知る場とする。

・PB (Project/Problem Based) 研修

参加者が抱えている業務に関する問題・課題を参加者同士で共有し、ファシリテーターと共に解決方法を習得し、実践を通して解決・改善していく場とする。

・スキルアップ研修

図書館業務個別の問題・課題に対して、発展的に学び、知見とノウハウを深めていく。更に、主体的に問題を解決し、効果的に成果を公開する能力を身につける場とする。

上記研修について、大学図書館支援機構に委託することとし、私立大学図書館協会東地区部会・研究部の意向を以下のような形で反映していく。

- ・研究部運営委員会：研修体制の内容確認、進行の確認
- ・研究部・委託業者合同会議：研修体制の進捗状況報告、方向性の検討
- ・業務委託仕様書：翌年度の研修体制及び内容の反映

研修のアウトプットは以下とする。

- ・研修内容の報告会（年末実施）
- ・研究部報告書への研修報告の掲載

2022年1月28日（金）開催の2021年度第2回東地区部会役員会及び2022年4月15日（金）開催の2022年度第1回東地区部会役員会にて研修体制の変更・実施の了承を得た。

《研究講演会》（研究講演会資料は別紙2参照）

私立大学図書館協会 2021年度東地区部会研究講演会

日 時： 2021年6月5日（土）12:45～15:00

録画映像公開期間：6月11日（金）～6月17日（木）

形 式： Zoom（リアルタイムオンライン・オンデマンド配信）

テーマ： 創造的な学修に向けた大学図書館の役割について

1. 開会の辞

司会者（研究部運営委員）

立正大学図書館 佐々木 綾花

2. 挨拶

研究部担当理事校

立正大学図書館長 山本 貴啓

立正大学図書館部長 室井 忠彦

3. 講演

(1) 「高等教育・学術的観点（「学修の共同性と社会性」「デザイン」）からの提起」

公立はこだて未来大学教授 美馬 のゆり 氏

(2) 「海外（図書館）「次世代ラーニングコモンズ」における創造的学修事例」

丸善雄松堂株式会社 Research&Innovation 本部

事業開発部企画開発担当課長 増井 尊久 氏

(3) 「（未来の大学図書館利用者を輩出する）中等教育現場（図書館）からの創造的学修事例」

元・工学院大学附属中学校・高等学校司書教諭（現・軽井沢風越学園教諭）

有山 裕美子 氏

4. ディスカッション

美馬 のゆり 氏／増井 尊久 氏／有山 裕美子 氏

5. 閉会

創造的な学修に向けた 大学図書館の役割について

6月5日（土）12:45～15:00

オンライン・オンデマンド形式併用

録画映像公開期間：6月11日（金）～6月17日（木）

※オンラインの申込は別途お送りするフォームよりお願いします。オンデマンドのURLは別途、お知らせします

講演

※テーマは当日までの調整により若干変更になる可能性があります

- 高等教育・学術的観点(「学修の共同性と社会性」「デザイン」)からの提起
公立はこだて未来大学教授 美馬 のゆり 氏
- 海外(図書館)「次世代ラーニングコモンズ」における創造的学修事例
丸善雄松堂株式会社Research & Innovation本部
事業開発部企画開発担当課長 増井 尊久 氏
- (未来の大学図書館利用者を輩出する)中等教育現場(図書館)からの創造的学修事例
元・工学院大学附属中学校・高等学校司書教諭 有山 裕美子 氏
(現・軽井沢風越学園教諭)

ディスカッション

- 創造的学修の視点から大学図書館の役割について
美馬 のゆり 氏 増井 尊久 氏 有山 裕美子 氏

私立大学図書館協会東地区部会
研究部担当理事校
立正大学
E-mail : eastlib@ris.ac.jp

創造的な学修に向けた大学図書館の役割について



6月5日（土）12:45～15:00

オンライン・オンデマンド形式併用

※オンラインの申込は別途お送りするフォームよりお願いします。
オンデマンドのURLは別途、お知らせします

録画映像公開期間：6月11日（金）～6月17日（木）

長引くコロナ禍は、結果的に教育の場におけるデジタル化を強制的に推し進め、学びのあり方を大きく変えています。そのような中で、これからの世の中で必要となってくる「創造的な学び」に対して大学図書館はどのような形で支援を行っていけるのか。様々なフィールドの最前線で活躍されている登壇者の方々にご講演いただき、大学図書館の役割のこれからについてディスカッションいただきます。

司会 研究部運営委員

1. 開会の辞 (5分)

研究担当理事校 立正大学図書館 部長 室井忠彦

2. 挨拶 (5分)

研究担当理事校 立正大学図書館長 山本貴啓

3. 講演

※テーマは当日までの調整により若干変更になる可能性があります

1) 高等教育・学術的観点(「学修の共同性」と「社会性」「デザイン」)からの提起 (30分)

公立はこだて未来大学教授 美馬のゆり 氏

公立はこだて未来大学システム情報科学部情報アーキテクチャ学科教授。博士(学術)。公立はこだて未来大学および日本科学未来館の設立計画策定に携わる。NHK経営委員(2013-2016)のほか、中央教育審議会委員、科学技術・学術審議会委員、経済産業省の製品安全に関する審議会委員、北海道科学技術審議会委員などを務めている。サイエンス・サポート図書館の活動で、平成26年度文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。

2) 海外(図書館)「次世代ラーニングコモンズ」における創造的学修事例 (30分)

丸善雄松堂株式会社Research & Innovation本部
事業開発部 企画開発担当課長

増井尊久 氏

シカゴ大学大学院修了。卒業後は日本でデジタルアーカイブの商品開発に従事。現在はファブスペースを中心に、図書館利用者または学習者を情報のクリエイターとして支援する学習空間の構築に取り組む。丸善雄松堂の海外図書館研修に通訳として同行して、90館以上の図書館を訪問した。

3) (未来の大学図書館利用者を輩出する)中等教育現場(図書館)からの創造的学修事例 (30分)

元・工学院大学附属中学校・高等学校司書教諭

有山裕美子 氏

(現・軽井沢風越学園教諭)

大学卒業後、公立小学校の教員に。出産を機に退職し育児中に通信教育で司書と司書教諭の資格を取得する。公共図書館非常勤職員、中学・高等学校の国語科兼司書教諭を経て、現在は軽井沢風越学園で初等教育に携わる。目下の関心は、STEAM教育や学校図書館におけるメイカースペースのあり方、電子書籍活用授業など。

4. ディスカッション

創造的学修の視点から大学図書館の役割について

(30分)

美馬のゆり 氏 増井尊久 氏 有山裕美子 氏

私立大学図書館協会東地区部会
研究部担当理事校 立正大学図書館
E-mail : eastlib@ris.ac.jp

《研 修 会》（研修会資料は別紙3参照）

私大図協・東・研・2021-35

2021年10月4日

私立大学図書館協会東地区部会
加盟大学図書館長 殿

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館
館長山本貴啓
研究部研修委員会
委員長古賀理恵子
[公印省略]

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2021 年度研修会の開催について（お知らせ）

拝啓 時下、貴台にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます

さて、標記研修を下記の通りオンラインにて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

つきましては、この機会に多くの方にご参加いただきたく、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

テーマ： ウィズ/ポストコロナの大学・図書館のリデザイン～事例を中心に

講演：

- ・これからの大学を支える図書館；専門的職員であり続けるために
武庫川女子大学 川崎 安子 様
- ・Google フォームを使った新入生ガイダンスの作成（仮）
和歌山大学 藤井 亜希子 様
- ・コロナ禍における桜美林大学図書館のオンラインガイダンス・イベント実施について
桜美林大学 鬼沢 恵子 様、糸数 ナンシー 美香 様
- ・気がつけばバーチャル図書館員?!（仮）
慶應義塾大学 森嶋 桃子 様
- ・東京都立中央図書館におけるチャットボット実証実験
東京都立中央図書館 森口 歩 様

1. 日 時：2021年10月25日（月） 13：00 ～ 16：05（Zoom ウェビナー方式）
2. 対 象：私立大学図書館協会東地区部会加盟大学図書館に勤務する専任職員
3. 定 員：450名
※1 大学（加盟館）1名を優先しますが、複数名の申込みも可とします。
4. 費 用：受講無料
5. 動 画：オンデマンドによる動画配信（申込不要）
録画公開期間：11月1日（金）～11月7日（木）
6. 参加申込：<https://forms.office.com/r/vDtVaA6mb0>
※申込後、「受付完了メール」が自動配信されます。

【注意事項】

1. 申込期間：10月4日（月）～10月22日（金） 17:00 まで
2. 研修中の録音および録画はご遠慮ください。
3. ご提供いただいた個人情報は、当研修会の実施に関する連絡等に利用します。
取得した個人情報は、上記の目的以外で利用する事はありません。（但し、法令等により提供を求められた場合はを除きます。）

以 上

連絡先：私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館 品川学術情報課（吉水）
Tel：03-3492-6615 Fax：03-5487-3349
E-mail：eastlib@ris.ac.jp

《研修委員会報告書》

2021年度研修委員会活動報告

東地区部会研究部研修委員会

委員長 古賀 理恵子（慶應義塾大学）

1. 研修委員（任期2020年4月1日～2022年3月31日）

委員長 古賀 理恵子（慶應義塾大学）

委員 金津 有紀子（中央大学）

桑原 理恵（明治大学）

可児 千裕（早稲田大学）

中田 真美子（専修大学）

吉水 拓哉（立正大学）※事務局（2021年4月1日～2023年3月31日）

オブザーバー 和田 貴敏（中央大学）※～2021年6月30日

伊原 千秋（中央大学）※2021年7月1日～

2. 委員会活動概況

年間7回(4、5、7、8、10、12、3月)の委員会をオンラインで開催した。

初回には今年度研究部の活動について、研究部担当理事校の立正大学島田課長より説明がなされた。

第1回(4月)及び2回(5月)では、昨年度末にテーマとオンラインでの開催が決まっていた研修会について構成や方向性等の確認・すり合わせを行い、第3回(7月)で委員各自が試作したプログラム案を持ちより、意見交換の上、内容を確定した。これに基づく講演依頼と並行し、事務局より提供していただいた研究講演会(6/5にオンラインで開催)の実施結果を踏まえて、Zoom Webinarの機能、質疑応答やアンケートの方法の確認等を分担して進めた。また、講演者・委員・会場の調整により、7月末までに研修会の日程を10/25(月)、リハーサルを10/18(月)とすることに決定した。

第4回(8月)では実施にあたっての確認事項を詳細に洗い出すとともに、シナリオ・スライド・アンケート作成等の諸作業を共有しながら準備することとし、第5回(10月)本番前最終打合せまでに整え、リハーサル(10/18午後)を経て当日(10/25)に臨んだ。

研修会終了後は、オンデマンド配信による視聴を含めた概況やアンケート結果を共有することで、研修会及びこれまでの委員会活動の振り返りや次回テーマ案を検討する材料とし、第6回(12月)にて次期委員メンバーへの申し送り事項をまとめた。現メンバー・新メンバー、研究部理事が参加した第7回目(3月)を、次期研修委員会への引継ぎの回とした。

3. 2021 年度研修会

(1) 実施概要

- ・テーマ：「ウィズ/ポストコロナの大学・図書館のリデザイン：事例を中心に」
- ・日程：2021 年 10 月 25 日(月) 13:00~16:05
- ・オンライン開催
- ・参加者数：101 名（オンデマンド視聴 1226 回(11/1~11/8)）
- ・参加役員：古賀、金津、桑原、可児、中田
伊原(オブザーバー)、事務局：吉水

(2) 開催趣旨/概要

新型コロナウイルスの感染に伴う対応が始まって 1 年以上が経過した。大学も図書館にも数々の制約が生じ、従来通りの対応はかなわず、可能な範囲で形を変えながらサービスを継続してきた。この間、コロナ対応の工夫から始まり新たに定着・発展するサービスも見られ、色々な規模、バックグラウンドを持つ図書館の事例を参考にしたいという声が多く聞かれた。そこで「ウィズ/ポストコロナの大学・図書館のリデザイン」をテーマに、大学図書館としての全般的な取り組み、特徴のある個別事例、技術を駆使した先進的な実験のプログラム構成の下、様々な図書館で行われているサービスの事例を通し、新たな発見の機会とすることを意図して企画した。

(3) タイムスケジュール及び講演内容

10 月 25 日(月)

- 13:00 開会挨拶・事務連絡
- 13:10 「これからの大学を支える図書館；専門的職員であり続けるために」
武庫川女子大学 川崎安子氏
- 14:00 「Google フォームを使った新入生ガイダンスの作成」
和歌山大学 藤井亜希子氏
- 14:20 「コロナ禍における桜美林大学図書館のオンラインガイダンス・イベント実施について」
桜美林大学 鬼沢恵子氏/糸数ナンシー美香氏
- 14:40 「気がつけばバーチャル図書館員？」
慶應義塾大学 森嶋桃子氏
- 15:25 「東京都立中央図書館におけるチャットボット実証実験」
東京都立中央図書館 森口歩氏
- 16:00 閉会挨拶

(4) 特記事項

- ・時節的なテーマであること、図書館総合展等のセミナーとの重複を回避することを考慮し、例年よりも早い日程とした。
- ・事務局である立正大学にオンライン開催のホスト会場をご提供いただいた。
- ・私立大学図書館協会が契約した Zoom Webinar (同時アクセス上限 500)のアカウントを借用して実施した。
- ・オンライン開催のため例年よりも広報の時期を遅らせ、直前まで申込を受ける変更を行ったが、申込件数、実参加件数、アンケート回収率とも概ね好調だった。
- ・オンデマンド配信では東地区のみでなく西地区からも視聴された。

4. 2022 年度研修会

研修会参加者の関心のあるトピック（アンケート回答）や委員のアイデアにより、「蔵書構築」「大学の中の図書館」等といったテーマがあげられた。その中で、オンライン資料へのシフトが進み、利用・管理・予算等課題が浮き彫りになるとともに、コロナ禍での授業での活用も進んだ「電子ブック」について、現況、課題、展望することを次回の研修テーマとして次期研修委員会へ引継ぎ、提案とした。

5. その他（次年度以降に向けた今後の課題等）

今期の委員会はすべてオンラインでの開催となり、従来の対面での活動と比べ、情報の共有、作業進捗の管理についてより注意が必要となった。ストレージサービス(Box)とメールを併用したが、各課題の一括管理のためには Basecamp、Backlog、Teams 等のプロジェクト管理ツールの利用を検討してもよいのかもしれない。

様式やテーマを制限されやすいといったことが生じるものの、対面に戻ってもハイフレックスでの実施を希望する声が寄せられる等、オンライン開催のニーズは高いことがわかった。対面やワークショップ型が適当なテーマはあり、また研修会を通じた交流等メリットは多々あるが、参加しやすく持続可能な運営を考慮することも今後の課題となるだろう。

以上

《オンデマンド研修》

私大図協・東・研・2021-19

2021年6月30日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館
館長 山本 貴啓
[公印省略]

2021年度東地区部会オンデマンド研修「雑誌コース」のご案内（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度も東地区部会ではオンデマンド研修「雑誌コース」を実施することになりましたので、ご案内いたします。

つきましては、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、実施要項、受講申込書、受講マニュアルは私立大学図書館協会東地区部会のホームページ (<https://www.jaspul.org/east/collegium/cat4/2021/>) に掲載しておりますので、ご参照ください。

敬具

記

1. 開講期間 2021年7月29日(木)～2021年10月27日(水)の3カ月間
2. 募集定員 25名
3. 受講対象 原則として私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する専任職員
4. 申込方法 上記URLから受講申込書をダウンロードのうえ、所属機関長(図書館長等)の推薦を添えて、下記メールアドレスまでお申し込みください。

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

E-mail eastlib@ris.ac.jp

5. 締め切り 2021年7月14日(水)
6. 問い合わせ 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館(担当: 島田、水上、佐々木)
Tel 048-536-6017
E-mail eastlib@ris.ac.jp

以上

2021年度 私立大学図書館協会東地区部会

オンデマンド研修「雑誌コース」実施要項

1. 研修の目的

近年、大学図書館では人事異動や業務委託の導入により、図書館業務の基本である目録作成に携わる機会が著しく減少しています。しかし、図書館をマネジメントする上で目録に関する知識は必須であることから、目録技術の普及に寄与することと、私立大学図書館に勤務する館員の育成を目的に、オンデマンドによる双方向型研修を実施します。

2. 主催、運営管理

私立大学図書館協会東地区部会

3. 実施、運営

特定非営利活動法人大学図書館支援機構（IAAL）

4. 受講内容

第1週～第4週： 雑誌業務概説

雑誌の定義と雑誌業務の概要を説明します

第5週～第8週： 総合目録データベースの仕組みと所蔵登録

NACSIS-CAT のデータベースの仕組みと、所蔵登録について説明します

第9週～第12週： 雑誌書誌登録

雑誌の書誌作成・修正の考え方を説明します

※12週（3カ月）で1期のコースとなります。

※受講内容には全体で約8時間程度のビデオ視聴と、確認テストや提出課題、ディスカッションなどが含まれます。

5. 受講方法

IAAL から発行される ID とパスワードにより指定の URL にアクセスして受講します。インターネット接続の環境があれば24時間受講が可能です。「オンデマンド研修受講マニュアル」もご参照ください。

6. 受講期間

2021年7月29日(木)～10月27日(水)の3カ月間

7. 募集定員

1期25名

※双方向型研修のため人数制限があります。定員を超えた場合は研究部にて選考させていただきます。

※定員に余裕がある場合は追加募集を行います。

8. 受講対象者

原則として私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する専任職員を対象とします。

9. 修了証書

本講習の修了者には修了証書が発行されます。

10. 受講料

無料

11. 申し込み方法

受講希望者は受講申込書をダウンロードのうえ、所属機関長（図書館長等）の推薦を添えて、下記メールアドレスまでお申し込みください。

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

E-mail eastlib@ris.ac.jp

申込期限 2021年7月14日（水）

12. 受講者の決定

受講者の決定については7月中旬に各所属機関長（図書館長等）と受講者に通知します。

13. 問い合わせ先

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

立正大学図書館（担当：島田、水上、佐々木）

Tel 048-536-6017

E-mail eastlib@ris.ac.jp

【注意事項】

1. 申し込み後に参加できない事情が生じた場合は、速やかに研究部担当理事校までご連絡ください。
2. オンデマンド研修内でのディスカッションやアンケートの内容は、東地区部会研究部が作成する報告書、広報資料、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。
3. 発行されるIDやパスワードは受講者本人のみが使用するものであり、各自で責任をもって管理してください。
4. ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

私立大学図書館協会東地区部会

オンデマンド研修

2021
雑誌
コース

2021年7月29日(木)～10月27日(水)

25名限定

第1週～第4週
雑誌業務概説

第5週～第8週
総合目録データベースの仕組みと所蔵登録

第9週～第12週
雑誌書誌登録

申込期限 2021年7月14日(水)

受講希望者は以下のURLより受講申込書をダウンロードのうえ、所属機関長(図書館長等)の推薦を添えて、下記メールアドレスまでお申し込みください。

受講申込書 <https://www.jaspul.org/east/collegium/cat4/2021/>

申込先 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校 立正大学図書館
E-mail : eastlib@ris.ac.jp

私大図協・東・研・2021-31

2021年9月21日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館
館長 山本 貴啓
[公印省略]

2021年度東地区部会オンデマンド研修「図書コース」のご案内（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度も東地区部会ではオンデマンド研修「図書コース」を実施することになりましたので、ご案内いたします。

つきましては、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、実施要項、受講申込書、受講マニュアルは私立大学図書館協会東地区部会のホームページ (<https://www.jaspul.org/east/collegium/cat4/2021/>) に掲載しておりますので、ご参照ください。

敬具

記

1. 開講期間 2021年11月4日(木)～2022年2月2日(水)の3カ月間
2. 募集定員 25名
3. 受講条件 (1) 私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する者
(2) 所属機関長の承認を受けていること
4. 申込方法 以下のURLより申し込みフォームにアクセスいただき、必要事項をご入力ください。
<https://forms.office.com/r/ZjSjeNKQQe>

5. 締め切り **2021年10月22日(金)**

6. 問い合わせ 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館 (担当：島田、水上、佐々木)
Tel 048-536-6017
E-mail eastlib@ris.ac.jp

以上

2021年度 私立大学図書館協会東地区部会

オンデマンド研修「図書コース」実施要項

1. 研修の目的

近年、大学図書館では人事異動や業務委託の導入により、図書館業務の基本である目録作成に携わる機会が著しく減少しています。しかし、図書館をマネジメントする上で目録に関する知識は必須であることから、目録技術の普及に寄与することと、私立大学図書館に勤務する館員の育成を目的に、オンデマンドによる双方向型研修を実施します。

2. 主催、運営管理

私立大学図書館協会東地区部会

3. 実施、運営

特定非営利活動法人大学図書館支援機構（IAAL）

4. 受講内容

第1週～第4週： 目録の基礎 目録の基本的な考え方を学びます

第5週～第8週： 和図書の目録 和図書の目録の録り方を説明します

第9週～第12週： 洋図書の目録 洋図書の目録の録り方を説明します

※12週（3カ月）で1期のコースとなります。

※受講内容には全体で約9時間程度のビデオ視聴と、確認テストや提出課題、ディスカッション等が含まれます。

5. 受講方法

IAAL から発行される ID とパスワードにより指定の URL にアクセスして受講します。インターネット接続の環境があれば24時間受講が可能です。「オンデマンド研修受講マニュアル」もご参照ください。

6. 受講期間

2021年11月4日(木)～2022年2月2日(水)の3カ月間

7. 募集定員

1期25名

※双方向型研修のため人数制限があります。定員を超えた場合は研究部にて選考させていただきます。

※定員に余裕がある場合は追加募集を行います。

8. 受講条件

- (1) 私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する者
- (2) 所属機関長の承認を受けていること

9. 修了証書

本講習の修了者には修了証書が発行されます。

10. 受講料

無料

11. 申し込み方法

以下の URL より申し込みフォームにアクセスいただき、必要事項をご入力ください。

<https://forms.office.com/r/ZjSjeNKQQe>

申込期限 2021年10月22日(金)

12. 受講者の決定

受講者の決定については10月下旬に各所属機関長（図書館長等）と受講者に通知します。

13. 問い合わせ先

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

立正大学図書館（担当：島田、水上、佐々木）

Tel 048-536-6017

E-mail eastlib@ris.ac.jp

【注意事項】

1. 申し込み後に参加できない事情が生じた場合は、速やかに研究部担当理事校までご連絡ください。
2. オンデマンド研修内でのディスカッションやアンケートの内容は、東地区部会研究部が作成する報告書、広報資料、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。
3. 発行される ID やパスワードは受講者本人のみが使用するものであり、各自で責任をもって管理してください。
4. ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

オンデマンド研修

2021年11月4日(木)～2022年2月2日(水)

2021 図書コース
25名限定

申込期限

2021年10月22日(金)

第1週～第4週：目録の基礎

第5週～第8週：和図書の目録

第9週～第12週：洋図書の目録

受講希望者は以下のURLまたはQRコードより申込フォームにアクセスいただき、必要事項をご入力ください。

申込フォーム <https://forms.office.com/r/ZjSjeNKQQe>

問い合わせ先 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校 立正大学図書館
E-mail: eastlib@ris.ac.jp



2021年度 私立大学図書館協会東地区部会 研究部
決算報告
(2021年4月1日～2022年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	備考
部会交付金	2,915,000	2,915,000	0	2016年度より支出に応じた交付
研究会参加費収入	0	0	0	
研修会参加費収入	25,000	0	25,000	意見交換会参加費: @1,000円×25名
雑収入	500	101,637	△ 101,137	預金利息、分科会より返金分
小計	2,940,500	3,016,637	△ 76,137	
前年度繰越金	0	0	0	
合計	2,940,500	3,016,637	△ 76,137	

支出の部

科目	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)開催費	130,000	90,000	40,000	講師謝礼、交通費等(3名分)
研究会(報告大会)開催費	0	0	0	1研究分科会のため、開催なし
研究会(交流会)開催費	0	0	0	隔年開催、次回は2022年度の予定
研修会(首都圏)開催費	800,000	20,000	780,000	研修会・意見交換会開催費他
研修会(地域研修)開催費	0	0	0	次回は2021年度⇒延期
オンデマンド研修費	492,000	419,540	72,460	システム・ネットワーク費、研修運営費
運営委員会費	100,000	0	100,000	
運営委員会・分科会代表者 合同会議開催費	10,000	0	10,000	年2回(5月・11月) 意見交換会の開催なし
分科会助成金	175,000	190,000	△ 15,000	
内訳				
基本助成	60,000	60,000	0	1研究分科会と研修分科会 @30,000円×2分科会
割増助成会員	115,000	130,000	△ 15,000	2021年度会員数 @5,000円×26名 (研修分科会23名、研究分科会3名)
特別助成金	828,500	628,500	200,000	
内訳				
研究分科会支援金	200,000	0	200,000	
研修分科会支援金	628,500	628,500	0	15名までを想定(募集は30名)
研修委員会費	100,000	0	100,000	
研究部活動費	50,000	26,400	23,600	研究部活動 ⇒ZOOMアカウント契約費 (運営委員会・研修委員会含む)
印刷費	80,000	0	80,000	
内訳				
研究部報告書	0	0	0	2018年度を以って電子化
研究部用封筒印刷代他	80,000	0	80,000	封筒、チラシ作成他
通信費	25,000	4,922	20,078	
運営事務費	50,000	2,970	47,030	振込手数料他
小計	2,840,500	1,382,332	1,458,168	
予備費	100,000	0	100,000	
合計	2,940,500	1,382,332	1,558,168	
次年度繰越金	0	1,634,305	△ 1,634,305	
総計	2,940,500	3,016,637	△ 76,137	

上記のとおり報告いたします。

2022年 3月31日

私立大学図書館協会東地区部会 研究部担当理事校
立正大学図書館



2021年度に係る決算報告書及び付属書類について、その信憑書類及び帳簿を監査しました結果、適正であることを認めます。

2022年4月1日

東地区部会監事校

國學院大學図書館



5. 2022年度東地区部会研究部活動計画（案）および予算（案）

2022年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部 活動計画（案） （2022年4月1日～2023年3月31日）

1. 研究部活動方針

- (1) 研究活動 (2) 研修活動

2. 活動計画

(1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議し、活性化に向けた活動を行う。年5回程度開催。

(2) 運営委員・研修委託事業者合同会議

研修会活動計画、運営その他について協議する。
5月、11月下旬～12月上旬の年2回開催。

(3) 研究講演会及び研修活動報告会

1) 「研究講演会」の開催。

6月にオンライン開催・オンデマンド配信にて開催予定。

2) 「研修活動報告会」の開催。

11月～12月にオンライン開催・オンデマンド配信にて開催予定。

(4) 研修委員会

研修会の企画を立案し、実施する。年8回程度開催。

(5) 研修会

研修委員会による研修会。

11月～12月にオンライン開催・オンデマンド配信にて開催予定。

(6) 研修会活動

これまで実施してきた研修分科会および研究分科会の活動を以下の通り3つの研修活動として実施する。

①初任者研修

②PB (Project/Problem Based) 研修

③スキルアップ研修

(7) オンデマンド研修

双方向型のラーニングデザインによるインタラクティブな研修を実施する。

1) 「雑誌コース」 7月下旬～10月下旬に開講。

2) 「図書コース」 11月初旬～1月下旬に開講。

(8) 研究部報告書

2021年度の研究部活動記録を6月に発行する。

以上

2022年度 私立大学図書館協会東地区部会 研究部
予算(案)
(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	22年度予算(A)	21年度予算(B)	差異(A-B)	備考
部会交付金	2,499,295	2,915,000	△ 415,705	2016年度より支出に応じた交付
研究会(報告大会)参加費収入	0	0	0	
研修会参加費収入	0	25,000	△ 25,000	
雑収入	500	500	0	預金利息等
小計	2,499,795	2,940,500	△ 440,705	
前年度繰越金	1,634,305	0	1,634,305	
合計	4,134,100	2,940,500	1,193,600	

支出の部

科目	22年度予算(A)	21年度予算(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)開催費	150,000	130,000	20,000	講師謝礼等(3名分)
研究部(報告大会)開催費	0	0	0	
研究会(交流会)開催費	0	0	0	
研修活動報告会開催費	150,000	0	150,000	
研修会開催費	150,000	800,000	△ 650,000	研修会開催費他
研修会(地域研修)開催費	0	0	0	
オンデマンド研修費	450,000	492,000	△ 42,000	システム・ネットワーク費、研修運営費
運営委員会費	50,000	100,000	△ 50,000	
運営委員会・研修事業委託業者合同会議開催費	10,000	10,000	0	年2回(5月・11月)
分科会助成金	390,000	175,000	215,000	
内訳				
基本助成	90,000	60,000	30,000	@30,000円×3分科会
割増助成会員	300,000	115,000	185,000	2022年度会員予定数75名(初任者研修:25名+PB研修:20名+スキルアップ研修:30名)×@5,000円 (割増助成金の上限は1団体100,000円)
特別助成金	2,459,100	828,500	1,630,600	
内訳				
研究分科会支援金	0	200,000	△ 200,000	2021年度で終了(PB研修、スキルアップ研修に移行)
研修分科会支援金	0	628,500	△ 628,500	初任者研修に移行
初任者研修支援金	493,000	0	493,000	
PB研修支援金	903,000	0	903,000	2コース想定
スキルアップ研修支援金	1,063,100	0	1,063,100	3コース想定
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動 (運営委員会・研修委員会含む)
印刷費	0	80,000	△ 80,000	
内訳				
研究部報告書	0	0	0	2018年度を以って電子化
研究部用封筒印刷代他	0	80,000	△ 80,000	封筒、チラシ作成他
通信費	25,000	25,000	0	
運営事務費	50,000	50,000	0	振込手数料他
小計	4,034,100	2,840,500	1,193,600	
予備費	100,000	100,000	0	
合計	4,134,100	2,940,500	1,193,600	
東地区部会への戻入額	0	0	0	
総計	4,134,100	2,940,500	1,193,600	

《関係規程》

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)
(2000 年 6 月 9 日 改訂)
(2004 年 6 月 18 日 改訂)
(2017 年 6 月 9 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下「会則」という。）第 28 条第 1 項第 3 号、第 33 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下「東地区部会」という。）に研究部を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下「研究部担当理事校」という。）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 33 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は、研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は、東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は、当該研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は、第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名

- ② 運営委員 8名
(東地区部会役員校3名 東地区加盟校5名)

第7条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第8条 運営委員は、隔年4月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、その運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他研究部の運営に関する事項

第11条 研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は、別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。
- 9 本改訂細則は2017年4月1日よりこれを実施する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

(2015 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する正会員 3 名以上をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。ただし、やむを得ぬ事情により会期中に正会員数が 3 名未満となった場合、研究部は活動の継続を認めることがある。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を申請するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第8条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。

第9条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。

第10条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。

2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第11条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月25日までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。

第12条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。

第13条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。

第14条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。

第15条 研究分科会代表者は、毎年2回（5月・11月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。

第16条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004年4月1日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005年4月1日から施行する。
- 3 本申し合わせは、2015年4月1日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和 56 年 4 月 1 日制定)

(平成 2 年 4 月 1 日改正)

(平成 8 年 3 月 28 日改正)

(2016 年 12 月 9 日改正)

第 1 条 この規則は、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下「研究部」という。）に設置する研修委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 条 委員会は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、次の活動を行う。

- ① 研修会等に関する情報の収集、提供
- ② 研修会等の企画、実施
- ③ 関連する機関、団体との連絡・協力
- ④ その他目的達成のために必要な活動

第 3 条 委員会は、6 名以上 8 名以内の委員をもって構成し、うち 1 名もしくは 2 名は研究部担当理事校（以下「担当理事校」という。）から選出する。

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は、担当理事校の担当期間とする。

第 5 条 委員に欠員が生じた場合はこれを補充するものとし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 6 条 委員会に、委員長 1 名及び副委員長 1 名を置く。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議事を進行する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

第 7 条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 3 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第8条 委員長及び委員は、東地区加盟館から研究部担当理事（以下「担当理事」という。）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

2 第6条に定める副委員長は、委員長が指名する委員をもって充てる。

第9条 委員長は、委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、必要に応じて実費を徴収することができる。

第11条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については、研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

1 この規則は平成8年4月1日より施行する。

2 この改正規則は2017年4月1日より施行する。

《別紙1：研修分科会報告書》

2021 研修分科会報告書

—「コロナ禍で大学図書館の
役割を問い直す」—

私立大学図書館協会東地区研究部
2021 | 研修分科会



2021 研修分科会報告書

—「コロナ禍で大学図書館の役割を問い直す」—

私立大学図書館協会東地区研究部 2021 研修分科会 編集

2021 年 12 月 28 日発行

私立大学図書館協会東地区部会 2021 研修分科会参加者

北里大学 白金図書館	梅内美鈴
共立女子大学短期大学 図書館	横塚麻里
慶應義塾大学 信濃町メディアセンター	西崎亜砂子
慶應義塾大学 メディアセンター本部	竹田咲子
国際基督教大学 図書館	砂田ゆとり
国立音楽大学 図書館	小山照美
駒澤大学 図書館	北原敦子
昭和薬科大学 図書館	横田浩一
実践女子大学 図書館	中村陽子
聖徳大学 図書館	小林夏子
大正大学 図書館	伊藤美雲野
中央大学 図書館	高木隼人
帝京大学 メディアライブラリーセンター	古屋敷果歩
日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学図書館	阿部なつき
日本体育大学 図書館	高橋典子
日本体育大学 図書館	菊地紗彩
法政大学 市ヶ谷図書館	有川博隆
法政大学 多摩図書館	胡本文耀
明治学院大学 図書館	茂木みな
明治大学 学術・社会連携部図書館	吉光寺美和子
立教大学 図書館	川岸哲平
立正大学 図書館	松原昂希
和光大学 図書館・情報館	鍬形七海

目次

はじめに	1
第1回「コロナ禍で大学図書館の役割を問い直す」.....	2
第2回「電子ブックのこれから」.....	4
第3回「バーチャルライブラリーツアー試写会」.....	6
第4回「オープンサイエンスの世界」.....	8
第5回「情報サービス:その裏側の技術から」.....	10
第6回「図書館と学生との協働 :その目的と効果を検証」.....	12
おわりに.....	14

はじめに

コロナウイルスの蔓延によって、大学ではオンライン・ハイブリッド授業が盛んになるなど、あらゆる方面でのデジタル化が推進された。図書館では全く来館できない時期があり、これまで行ってこなかった業務、宅配貸出や動画作成、HP 上にアップするための資料作成等デジタル化が進んだ。以上の背景から図書館職員に新たなスキルが求められるようになった。

このような背景から 2021 年度研修分科会は、第 1 回「コロナ禍で大学図書館の役割を問い直す」、第 2 回「電子ブックのこれから」、第 3 回「バーチャルライブラリーツアー一試写会」、第 4 回「オープンサイエンスの世界」、第 5 回「情報サービス：その裏側の技術から」、第 6 回「図書館と学生との協働：その目的と効果を検証」をテーマにオンラインで開催された。参加するにあたり、「教えてもらう」とは少し異なった「自ら学ぶ」姿勢で問題意識を持ち解決に向けて考える PBL（問題解決型）を意識して学んできた。この研修を通じて大学図書館サービスの高度化に資することが学べたのではないだろうか。

本報告書では、各回の「テーマの趣旨」、「講演内容」、「実習・ディスカッションの内容」、「学びと考え」をまとめるとともに、大学図書館の役割とは何か、大学図書館の職員に求められる新たな能力とは何か考える。また、報告書の作成を通じて、図書館職員として今後どういった知識・技術の研鑽をしていくべきか検討する機会としたい。

文責 菊地紗彩（日本体育大学）

小林夏子（聖徳大学）

横田浩一（昭和薬科大学）

第1回 「コロナ禍で大学図書館の役割を問い直す」

① テーマの趣旨

アウトソーシングやコロナ禍によって大学教育や大学図書館の在り方が変化
する中で、専任職員には従来の図書館業務だけでなく、マネジメント力が求め
られている。大学図書館の置かれた現状や今後の動向を学ぶことで、自分の図書
館を見つめ直し、大学図書館の役割や未来を考えることを目的とする。

② 講演内容

タイトル：『新しい大学教育を創る コロナ禍で図書館の役割を問い直す』

講演者：松本美奈氏（ジャーナリスト）

① 図書館の価値

コロナ禍において必ずしもキャンパスが必要とされなくなった今、図書館の
存在価値も変化している。「大学における教育研究活動を支える大学図書館」と
言われているものの、図書館の利用方法すら知らない学生がほとんどで、蔵書や
アクティブラーニングを学生とつなげることができていないのが現状である。

図書館の書架には、「古今東西の知に対する畏怖」「インターネットにはない総
覧性」「実際に手に取ることで思考が広がる発散と収束」があり、分類法そのも
のが教材として機能する可能性を持っている。存在意義を売り込むためには、教
員はどんな本を読んでいるか、どのような授業をしているかを知り、授業とタッ
グを組んでいく取り組みも必要となってくる。

② 事例

帝京大学の授業において図書館員とともに授業課題にまつわる書架を作る取
り組みを行っている。側面が黒板になっており、館内に分散させて配置すること
で学生が館内を歩き回るように誘導する工夫がなされている。また、「1行読書
100字書評」という、冒頭の1行のみを読んで書評を書くという取り組みでとに
かく本を手にとらせて想像力を働かせることも行っており、書いたものを図書
館に貼りだすことで学生の足が向かうよう工夫している。

③まとめ

大学図書館の職員は他部署と比べて一步引いた立場に立つ人が多いという印象を語り、図書館の存在意義を売り込んで存続させるためには、授業との共同、教員・学生を巻き込んだ積極的な取り組みが必要となると述べた。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

課題：今の図書館にとっての問題点は何かを3つ考える

ディスカッション：5グループに分かれて、それぞれの図書館が現在抱えている問題点・課題を出し合った。全グループに共通して、電子ブックの予算や選定方法、職員の専門性の維持、書架の狭矮化など設備面の使い方が挙げられた。また、コロナ禍における図書館利用の制限及びオンライン移行への対応についても各グループで話し合われていたようだった。

④ 学びと考え

大学図書館は、情報資源や学習の場を設えて提供するという従来の役割を継続するだけでなく、学生の関心を集め新たな活用法を引き出す工夫が求められている。講演で例示された授業との連携による学生参加型の課題など、外部との交流によって新たな価値を生み出していくことができると学んだ。松本氏が自身の経験から、学生は何か夢中になれることをしたいと望み、役割を与えると生き生きと取り組むと語っていたのが印象的であった。一方で、窓口に来てもちから声をかけないと話せない学生が多く、普段の図書館サービスにおいても、利用者を待つだけでなく、巻き込んでいく姿勢が必要とされている。

教員への働きかけにより新たな取り組みを行うことで、図書館の従来の役割だけでなく、新たな存在価値をアピールし可視化していくことが重要である。

文責 阿部なつき (日本赤十字秋田看護大学)

鋤形七海 (和光大学)

高橋典子 (日本体育大学)

第 2 回 「電子ブックのこれから」

① テーマの趣旨

コロナ以前、電子ブックは大学図書館において、全体的に定着が進んでいるとは言えない状態であった。しかしこのコロナ禍をきっかけとして、一気にその存在が注目されることになった。

しかしながら、電子ブックの導入には様々な課題が山積している。物体としての形をもたない電子ブックをいかに利用者に周知し利用を促進していくのか。また、いずれの大学図書館も予算削減が求められる中で、冊子体書籍に比べ高額な電子ブックをいかに提供していくか。そういった大学図書館が抱える様々な課題を検討することを目的とする。

② 講演内容

タイトル：『電子ブックのこれから』

講演者：西田和之氏（紀伊國屋書店）

KinoDen は特に専門書を扱う和書電子ブックのプラットフォームである。コロナ禍において電子ブックの特長が評価され、図書館への導入が進んでいる。課題は、図書館業務において電子ブックを扱うワークフローや選書基準等が確立していないことである。コンテンツ数の不足などベンダーや出版社と一緒に取り組むべき課題もある。

タイトル：『海外電子出版・電子書籍動向』

講演者：川村俊之氏（紀伊國屋書店）

全世界の電子出版について、市場の成長が見込まれている。またアメリカの図書館において、図書館予算に占める電子の割合が増えている。

OA2020 や PlanS が活発である影響を受けて、アメリカの教科書市場では電子ブックのオープンアクセス(OA ブック)化を進める動きがある。資金獲得についてはクラウドファンディング型などの試みがなされている。

出版社の動きについて、海外の学術大手出版社は大部分のブックを電子化済みである点が日本の出版社との違いである。価格体系は世界的に買切モデルが主流だったが、年間購読モデル(サブスクリプション)の試みが出てきた。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

課題：学習支援に電子ブックを活用するためには

ディスカッション：グループ討議（以下、話題に上がったトピックを列挙）

- 1.接続：学生が電子ブックを使用する際に接続方法が分からないことがハードル。
- 2.入手性：学生から購入希望が寄せられた資料が、必ずしも電子版になっているとは限らない。紙の資料に比べ電子版は高額であることが課題。
- 3.利用者への周知：目に見えるものではないので、存在をいかに学生に周知するかが鍵。

④ 学びと考え

全世界的な電子出版の動向や、電子資料への需要の増加の観点などから、日本の大学図書館でも電子ブックの導入を進めていくべきである。そのために、様々な面でのハードルを解消する必要がある。

まず、学内における広報の課題がある。学生への広報としては教員から薦めてもらうのが効果的であるため、まずは教員へ呼びかけ、教員から利用促進するような雰囲気を作り出す必要がある。

次に、リテラシー教育の課題である。教育機関として、正しい利用方法を伝えることや、学習・研究への有用性を示すことは重要な役割である。

最後に、電子ブックのタイトル数が少ないこと、価格が冊子に比べて高価であることなど、電子ブックの購入のしにくさの課題がある。出版社が交渉の場についてくれない現状があるため、大学図書館として、コンテンツの改善にどう働きかけたら有効かを考える必要がある。

文責 北原敦子（駒澤大学）

竹田咲子（慶應義塾大学）

茂木みな（明治学院大学）

第3回「バーチャルライブラリーツアー試写会」

① テーマの趣旨

例年の研修分科会では夏季図書館見学ツアーを行っていたが、今年度はコロナ禍ということもあり、ツアーの開催は厳しい状況だった。代替として、各自で図書館紹介動画を作成し、その試写会を行った。図書館をアピールするための動画作成技術を磨くこと、また技術だけでなく、短時間で魅力的に表現することを目標とした。試写会の後、各自で作成した動画の創意工夫のポイントを解説し、最後に投票でバーチャルライブラリーツアー賞を決めた。

② 講演内容

島田貴司氏（立正大学）によるプレミアム試写会

「私立大学図書館協会 2011 年度海外集合研修動画（2012 年度国立情報学研究所大学図書館職員短期研修で上映）」の鑑賞

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

課題：図書館紹介動画作成

内容：各自の図書館を紹介する動画を作成する。動画時間は5～8分とした。また、図書館を紹介する対象(相手)は各自で設定し、新入生、学外者、一般広報、他大学図書館など多岐に渡った。

④ 学びと考え

当日鑑賞した動画には、豊富なアイデアが詰まっていた。例えば、ストリートビューやアバター、動画ソフトなどの技術的なアイデアや、学生になりきったり、マスコットキャラクターが案内役になったり、右上にマップを配置しておくなど見る側の立場になったりなどの工夫が見られた。バーチャルライブラリーツアーでは、様々な動画技術やアイデアを共有できたことが収穫である。現代の学生は、動画に触れる機会が多くなっている中で、図書館の魅力を発信するためには、職員も高い技術と表現力を習得する必要があると感じた。新しい図書館サービスの一つとして、来館が困難になった利用者にも動画などオンラインサービ

スを提供できるようにしていきたい。またポストコロナ時代においては、各大学でバーチャルライブラリーツアーが普及することを目指したい。

文責 有川博隆（法政大学）

伊藤美雲野（大正大学）

吉光寺美和子（明治大学）

第4回 「オープンサイエンスの世界」

① テーマの趣旨

2021年7月に日本私立大学連盟から『ポストコロナ時代の大学のあり方』という提言を受け、図書館職員の在り方が再度見直されつつある。現在、求められる図書館員像の一つが研究データを管理するデータ・ライブラリアンかもしれない。

図書館界では、ここ数年「データ・ライブラリアン」を目指す傾向がある。第4回では、身近な図書館業務になりつつある機関リポジトリについて知り、そのデータの組織化・構造化・保存・共有・公開・再利用を支援することが、図書館の役割となっていることについて学んだ。

② 講演内容

タイトル:『「オープンサイエンス」の世界に踏み入れる図書館員のみなさまへ』

講演者: 田辺浩介氏 (国立研究開発法人 物質・材料研究機構)

オープンサイエンスとは、研究成果に容易にアクセスできること。また、そのための技術、システム、政策のことを指す。

2013年G8サミットからオープンサイエンスの必要性が議論されはじめた。近年国内においても大学での研究成果については、公費を使用していることや学術研究の進展に欠かせない等の理由で、公にすべきであるとなり、オープンサイエンスが進められてきている。

研究者が容易にアクセスできたり、データを利用したりするためには、データを一意に識別するために識別子 (ID) の付与が重要である。代表的な識別子には、DOI や Handle などが挙げられる。また、各コンテンツへのアクセスは WebAPI によるものが多く、国際的に共通した登録が必要となる。

実例として、Materials Data Repository (MDR) が紹介された。論文や学会発表等に加え、材料データを収集・保存し、物質・材料研究の推進やマテリアルズ・インフォマティクスに適した形で公開するためのデータリポジトリである。利用者は材料に関するメタデータ項目や全文検索で文献・データを探し、閲覧・ダウンロードすることが可能である。

このような中、データ・ライブラリアンに求められるのは、学内の他部署や研究者との協力ができる職員である。また、機械に読みやすいデータを作るなどの能力が必要となる。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容課題

課題：自分が所属する機関のリポジトリ業務を知る

研修分科会参加者 23 名の所属館は機関リポジトリを導入していたが、何かしらの識別子を付与しているのは 10 館のみであり、オープンアクセス環境が十分に整っているとは言えなかった。機関リポジトリ運営に関する悩みとしては「専門的な知識の不足」「コンテンツの充実」「関係部署間での情報共有、連携不足」等が挙げられた。

④ 学びと考え

大学図書館は社会における知的基盤として、デジタル・非デジタルを問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能とする環境を整える必要があることがわかった。まずは、学内の機関リポジトリを整備し、識別子を付与していくことが、オープンサイエンスへの第一歩となるだろう。

より一層データの組織化・構造化・保存・共有・公開・再利用を支援するためには、研究者をはじめ、学内関連部署とのコミュニケーションを取り、どのように情報を整理したら利用しやすいのか、大学図書館として主体的に取り組むべきだと考える。

文責 川岸哲平 (立教大学)

小山照美 (国立音楽大学)

横塚麻里 (共立女子大学)

第 5 回 「情報サービス:その裏側の技術から」

① テーマの趣旨

図書館業務の技術向上には、「読み・書き」の両面からのアプローチが求められる。情報管理としてメタデータを作成する「書く」業務では、データが利用者にとどのように使われるかを事前に想像する必要がある。一方、レファレンスや ILL のサービスを円滑に提供するためには、「読む」技術が求められる。データの所在や出所を把握しておくことは、読む技術の向上に有用だ。

利用者に対して満足いく回答をするためには、常に最新の情報サービスツールを使いこなせる状態を保つことが理想である。利用者が求める情報を手に入れるまでを情報サービスと捉え、レファレンスと ILL やレフェラルサービスについて考える機会としたい。

② 講演内容

タイトル：『情報サービス：その裏側の技術から』

講演者：林賢紀氏（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 情報広報室 広報資料科 情報高度利用専門職）

テーマの趣旨を念頭に、情報データサービスの技術面について以下に挙げるトピックや事例の技術的特徴や変遷、現状について解説を受けた。

- ・ CiNii Books および CiNii Articles と電子リソースの関係
- ・ 国立国会図書館サーチ：ファイル投入および API 連携による統合的な検索
- ・ リンクリゾルバ、ディスカバリーサービス
- ・ 検索システムとしての Google 及び Google Scholar
- ・ 情報サービスを実現するための技術：JPCOAR スキーマ、DCNDL 等
- ・ データ同士をつなげる技術：DOI、ORCID、VIAF、LOD の構造や技術的特徴

情報サービスがどのように作られているか（メタデータの収集・交換、データの粒度等）を意識すること、OPAC・機関リポジトリ等、広く公開され「みんなが検索できるデータ」として流通するからこそ、データを作成することが重要である。

また、実習課題について、「実際に検索」する際のポイントを押さえること、紹介文作成にあたっては「利口者の要求」を5W1Hで整理してサービスにつなげることが挙げられた。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

事前課題：各自の大学で導入している有料データベースの中で、使われる頻度の高い3つを用いて実際に検索し、その紹介文と取り扱い説明（検索上の注意点等）をまとめる。可能であれば収録されている（メタ）データがどこから来ているか、また、どのように作成されているかについて考え、Google Form上に記入する。

実習：事前課題で挙げられた複数のデータベースに関する質問がいくつか用意されており、検索する等の方法で質問の回答を作成する。1人あたり2つのデータベースが割り当てられ、調べるための時間として30分が与えられる。その後、回答の発表を行う。

④ 学びと考え

講義では、研究データポリシーの策定が今後義務付けられると言及があり、図書館員は図書館を取り巻く環境の変化に対応していく必要があると学んだ。また、課題を通して、データベースとレファレンスとの関係性について実践的に学んだ。GoogleやWikipediaで欲しい情報が簡単に手に入る近年では、利用者は検索を行い求めている情報が見つからない場合、情報を見つけられないのではなく情報そのものがないと考える。そのため、図書館員は利用者が求める情報検索に適したデータベースを案内する必要がある。

図書館が提供できる情報サービスとして、Webサイト上でのデータベースのカテゴリズを利用者に対して分かりやすくすることや、欲しい情報への誘導をスムーズにする画面のデザインを考えることが挙げられる。

文責 梅内美鈴(北里大学)
砂田ゆとり(国際基督教大学)
高木隼人(中央大学)

第 6 回 「図書館と学生との協働

: その目的と効果を検証」

① テーマの趣旨

大学図書館サービスは各々の大学における教育・研究支援を実現するうえで重要な役割を果たすが、図書館職員のみ働きで十分に機能するものではなく、教育の主体を担う教員との協働が不可欠である。主体的な学び・アクティブラーニングの重要性が取り上げられてから、既に相当の期間を経ており、ラーニングコモンズなど学修環境の整備は各大学での相当な努力により成果を上げてきている。

多くの大学において学生が図書館・情報センター等の各組織のスタッフの一員として参加する形で協働の具体的な実態が大学ごとに様々な形で進んできた。これらの背景を踏まえて、図書館での学生との協働を検証することにより、今後の図書館サービスの目標・課題等を共に考えた。

② 講演内容

タイトル：『学生と図書館との協働』

講演者：茂出木理子氏（東京工業大学 事務局参事 兼 研究推進部情報図書館課長）

東京工業大学をはじめとする様々な国立大学図書館での学生協働について豊富な事例や協働を行うに至った過程が紹介された。九州大学附属図書館の「図書館 TA (Cuter) と協働した学習支援活動による図書館サービスの高度化」が、令和 3 年度国立大学図書館協会賞を受賞した例に触れ、組織としての「仕掛け作り」も行いつつ、新しいことに挑戦し、楽しく前向きに楽しんで、学生と取り組んでいくことが、今後、図書館サービスの高度化に資する図書館職員につながると結んだ。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

課題 1：参考サイトを読む

茂出木理子氏 『東工大生の、東工大生による東工大生のための』謎解き
脱出ゲームを実施して ～『任せ・きる』視点からの学生協働～

ラーコモラボ通信 第 76 号 2017.11.26

https://note.com/riko_m/n/n6956ca524c91

課題 2 : 各自、学生との協働事例調査を行う

学生との協働企画の目的、概要、学生団体名（愛称）、大学院生等のアドバイザー、アシスタントの活用有無、学生アルバイトの有無、「学生との協働」での議論の有無等

④ 学びと考え

学生との協働は比較的新しい試みであり、全ての大学図書館が取り組んでいる状況ではなく、また取り組んでいる大学であっても、その協働の在り方は様々な形態があることを実習を通じて各大学参加者で共有した。その形態を大きく分けると、①授業の一環として正課としての取組、②大学の課外活動として行うボランティアとしての取組、③奨励金を支払うアルバイトのような位置付けとしての取組の 3 つに大別できた。また、現在取り組んでいない大学においては、上記 3 つの取組のうち、どの形態で実施し、どのように内規等の制度設計を行うかを課題として検討していることが分かった。茂出木理子氏の講演内容にもあったが、大学図書館とは、よく利用する学生にとっては、非常に身近な存在であり、大学内でも学生との関係が非常に濃密な部署であると言える。しかし、全学生からの視点で見ると特定の学生に限られてしまうため、学生と図書館の関係性が淡泊に見える一面もあり得る。そういった相反する二面性からの突破口として学生との協働は効果的な取組であると考えている。

文責 胡本文耀（法政大学）

中村陽子（実践女子大学）

古屋敷果歩（帝京大学）

おわりに

2021 年度研修分科会は、全 6 回の活動を Zoom によるオンライン形式で行い、「コロナ禍で大学図書館の役割を問い直す」を大きなテーマとして、大学図書館のサービス等について学んできた。

従来であれば、第 3 回は実際に図書館を訪問し見学するという内容だったが、今回は参加者が各自の勤務する図書館の紹介動画を作成し、それを共有するという試みがなされた。これまでは訪問した大学の図書館しか見学ができなかったが、オンラインになったことで、画面越しにはあるが参加校すべての図書館を見学できた。対面の良さがある一方、オンラインならではのメリットもあることを実感した研修となった。

図書館利用者に提供するサービスについても、いまやオンラインという観点は欠かせないものになっている。また、オープンサイエンスの推進を背景として、研究データ管理に携わる図書館員の育成が注目を集めるなど、図書館員に期待される役割はますます多様化している。大学図書館の在り方は、今まさに転換点にあるといえるだろう。そのような変化の激しい時代においては、我々が自ら課題を発見し解決に取り組んでいく姿勢が必要であると、今回の研修分科会を通じ学ぶことができた。

最後に、研修分科会の実施にあたり、ご講演いただきました講師の皆様には大変お世話になりました。今年度は初めてのオンライン開催となり、直接お会いすることは叶いませんでしたが、多くの貴重なお話を伺うことができました。講師の皆様、またご調整いただきました大学図書館支援機構の高野様に、この場を借りて御礼申し上げます。

文責 西崎亜砂子（慶應義塾大学）

松原昂希（立正大学）

2021 研修分科会報告書

「コロナ禍で大学図書館の役割を問い直す」

2021 年 12 月 28 日

編集・発行 私立大学図書館協会東地区研究部 2021 年研修分科会

<https://jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/index.html>

《別紙2：研究講演会資料》

高等教育・学術的観点（「学習の共同性と社会性」「デザイン」）からの提起

バックキャストिंगで考える 学びの場のデザイン

2021.06.05

公立はこだて未来大学

美馬 のゆり

©2021 Noyuri Mima



1996年6月に

- 情報系の大学を作って欲しい
- 30代、数名、情報系の研究者
- これからの情報工学とは
- 人が「学ぶ」とはどういうことか
- 人工知能にできることできないこと



©2021 Noyuri Mima



教える ≠ 学ぶ



©2021 Noyuri Mima

学習理論の変遷



行動主義



認知主義



状況主義

©2021 Noyuri Mima

学習観の転換

いままでの学び



知識を貯め込む

これからの学び



対話し創り出す

©2021 Noyuri Mima

学習環境のデザイン

[空間]	ハードウェア	建築、教室、什器
[活動]	ソフトウェア	カリキュラム、運営
[共同体]	マインドウェア	こころもち、教職員



2005年

「未来の学び」をデザインするー空間・活動・共同体ー

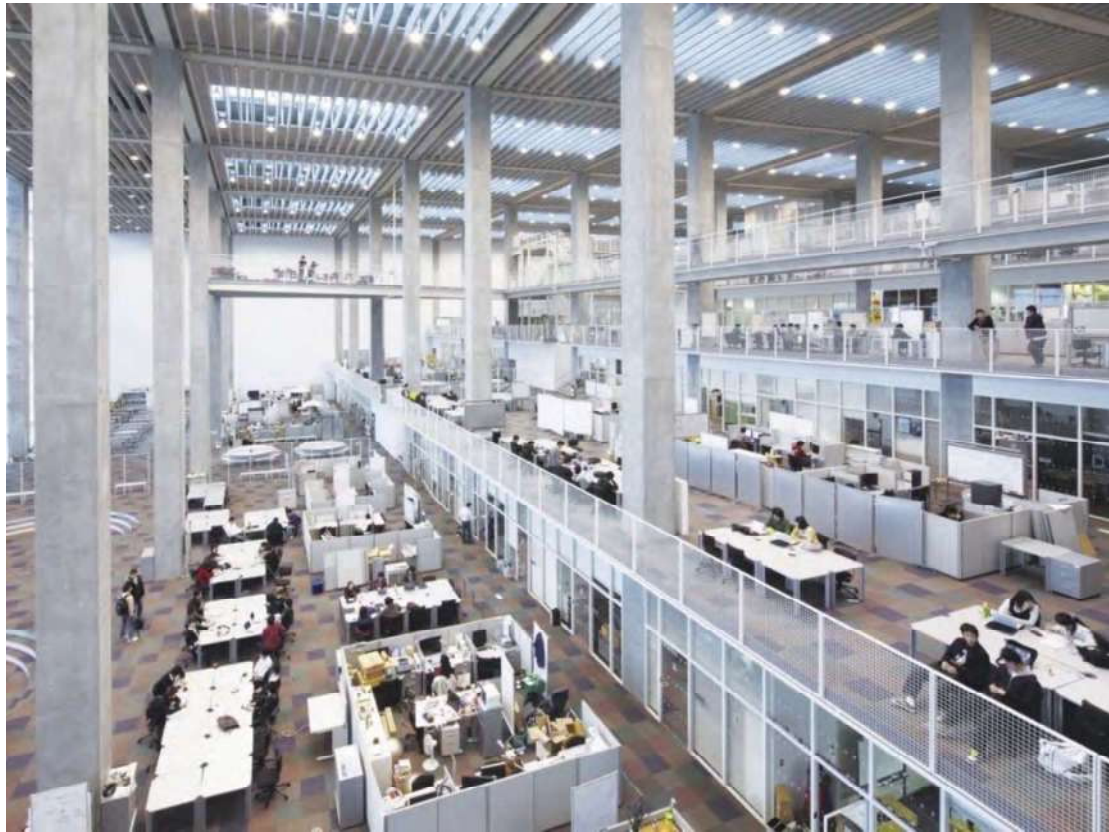
©2021 Noyuri Mima

空間

Learning Spaces

©2021 Noyuri Mima





可視性

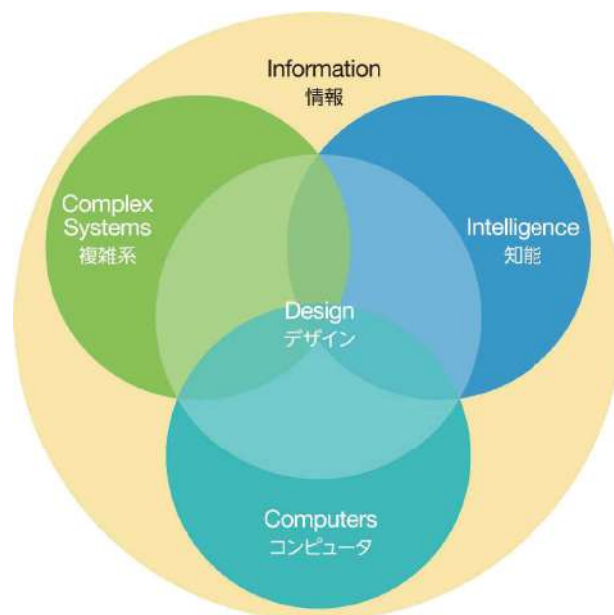
- 現実空間
 - 活動が互いに見える
- 電子空間
 - 情報の共有と蓄積
- 見えることが学びの機会に
 - 見て、考え、行動する

活動

Learning Activities

©2021 Noyuri Mima

Computer Science & Design



©2021 Noyuri Mima

Project Based Learning プロジェクト学習



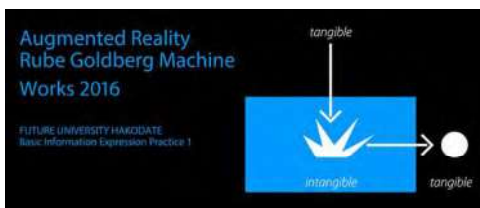
©2021 Noyuri Mima

(2002~)



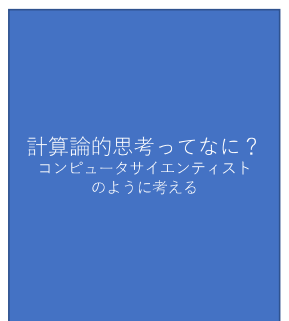
(2018) 未来大学出版会

Programming & Design モノづくりを通じた学習



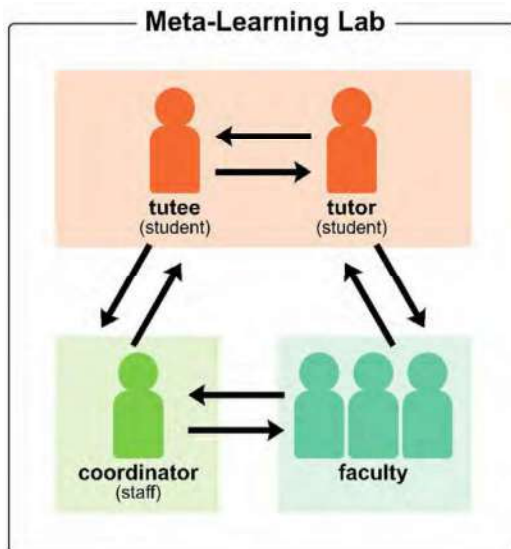
©2021 Noyuri Mima

(2008~)



(2021秋) 未来大学出版会

Peer Tutoring メタ学習ラボ

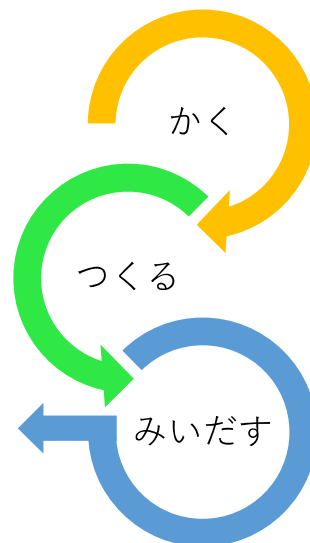


©2021 Noyuri Mima

(2012~)

モノづくりを通じた学習

- モノづくりを通して学ぶ
 - 形あるものだけではない、イベント等の活動でもよい
 - 21世紀型スキル、デザイン思考、計算論的思考
- モノづくりを通じた学びの3段階
 - かく（外化）
 - できあがりイメージして絵や言葉にする
 - つくる（具現化）
 - 試行錯誤を重ねながら作り上げる
 - みいだす（概念化）
 - 振り返り、原理や法則を見出す
- 汎用性のある考え方
- 新たな状況への適用



©2021 Noyuri Mima

自己調整学習

- 学習過程に対する能動的関与
- AARサイクル

OECD
Education2030

- 予見 Anticipation
- 遂行 Action
- 省察 Reflection

遂行段階

<自己コントロール>

課題方略
自己教示
イメージ化
時間管理
環境構成
援助要請
興味の喚起
結果の自己調整

<自己観察>
メタ認知モニタリング
自己記録

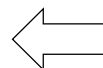


予見段階

<課題分析>
課題設定
方略計画

<自己 動機付け 信念>

>
自己効力
結果維持
課題への興味/価値
目標志向



省察段階

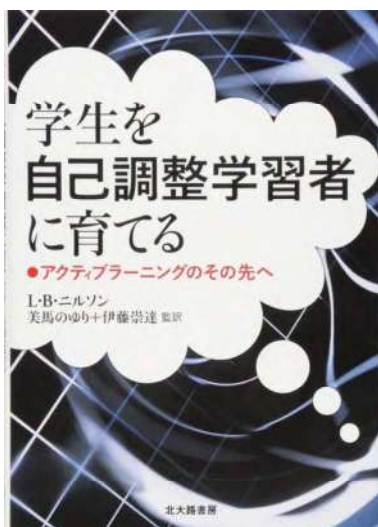
<自己判断>
自己評価
原因帰属

<自己反応>
自己充足/情動
適応的/防衛的

©2021 Noyuri Mima

学習設計マニュアルp.194より

自己調整学習者を育てる 自己調整学習者になる



(2017)



(2018)

©2021 Noyuri Mima

共同体

Community

©2021 Noyuri Mima

多様な教育スタイル



©2021 Noyuri Mima

多様な学習スタイル



©2021 Noyuri Mima

授業のオンラインとオフライン

- ハイフレックス型
 - 同じ内容の授業を、対面とオンラインで同時に行う授業方法
- ブレンド型
 - 対面とオンラインを、教育効果を考えて組み合わせる授業方法
- 分散型
 - 同じ回に異なる内容の授業を対面とオンラインで行い、学生は分散して受講する授業方法
- 図書館はどうなる？

©2021 Noyuri Mima

<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/hybrid.php>

オンライン プロジェクト学習 成果発表会2020



<https://www.fun.ac.jp/>

©2021 Noyuri Mima

多様なスタイルを保証する

- 多様な教室
- 多様な学習場所
- 多様な居場所
- 「はらっぱ」と「すみっこ」

©2021 Noyuri Mima

関係性で決まる機能

- 未来大の場合
 - ライブラリーは静かに一人で作業をする場所
 - ∴大学全体が巨大なコモンズなので
- 10年後、20年後
 - 大学のキャンパスは存在しているか、存続するか
 - 図書館の持つ機能はどうか
 - ライブラリアンはどうか
 - そのために今からできること

©2021 Noyuri Mima

本質を問うことから始める

- 人が学ぶとはどういうことか
- 大学とはどういうところか
 - 場所、機能、組織
- 図書館とはどういうところか
- 大学図書館とはどういうところか

©2021 Noyuri Mima

本質のみつけかた

- 『感情の哲学入門講義』 源河 亨（げんか・とおる）
- 一番重要なもので、それが失われるともはやそれではなくなってしまうもの
- 例：冷蔵庫の本質

©2021 Noyuri Mima

どんな学びの場が理想か

- フォアキャストイング
 - 過去のデータや実績に基づいて、その上に少しずつ物事を積み上げ、改善していくやり方
- バックキャストイング
 - 将来を予測する際に、持続可能な目標となる社会の姿を想定し、その姿から現在を振り返って、いま何をすればよいかを考えるやり方
- 10年後、20年後を想像する
- 理想となる姿、社会、生活、大学、図書館とは？

©2021 Noyuri Mima

Future Empathic Design Program



©2021 Noyuri Mima

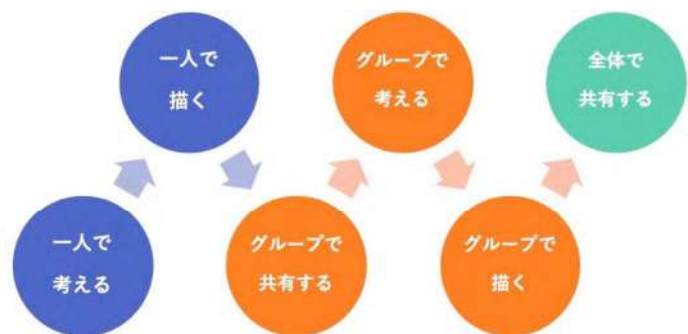
<https://www.facebook.com/FEDprogram>

FED workshop

- 参加者への課題
 - 個人と集団の幸福のために未来に向かって
 - 新しいテクノロジーを利用して
 - 20年後の未来の都市・地域・職場をデザインする

- ワークの流れ
 - 個人 → グループ → 全員

- 教材
 - tech-cards一式
 - ワークシート一式



©2021 Noyuri Mima

tech-card サンプル

表面

- 技術名
- 技術の絵
- 技術の説明

裏面

- 技術名
- 活用場面アイコン
- 活用事例

<p>3D プリンター</p>  <p>3次元のデータをもとに、立体物を造形するための機械。0.0mmのような人の手では再現できない形状で複雑な形を造形できる。</p>	<p>音声認識</p>  <p>音声の特徴から話者を識別したり、会話を文字に変換する技術。自動翻訳やAIスピーカーなどに幅広く利用されている。</p>	<p>GPS (全球測位システム)</p>  <p>衛星を通して地球上の現在位置を測定するシステム。行動の軌跡や住所を記録した場所を記録することができる。</p>	<p>ドローン (無人航空機)</p>  <p>遠隔操作型の小型航空機の一つ。カメラを搭載して空から撮影や写真がとれる。狭小な空間に左右される。</p>	<p>AR (拡張現実)</p>  <p>デジタル装置を通して現実世界にCG等のデジタル情報を加える技術。現実には起こり得ない状態や物理的に実現できない事を再現できる。</p>
<p>3D プリンター</p> <ul style="list-style-type: none"> 複雑な形状の部品を容易に作成できる。 家具や建物の複製。 食品用3Dプリンター。 	<p>音声認識</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンでの活用。 リアルタイム翻訳。 子供が学んだ言葉を認識し、反応を返す。 	<p>GPS (全球測位システム)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図での活用。 カーナビでの活用。 現実世界ゲームでの活用。 	<p>ドローン (無人航空機)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品の配達。 農業散布ドローン。 点検作業での活用。 	<p>AR (拡張現実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームへの活用。 商品のレビュー。 顧客への活用。

©2021 Noyuri Mima

<p>3D プリンター</p>  <p>3次元のデータをもとに、立体物を造形するための機械。0.0mmのような人の手では再現できない形状で複雑な形を造形できる。</p>	<p>音声認識</p>  <p>音声の特徴から話者を識別したり、会話を文字に変換する技術。自動翻訳やAIスピーカーなどに幅広く利用されている。</p>	<p>GPS (全球測位システム)</p>  <p>衛星を通して地球上の現在位置を測定するシステム。行動の軌跡や住所を記録した場所を記録することができる。</p>	<p>ドローン (無人航空機)</p>  <p>遠隔操作型の小型航空機の一つ。カメラを搭載して空から撮影や写真がとれる。狭小な空間に左右される。</p>	<p>AR (拡張現実)</p>  <p>デジタル装置を通して現実世界にCG等のデジタル情報を加える技術。現実には起こり得ない状態や物理的に実現できない事を再現できる。</p>
<p>AI (人工知能)</p>  <p>人の知的な動きをコンピュータ上で実現するシステム。一つの動作への自動化や学習を通して改善する仕組みがある。</p>	<p>VR (バーチャルリアリティ)</p>  <p>現実世界を仮想空間に再現し、没入感を得ることができる。没入感の中で体験できる。没入感の中で体験できないことも体験することができる。</p>	<p>ビッグデータ</p>  <p>データヘルスシステムでの活用。ビッグデータを活用して、AIと連携して分析することでビジネスなどに活用できる。</p>	<p>ICタグ</p>  <p>自動車などの識別や管理を行うために使われる。ICチップを埋め込んで識別が可能。識別の精度、識別の範囲によって用途が異なる。</p>	<p>チャットボット</p>  <p>人工知能を活用した自動会話プログラム。人が行った会話や質問に対して適切な回答を返すことができる。学習によって会話の精度が向上する。</p>

<p>画像認識</p>  <p>色や形を認識して、画像に基づいて物体を識別する技術。顔や物、場所を認識して、対応する処理を実行することができる。</p>	<p>ウェアラブルデバイス</p>  <p>身体に装着して活用する端末。心拍数や歩数などの身体情報の計測や、健康管理をサポートすることにより健康管理ができる。</p>	<p>eラーニング</p>  <p>インターネットを活用した学習方法。PCやタブレットを使用することで好きな時間に学習することができる。</p>	<p>遠隔会議システム</p>  <p>顔を見ながら遠隔でコミュニケーションできるシステム。遠隔地から参加し、リアルタイムでコミュニケーションが可能。資料の共有も容易である。</p>	<p>自動翻訳</p>  <p>文字や音声から言語を認識し、その場で自動翻訳を実施し出力することができる。音声や文字での翻訳が可能。</p>
<p>電子マネー</p>  <p>顔認識や、クレジットカードの代わりにデジタルデータを用いて決済する仕組み。決済の手続きが簡単で、スムーズな決済が可能になる。</p>	<p>SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)</p>  <p>インターネットを通して人間関係を築くためのコミュニケーション。SNSやブログなどを通じて、コミュニケーションが容易になる。SNSでも多く活用されている。</p>	<p>近距離無線通信</p>  <p>短距離で通信できる無線通信技術。BluetoothやWi-Fiなど、身近な機器に広く使われている。</p>	<p>コンピュータセキュリティ技術</p>  <p>コンピュータのセキュリティを確保するための技術。暗号化やアクセス制御など、データの不正アクセスを防ぐ。</p>	<p>生体認証</p>  <p>人間の生体特徴を利用して個人を識別する技術。顔認識や指紋認識など、本人の生体特徴を認証してセキュリティを確保する。</p>

©2021 Noyuri Mima

<p>ロボット</p>  <p>人に代わって作業を行う自律的な機械。人が行うには危険な作業や単純な作業に活用されている。高度なメンテナン스가必要。</p>	<p>IoT (internet of things)</p>  <p>インターネットを通して家電や電子機器といったモノに通信機能を持たせること。データの収集や分析が可能。高度なセキュリティが必要。</p>	<p>自動運転</p>  <p>乗り物の操作を機械が自律的に行うシステム。運転の自動化や渋滞の解消、乗客の負担の軽減に役立つ。</p>	<p>スキャナー</p>  <p>画像や文書、オブジェクトなどをデジタルデータに変換するための装置。データ化することで情報の活用が容易になり、効率化が進む。</p>	<p>スピーカー</p>  <p>電気信号を音波に変換して音を出す装置。音質や音量を調整できる。スマートスピーカーなど、インターネットと連携して音を楽しむことができる。</p>
---	---	---	---	--

図書館？

北海道の「食」の魅力をもとに、みんなが幸せになるために

幸せになるための
ホテルのデザイン

北海道には

・・・という
おいしいものがあるので

▼さらにパワーアップするためにこんな**学び**の機会があるとよい

なにを学ぶ (What), だれが学ぶ (Who), だれから学ぶ (from Whom), いつ学ぶ (When), どこで学ぶ (Where),
なぜ学ぶ (Why), どうやって学ぶ (How), なぜ学ばない (Why not), もし学んだら (What if)

場面①	場面②	場面③

▼さらにパワーアップするためにこんな**技術**が役立ちそう

なにを使う (What), だれが使う (Who), だれが作る (by Whom), いつ使う (When), どこで使う (Where),
なぜ使う (Why), どうやって使う (How), なぜ使わない (Why not), もし使ったら (What if)

技術①	技術②	技術③
Techカード 配置場所	Techカード 配置場所	Techカード 配置場所

なぜならこれら(食・学び・技術)
を組み合わせると

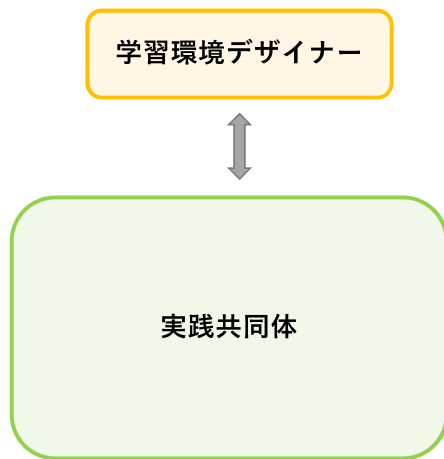
・・・なホテルができる
そうすると北海道は

・・・な
みんなが幸せなまちになる

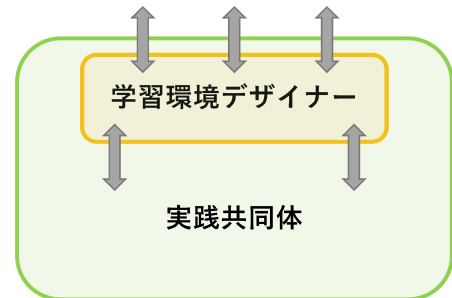
未来の「ホテル」をデザインする



学習環境デザイナー



学習環境デザイナーは
実践共同体の中に存在



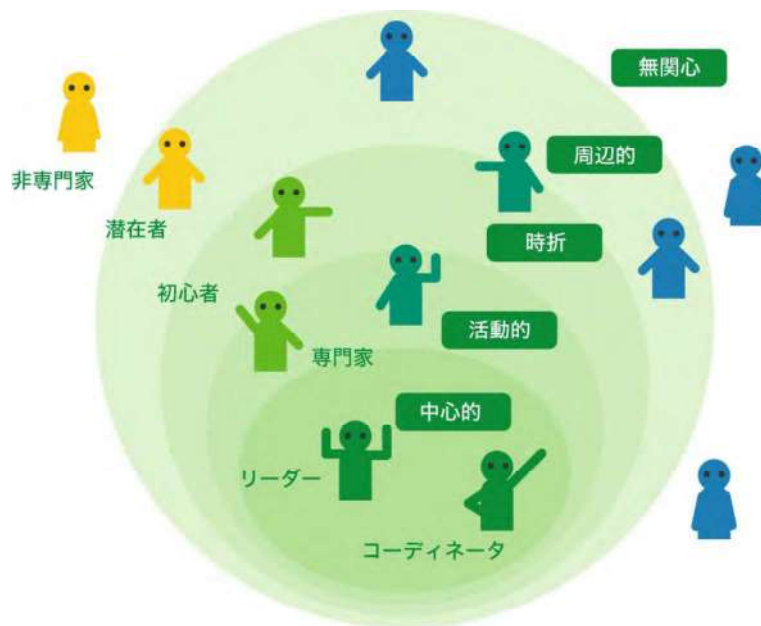
©2021 Noyuri Mima

マインドセットの変革と醸成

- 未来大学におけるFD・SDとは
 - 教職員個人としての資質の向上だけではない
 - よりよくなろうとする学習共同体（組織）の構築とその維持
- 大学教職員に求められているもの
- 大学の規模、地域、専攻によって異なる
- 自分たちで考えていく必要がある
- 必要なのは教職員の学習共同体

©2021 Noyuri Mima

学習共同体を育み、参加を促す



©2021 Noyuri Mima

41

学習環境のデザイン

[空間] ハードウェア 建築、教室、什器

[活動] ソフトウェア カリキュラム、運営

[共同体] マインドウェア ころもち、教職員

バックカスティングで考える **学びの場のデザイン**

©2021 Noyuri Mima

従来型の空間でも

- ハードウェアがなくても
 - ソフトウェア
 - マインドウェア
-
- “扉”を開けることはできる
 - 楽しんでいる姿を見せることはできる
-
- 学内の課題を解決するチームを作る
 - 学生、教員、職員が共同で

©2021 Noyuri Mima

共同体の進化



©2021 Noyuri Mima

「創造的な学修」の観点から見る、 海外(主に米国)の大学図書館における 学習環境のトレンド概観

2021年6月5日(土)
丸善雄松堂株式会社

Copyright 2021 MARUZEN-YUSHODO Co., Ltd.

講師プロフィール



増井 尊久

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation本部
事業開発部

- 2014年から2019年まで、当社と図書館総合展運営委員会が主催する「海外図書館研修」の企画・実施を担当。通訳として同行し、90館以上の図書館を訪問。
- デジタルファブリケーションを中心に、モノ・コトづくりを通じた学びを推進する学習環境の構築支援に取り組む。

1. 大学図書館の利用者像の変化
2. 大学図書館のトレンドに見る学習環境の変化
3. ポストコロナ時代の大学図書館のビジョン
4. Library as Platform:プラットフォームとしての図書館
5. 丸善雄松堂が考える「次世代ラーニングコモンズ」

1. 大学図書館の利用者像の変化



New Media Consortiumは新しいメディアやテクノロジーの教育における可能性を模索するNPO。2018年にEDUCAUSEが買収。



「コンテンツの消費を通しての学び」から「ものづくりと創造を通しての学び」へ



ACRLが2015年に策定した「情報リテラシーの枠組み」の検討タスクフォースのCo-Chairを務めたTrudi E. Jacobson他が提唱する概念。多様なリテラシーを包含する。



学習者＝「内省的(reflective)で情報に通じ(informed)、個人であるいは他者との協働の中で活動する情報のつくり手(producer of information)」



テキサス大学アーリントン校他4校が立ち上げたプロジェクト。IMLS(博物館・図書館情報サービス機構)の助成金をもとに活動。



「学際的かつ分野をクロスして適用可能な、メイカーベースのコンピテンシーをカリキュラムに織り込む」

テクノロジーの進歩によって作れるモノやできるコトが多様化したことで、学生は「情報の消費者」から情報を使った「モノやコト、知識の生産者」に変化している。

Mapping the Current Landscape of Research Library Engagement with Emerging Technologies in Research and Learning Final Report

発行日: 2021年4月9日

ARL(Association of Research Libraries, 北米研究図書館協会)他2団体(CNI, EDUCAUSE)の共同報告書

1. 情報発見と利用の支援

- ユーザー主体のディスカバリーツールへの投資
- 記述の質向上を通じたデジタルコレクションのアクセス改善
- 図書館システムを超えたコレクションやサービスの露出

2. 学術的・文化的記録(scholarly and cultural record) の管理

- オープンリサーチならびにパブリッシングの実践と推進
- 学術的・文化的記録の一貫性と信頼を強化する
- 進化する学術的・文化的記録の保存

3. デジタル学術活動(digital scholarship)の推進

- 分野に関係なく、ビッグデータにもスモールデータにも使えるデータサービスの開発
- machine-actionable(機械可読性+判断+動作)なコレクションの提供と維持
- データサイエンス教育やコンサルテーションの提供

4. 学習および成長支援(student success)の強化

- デジタルフルエンシーおよびデジタル研究(digital scholarship)に係るスキルの向上
- 学習を推進する大学全体のプラットフォームやイニシアティブとの連携
- 図書館内における先端技術へのアクセスの民主化

5. 学習及び協働スペースの構築と維持

- 図書館をリビングラボへ変革せよ
- 図書館スペースのユーザーエクスペリエンスの向上
- 空間計画と評価

図書館内における先端技術へのアクセスの民主化

- 図書館にメイカースペースやデータセンターを置くことが、先端技術へのアクセスを民主化、“脱サイロ化”し、分野を超えたコラボレーションや発見につながる
- ソフトウェアとハードウェア、コラボレーションスペース、そして技術に関するノウハウが図書館に集約されることで、教員が図書館に戻ってくるきっかけになっている。
- 最近、特に注目されているのは、「没入型デジタル環境スタジオ」と「データサイエンスセンター(DSC)」

「AIラボが特定の学部にある場合、その学部に所属している学生しか使ってはいけないという印象を持たれます。学生に使ってもいいよと言っても「使いにくい」とか「私とは関係ない」と思ってしまう学生が必ず出てくる。図書館にAIラボがあれば学生はそうは思いません。」

by Karim Boughida, Dean of the University of Rhode Island Libraries

【キーワード】“脱サイロ化”

“de-silo”



https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/ff/Ralls_Texas_Grain_Silos_2010.jpg/1920px-Ralls_Texas_Grain_Silos_2010.jpg

没入型デジタル環境スタジオ

- AR(拡張現実)、MR(複合現実)、VR(仮想現実)
- 普段直接触れないものや行けない場所を体験したり、新しい見方を可能にする→高い教育的効果が望まれる
- 「実験と知識創出(knowledge production)」あるいは「学術活動および教育領域におけるイノベーションの触媒」としての図書館の役割と合致



The Edge
University of Oklahoma Libraries
<https://libraries.ou.edu/content/edge>

データサイエンスセンター(DSC)

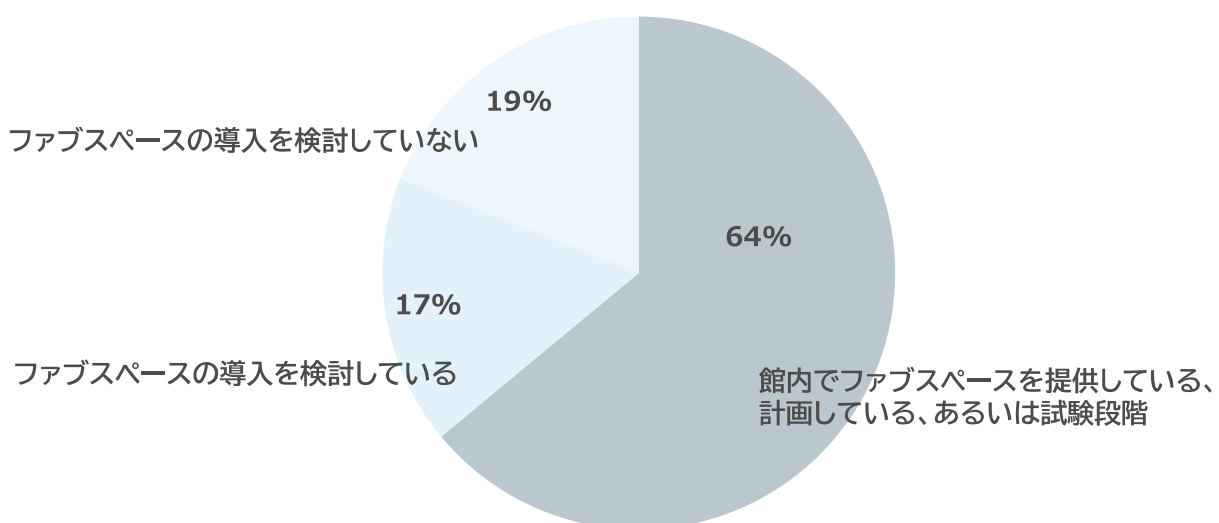
- データサイエンスは学際性が高く、支援サービスの新しいモデルが必要になった。
- 結果として、既存の学部の枠の外に設置されるケースが多く、コンピュータサイエンス学部の学生以外にも多様な学生が集まっている。
- データサイエンスに関連する支援サービスを“脱サイロ化”し、スキルレベルや学部に関係なく利用できるようにインクルーシブなものにする効果がある。



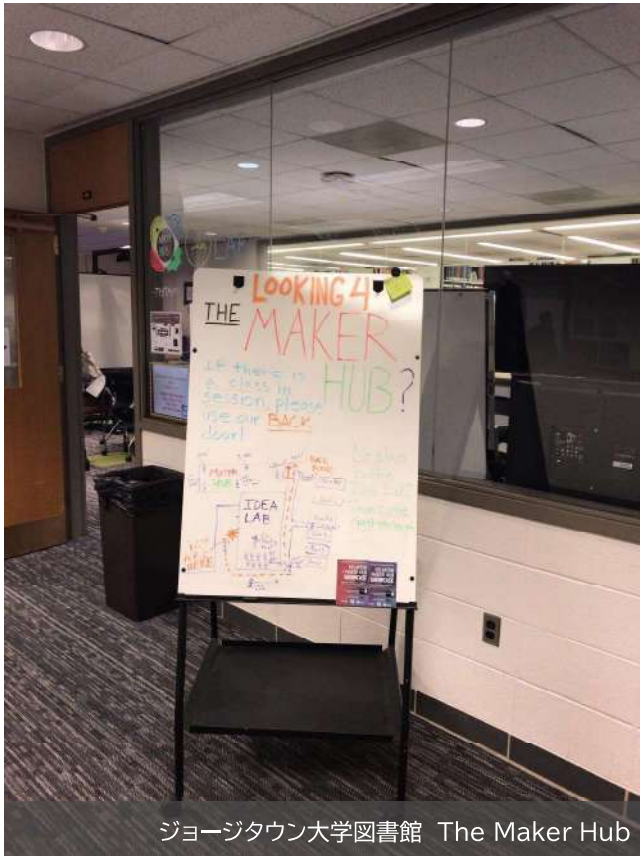
Artificial Intelligence Lab
University of Rhode Island Libraries
<https://web.uri.edu/ai/>

【参考】ファブスペースの普及率

米国大学図書館におけるファブスペースの導入状況



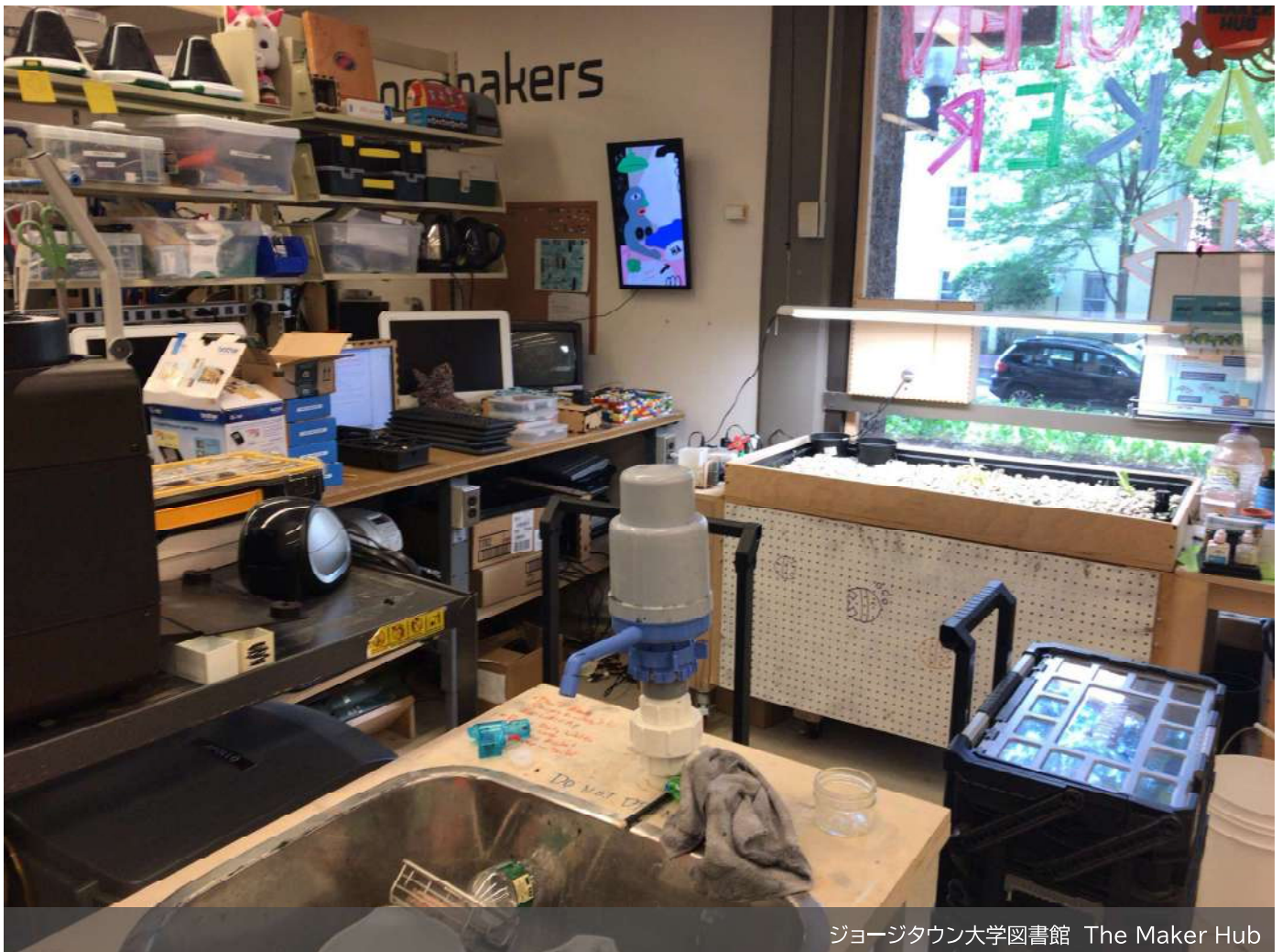
※ARL(Association of Research Libraries, 北米研究図書館協会)の報告書より抜粋
SPEC Kit 348: Rapid Fabrication/Makerspace Services (September 2015):<https://doi.org/10.29242/spec.348>



ジョージタウン大学図書館 The Maker Hub



ジョージタウン大学図書館 The Maker Hub内 Idea Lab



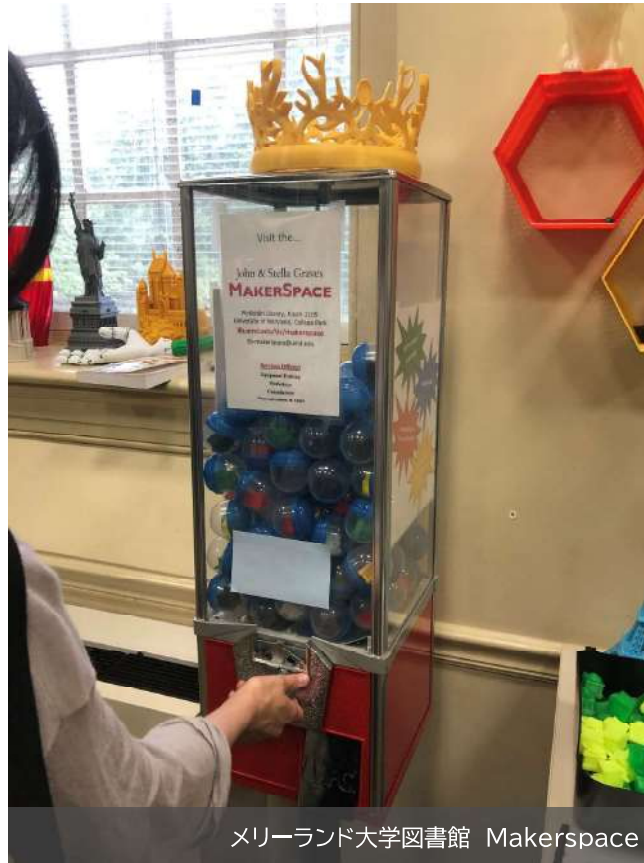
ジョージタウン大学図書館 The Maker Hub



ジョージタウン大学 The Maker Hub



ジョージタウン大学 The Maker Hub

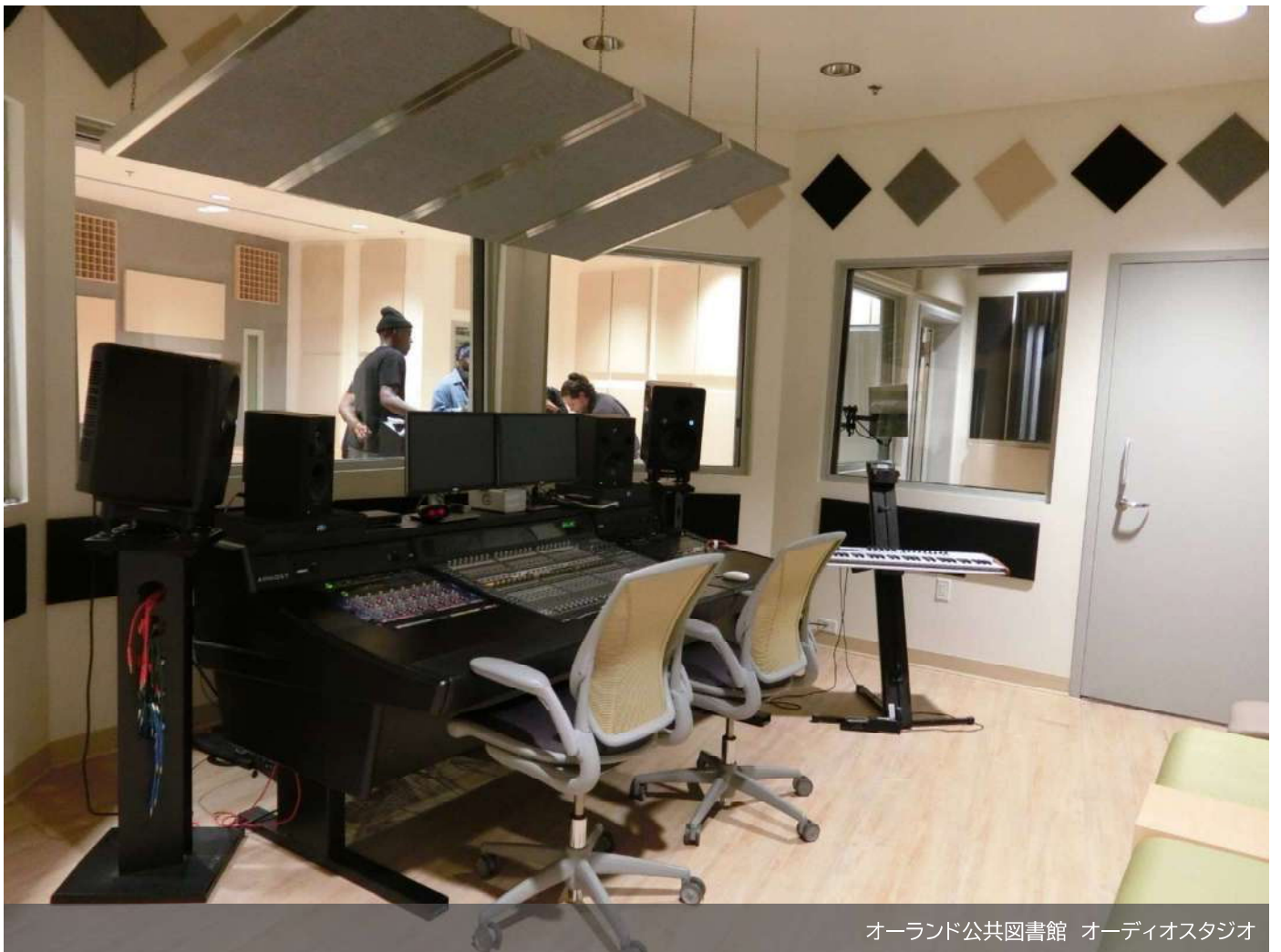


メリーランド大学図書館 Makerspace

Copyright 2021 MARUZEN-YUSHODO Co., Ltd.



ジョージタウン大学 The Maker Hub



オーランド公共図書館 オーディオスタジオ



オーランド公共図書館 フィルムスタジオ

Visions of Success: Academic Libraries in a Post COVID-19 World

発行日: 2020年12月16日

Library Journal, by Christopher Cox (Dean of Libraries, Clemson University, Clemson) and Elliot Felix (Founder and CEO, Brightspot Strategy)

VISION #1: 学生の成長支援系サービス(学習支援含む)のハブ(デジタルとリアル)

VISION #2: 図書館でのワークショップや講座は今後ハイブリッドに

VISION #3: 貴重書コレクションのデジタル化は保存だけでなく利活用促進に効果的という認識が広がる

VISION #4: 協働的創造性を促進する学習環境

VISION #5: 図書館がキャンパス内に散在する学習空間をネットワーク化し、一貫したポリシーで管理する

VISION #6: 図書館司書の新しい働き方(部署横断的なプロジェクトチームの立ち上げ、サービスデザイン、物理的な距離に依存しないリクルーティングなど)

Vision #4: 協働的創造性を促進する学習環境

アレックス、アンドレ、サム、ビビアンは現在、卒業プロジェクトとして福祉サービスを提供する地域のNPOのためにソーシャルメディア戦略の作成を進めている。

一学期を通じて、彼ら・彼女たちは図書館でさまざまな活動を行ってきた。戦略立案のためのプレスト、各種スキルを身につけるためのワークショップの受講、ビデオの録画・編集、ウェブサイトの構築、ポストカードのデザイン、そして最終発表のためのプレゼン制作と練習などなど。

発表後は図書館のプロジェクトギャラリーに提出し、他の学生がこのプロジェクトから学び、そこをスタート地点として自分たちの活動をスタートさせる。

Visionのポイント

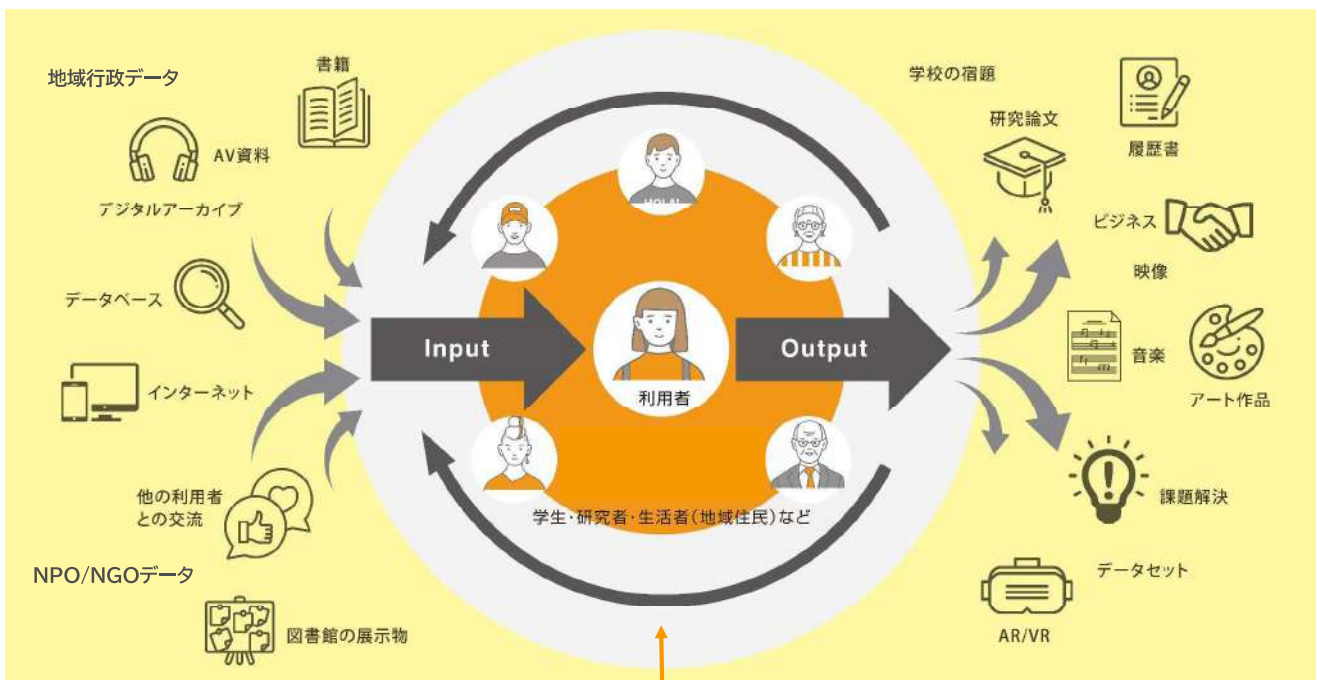
- 学びは今後、より一層体験的・実践的な側面が強くなると考えられ、プロジェクト活動やモノ・コトづくりがキャンパスに来る主たる目的の一つに。
- チームビルディングから、課題や文脈の読み解き、スキル開発、目標設定、成果物(デジタル・フィジカル問わず)の制作まで、大学図書館はプロジェクトライフサイクルの全体を支援する場所になる。
- 加えて、成果物を保存、共有、発信(出版含む)するための各種プラットフォームを提供することで、大学図書館がさらなる学びの触媒に。

Library as Platform

発行日:2012年9月4日

Library Journal, by David Weinberger (senior researcher at Harvard’s Berkman Center for Internet & Society, co-director of the Harvard Library Lab)

- プラットフォームとは一般的に「個別の開発者によるアプリケーションやソフトウェア開発を可能にするサービス、データ、ツールを含んだ**資源の束(a set of resources)**」を指す。
- オープンなプラットフォームとは、**誰でもその「資源の束」にアクセスして利用できるプラットフォーム**。
- プラットフォームとしての図書館は、アプリやソフトウェアの開発ではなく、**「知識とコミュニティ」の創出を目的にする**。
- プラットフォームとしての図書館の「資源の束」は、図書館が従来提供してきた蔵書へのアクセスやレファレンスサービス、学習支援に加え、**図書館司書や利用者コミュニティが保有する知識、ノウハウ、そしてネットワークも含まれる**。
- さらには、利用者がその「資源の束」をもとに新たに構築する知識やネットワークも**またその一部となる**。



「雑然としながらも芳醇な人びととアイデアのネットワーク」
(messy, rich networks of people and ideas)

- 利用者像は情報の「消費者」から「生産者」へ
- 「先端技術へのアクセスの民主化」を前提としたサービス・空間が増えてきている
- ポストコロナ時代の大学図書館は学生のプロジェクト活動やモノ・コトづくりを支援する場所として機能する(というビジョン)
- 利用者が保有する知識やネットワークを大学図書館の資源の一環として見做すことで新たな価値(=「雑然としながらも芳醇な人びととアイデアのネットワーク」)を創出できる可能性



大学図書館がすでに持っている強みを活かしながら、現代を生きる学生にとってより有意義なサービスや空間を中長期的に再考する必要があるタイミングなのではないか？

5. 丸善雄松堂が提唱する次世代のラーニングコモンズ

「次世代ラーニングコモンズ」の定義

Learn Create Share
「学ぶ」「つくる」「伝える」が循環する場

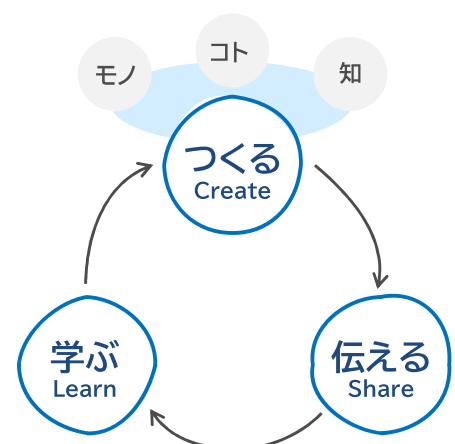
実社会に根差したニーズを解決するためのモノ・コトづくりを通して、
 小さな失敗と小さな成功を積み重ねることができる場

丸善雄松堂が唱える「次世代ラーニングコモンズ」には、学ぶ(Learn)、つくる(Create)、伝える(Share)の3つのアクションで構成する活動サイクルが存在します。

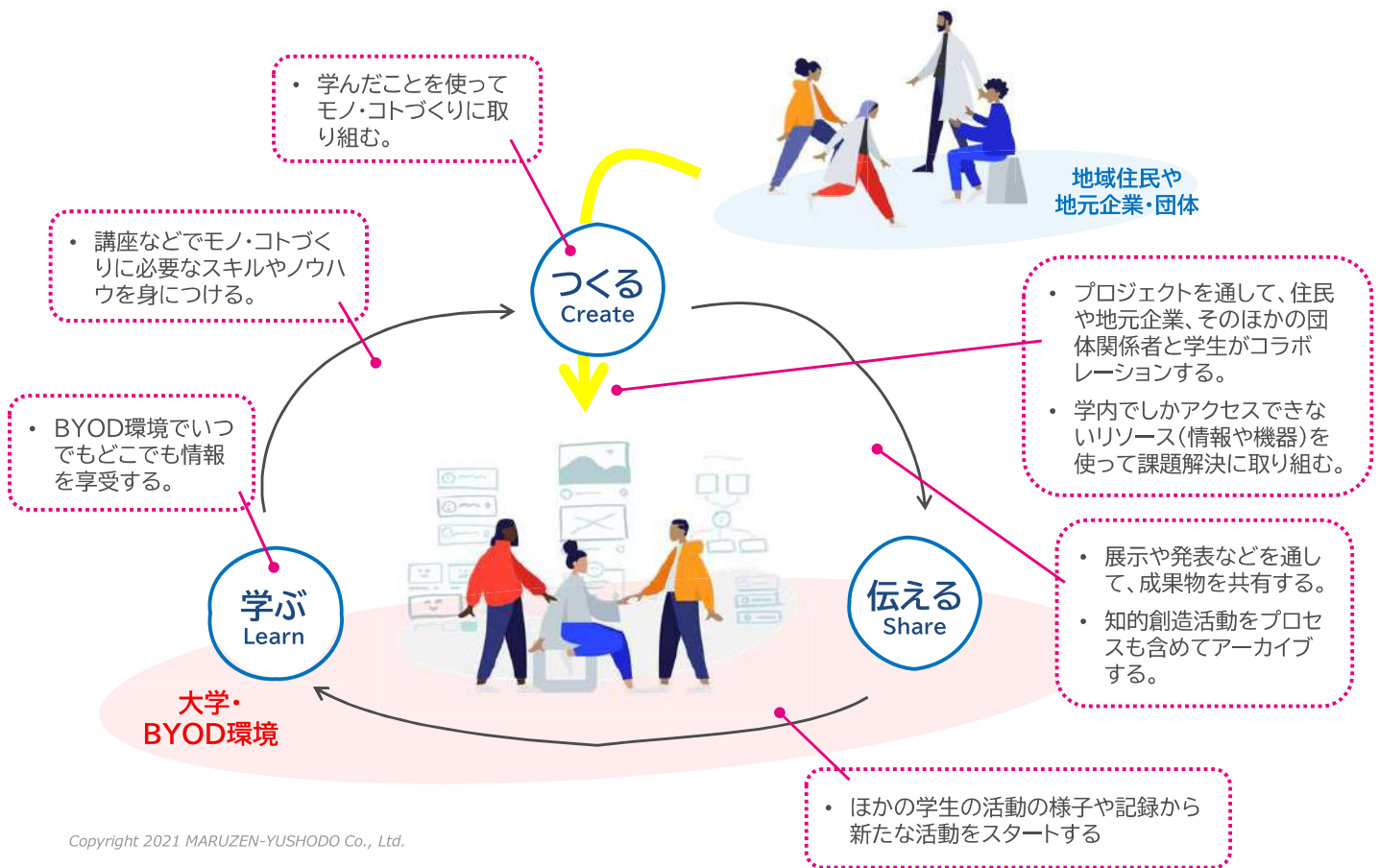
この場で学生は、身の回りのことをはじめ、地域や社会が持つニーズを解決すべく、学習したこと(知識やスキルを学ぶ)を用いて成果物(モノやコト、知をつくる)を生み出します。この「つくる」という行為の中で学生は他者と対話し、試行錯誤しながら小さな失敗と小さな成功を積み重ねていきます。そして、その行為の結果生まれた成果物を、失敗も含めて共有する(プロセスと結果を伝える)ことで、他者の学びに寄与します。

つまり、失敗と成功を積み重ねるこうした活動そのもの、また、活動の結果生み出されるモノ・コトや知は、コミュニティ全体で共有する資源、すなわち「コモンズ」となり得るものです。

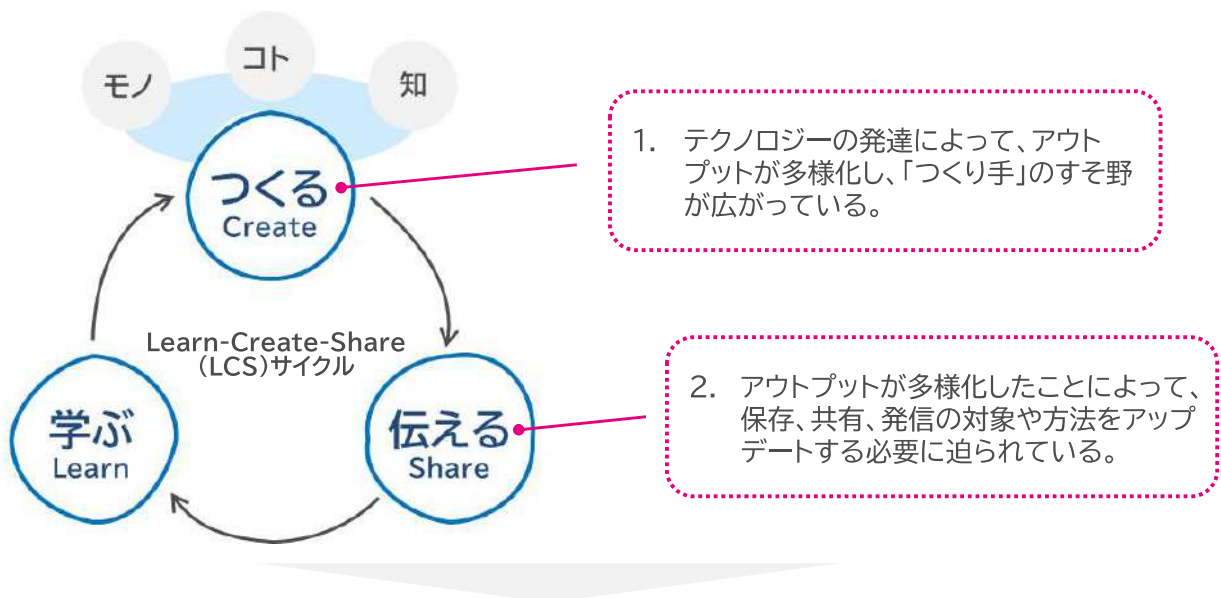
丸善雄松堂はこの「コモンズ」の持続的な創出と維持を実現するための学習環境構築を支援します。



ファブラボネットワークが提唱する Learn-Make-Shareサイクルに立脚した Learn-Create-Share(LCS)サイクル



おわりに : HMW Question



How Might We Question

どうすれば大学図書館はそれぞれの大学に所属する学生のニーズに合わせて、LCSサイクルの推進に貢献できるか？

- Framework for Information Literacy for Higher Education, American Library Association, February 9, 2015.
<http://www.ala.org/acrl/standards/ilframework> (Accessed June 1, 2021)
Document ID: b910a6c4-6c8a-0d44-7dbc-a5dcbd509e3f
- Christopher Cox and Elliot Felix. Visions of Success: Academic Libraries in a Post COVID-19 World. Library Journal.
<https://www.libraryjournal.com/?detailStory=Visions-of-Success-Academic-Libraries-in-Post-COVID-19-World&fbclid=IwAR0RpQ21MraU-khKiGdSY5owti3EzLtAsraRnZuDrTjLdk2IrqEgeY1dYcw> (Accessed June 1, 2021)
- Lippincott, Sarah. Mapping the Current Landscape of Research Library Engagement with Emerging Technologies in Research and Learning. Edited by Mary Lee Kennedy, Clifford Lynch, and Scout Calvert. Association of Research Libraries, Born-Digital, Coalition for Networked Information, and EDUCAUSE, 2021.
<https://doi.org/10.29242/report.emergingtech2020.landscape>.
- Gleason, Nancy W. Higher Education in the Era of the Fourth Industrial Revolution. 2018.
<http://library.oapen.org/handle/20.500.12657/23279>
- Weinberger, David. Library as platform. Library Journal. <http://www.libraryjournal.com/?detailStory=by-david-weinberger>, (Accessed June 1, 2021)
- Altman, Micah, Matthew Bernhardt, Lisa Horowitz, Wenqing Lu, and Randi Shapiro. Rapid Fabrication/Makerspace Services. SPEC Kit 348. Washington, DC: Association of Research Libraries, September 2015.
<https://doi.org/10.29242/spec.348>
- Adams Becker, S., Cummins, M., Davis, A., Freeman, A., Giesinger Hall, C., Ananthanarayanan, V., Langley, K., and Wolfson, N. (2017). NMC Horizon Report: 2017 Library Edition. Austin, Texas: The New Media Consortium.

中等教育現場（図書館）からの 創造的学修事例

2021年度私立大学図書館協会東地区部会研究部研究講演会

軽井沢風越学園 教諭
(元工学院大学附属中学校・高等学校)

有山 裕美子



中等教育現場（図書館）からの 創造的学修事例

1. なぜ、創造的学修が必要か
2. アイデアをカタチにする「デザイン思考」
3. 図書館の中にファブスペースを
4. 創造的学修を通して、シティズンシップを育てる
5. これからの学校図書館



1

なぜ、創造的学修が必要か

学校教育では、予測不可能な未来において、
自ら考え、対処できる力が求められている
単なる知識ではなく、使える知識

高等学校学習指導要領の改訂のポイント より 一部抜粋
https://www.mext.go.jp/content/1421692_2.pdf

高等学校学習指導要領の改訂のポイント

1. 今回の改訂の基本的な考え方

- 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。
- 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。
- 高大接続改革という、高等学校教育を含む初等中等教育改革と、大学教育改革、そして両者をつなぐ大学入学者選抜改革の一体的改革の中で実施される改訂。

「主体的・対話的で深い学び」は、今回の改訂の大きなポイントのひとつ
情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基礎・基盤となる力」と位置付け

現代社会における 「創造的な学び」の重要性

「アイデアをカタチにする」「主体的・対話的で深い学び」

高度情報社会において、メディア情報リテラシー、ICT活用能力、学び（探究）のプロセスの習得など、高度情報社会の中で、常に情報を見極め、それらを創造的に活用する力が必要とされている。

小・中・高等学校における 「情報教育」

学校教育の中で、「情報教育（情報活用能力の育成）」をどこが担うか？

そして、それをどう育成していけば良いのだろうか。

「情報活用能力育成」における、学校図書館の役割は何か。

新学習指導要領における小・中・高における「情報教育」（情報活用能力の育成）の流れ

	小・中・高等学校共通のポイント (総則)	小・中・高等学校別のポイント (総則・及び各教科等)
小学校	文字入力など基本的な操作を習得、新たにプログラミングを体験しながら、 プログラミング的思考 を育成。	情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基礎となる資質・能力」と位置付ける。 「情報教育」 を一層強化する。
中学校	技術・家庭科（ 技術分野 ）において、プログラミング、情報セキュリティに関する内容を充実。	➡ 各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る。 学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実に配慮する。
高等学校	情報科において、共通必修科目「 情報Ⅰ 」（「社会と情報」「情報と科学」を統合）を新設し、全ての生徒がプログラミングのほか、ネットワーク（情報セキュリティを含む）やデータベースの基礎等について学習	「学習の基礎となる資質・能力」としての情報活用能力は、「技術」や「情報Ⅰ」以外にも各教科で育成する。情報活用能力が、ICT活用能力に偏らない配慮も必要。

2 内容とその取扱い

(1) 情報社会の問題解決

情報と情報技術を活用した問題の発見・解決の方法に着目し、情報社会の問題を発見・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(7) 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を見・解決する方法を身に付けること。

(4) 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解すること。

(9) 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

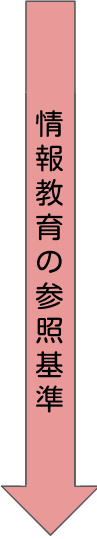
(7) 目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を見・解決する方法について考えること。

(4) 情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察すること。

(9) 情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察すること。

たとえば「**情報Ⅰ**」の内容の一つ、「**情報社会の問題解決**」は、社会生活を営む中での、ジェネリックスキルであると言える。

小・中・高・大における「情報教育」の流れ

	「情報教育」の流れ	「生きる力」としての基本的な情報活用能力 ジェネリックスキル
	小学校	2020年度より、「プログラミング教育」を導入
	中学校	「技
	高等学校	教科 ※21 （「情
	大学	情報学の共通教育 専門基礎教育

情報活用能力とは

1986年4月臨時教育審議会第二次答申

高度情報社会に生きる児童生徒に必要な「新しい資質」を、「情報活用能力（情報リテラシー）」として定義付け、「読み、書き、算盤（そろばん）」と並ぶ基礎・基本として、学校教育においてその育成を図ることを提言

情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的資質

※「情報活用能力」という言葉が初めて登場

情報活用能力は

情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的資質

であるならば、それは学びのあらゆる場面で必要であり、教科を横断して教育課程全体で取り組むべき課題である。

学校図書館の使命は、資料提供と利用指導だけではないはず。教科を横断し、俯瞰できる学校図書館だからこそ、あらゆる「情報」を蓄積していく学校図書館だからこそその視点で、「情報活用能力の育成」に関わっていくことの必要性。

小・中・高・大における「情報教育」の流れと図書館の活用

	「情報教育」の流れ	「生きる力」としての基本的な情報活用能力 ジェネリックスキル
小学校	2020年度より、「プログラミング教育」を導入	図書館を効果的に活用する <ul style="list-style-type: none">・ 情報活用の方法を学ぶ場としての図書館・ 図書館発信の情報・ 図書館資料の充実・ オンラインデータベースの導入・ 過去のデータ（先輩の論文等）の蓄積・ 教科書等の参考書の提供・ レファレンス情報・ 外部ネットワークとの連携・ レポート・論文の書き方指導・ Web情報などの蓄積・ 学びの場としての図書館スペース整備等
中学校	「技術」（「情報の技術」）	
高等学校	教科「情報」 ※2022年度より「情報Ⅰ」（必修）（「社会と情報」「情報と科学」を統合）「情報Ⅱ」（選択）	
大学	情報学の共通教育 専門基礎教育	

学校図書館の役割って なんだろう？

「教育課程の展開に寄与する」

(学校図書館法第2条)

特定の年齢層の利用者への継続的サービス
アイデアをカタチにする場所

インプットからアウトプットまで、生徒たちの学びを
包括的に支え、様々な課題の解決を支援すること。

2

アイデアをカタチにする

アウトプットの方法はさまざま。
「デザイン思考」の授業における創造的な学修

工学院大学附属中学校・高等学校図書館での実践から

学校図書館と「情報教育」

あらゆる情報を扱う学校図書館だからこそできること。

「読み、書き、算盤（そろばん）」と並ぶ基礎・基本としての情報活用能力（学習指導要領）の育成。

2015年度より、学校図書館にて、ICTも含め、さまざまな情報活用能力の育成を主に置いた授業

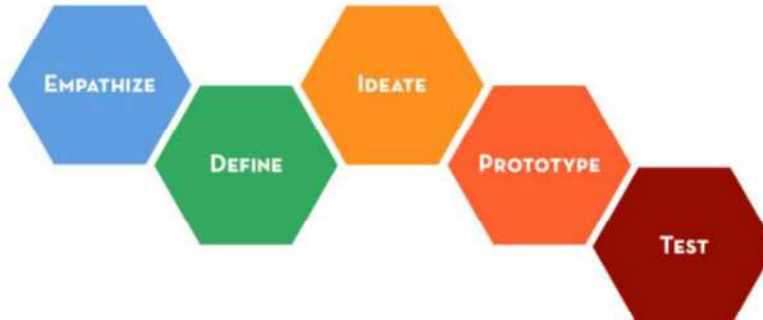
「デザイン思考」がスタートし、司書教諭が担当。

デザイン思考

- 「総合的な学習の時間」を使った授業
- 中学全学年、全クラスで実施
- 2015年度から実施

学びのプロセスを通して、自ら考えアイデアをカタチにすること、豊かに発想し豊かな問いを作ること、仲間と協働し共に考えること、答えのない問題に対処すること、社会に貢献すること、自分も含めてみんな幸せにすること、などを目指す。

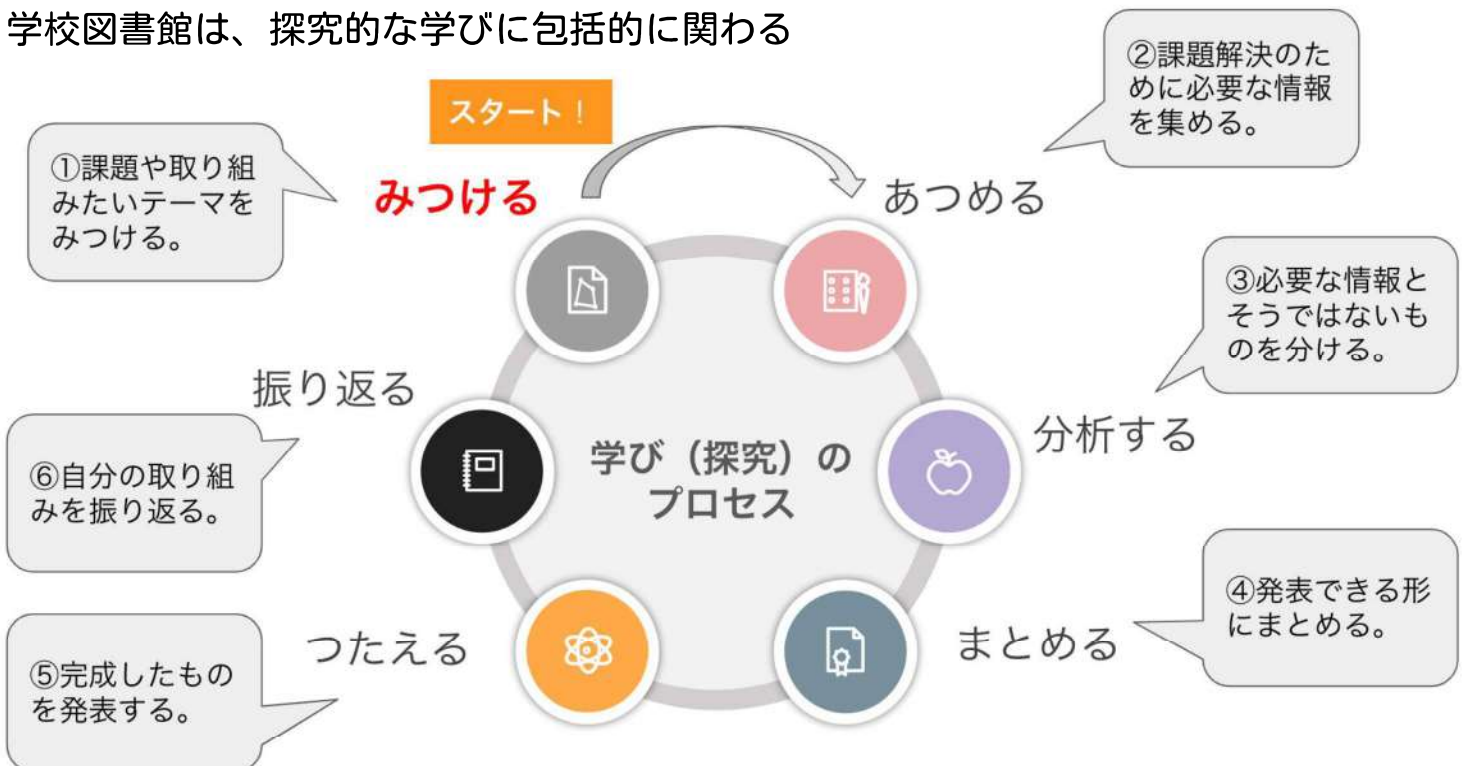
デザイン思考（スタンフォード大学：d. school）



- 【ステップ1】 Empathize：共感
- 【ステップ2】 Define：問題定義
- 【ステップ3】 Ideate：創造
- 【ステップ4】 Prototype：プロトタイプ
- 【ステップ5】 Test：テスト

- 相手の立場で考える
- 相手のニーズを捉える
- アイデアを出し合う
- プロトタイプを作ってみる
- フィードバックをもらう

学校図書館は、探究的な学びに包括的に関わる



与えられた課題ではなく、自らの課題を解決する「学び方を学ぶ」 デザイン思考



図書館2階



1人1台タブレット 2015年～

「自分をプロデュースしよう」

中学1年生がタブレットを持って初めて取り組んだこと



ICTを使って、アイデアをカタチにしよう

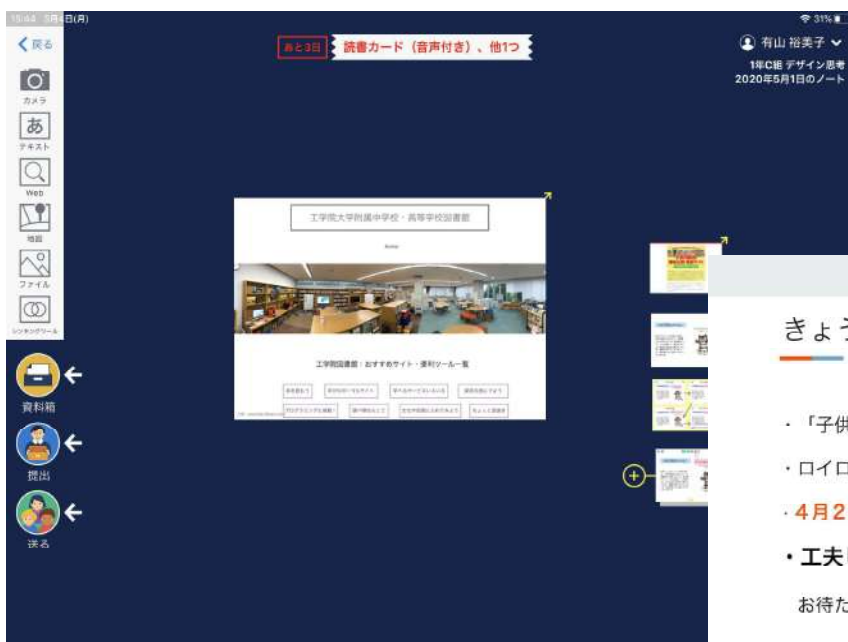
1人から仲間へ。共同編集でクラスムービーを作ろう。



ICTは、情報を収集するためのツールであると同時に、アイデアを形にしたり、自ら情報を発信することができるツールであるということ。

学校図書館は、アナログからデジタルまであらゆる情報を扱う場所
「デザイン思考」を図書館で行う意義。

授業の中で大切にしていること



情報を効果的に収集し、その適切な活用を図ること。アイデアをカタチにすること。
主体的・対話的で深い学びを促すこと。

きょうの振り返り

5月1日

- ・「子供の科学」を読んでみよう！
 - ・ロイロノートで、カードに録音する方法をおぼえよう。
 - ・4月23日～5月12日は、読書週間。本を読もう！
 - ・工夫して読書カードを完成させよう。➡ GW中に！
- お待たせしました！ 次は、動画作りに挑戦します！

授業例① フリーマガジンを作ろう（中2）

校外学習のアウトプットの方法として、フリーマガジンを選択

フリーマガジンとして配布
電子マガジンへ



雑誌を手で読む トレース中

Pagesを使ってまずは一人1P作成

The composite image illustrates the process of creating a magazine using the Pages app. On the left, a tutorial titled 'フリーマガジン作成について' (About Free Magazine Creation) provides instructions for offline use and shows examples of 1-page, 2-page, 3-page, and 4-page magazine spreads. In the center, a screenshot of the Pages app interface shows a 'TODAY'S NEWS' magazine template with a 'ページ移動' (Move Page) button highlighted. On the right, a workflow diagram shows a sequence of steps: '1. 写真撮影' (Photo Shooting), '2. 写真整理' (Photo Organization), '3. 写真編集' (Photo Editing), and '4. 雑誌作成' (Magazine Creation), with arrows indicating the flow between them. The diagram also includes icons for '資料箱' (Resource Box), '提出' (Submission), and '評価' (Evaluation).

グループで4Pのマガジンを作成

完成した「探究マガジン」を文化祭で展示・配布し、授業で振り返り



さらに「探究マガジン」を電子書籍へ Romancerを使ってepubにして、電子図書館にアップロード



本格的な雑誌作りに向けて始動、電子書籍に。

【確認】テーマ・内容

- 記事全体のテーマを書き込んでください (10/13まで)
- それぞれのページの見出しと、内容 (調べたいことなど) を書き込んでください

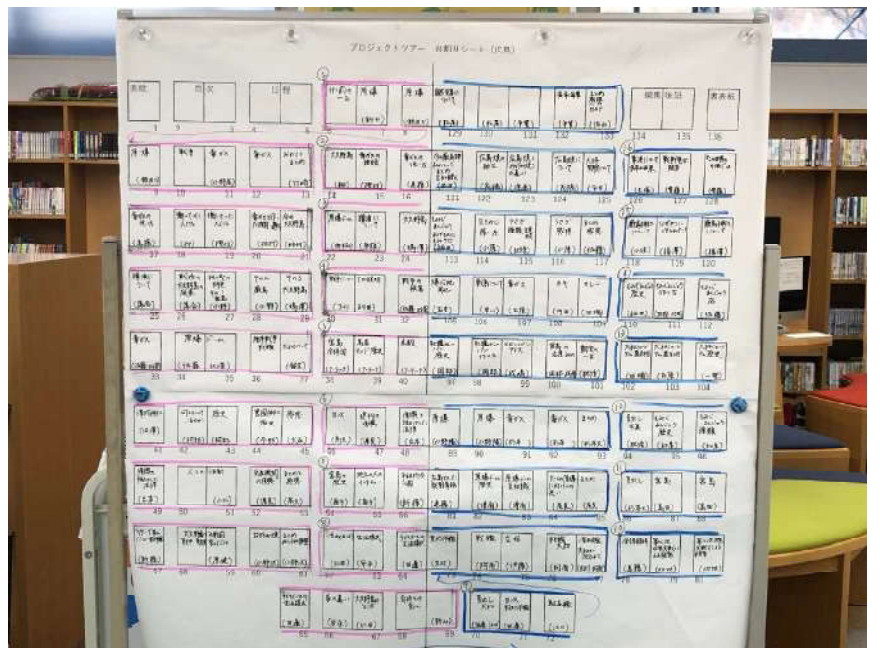
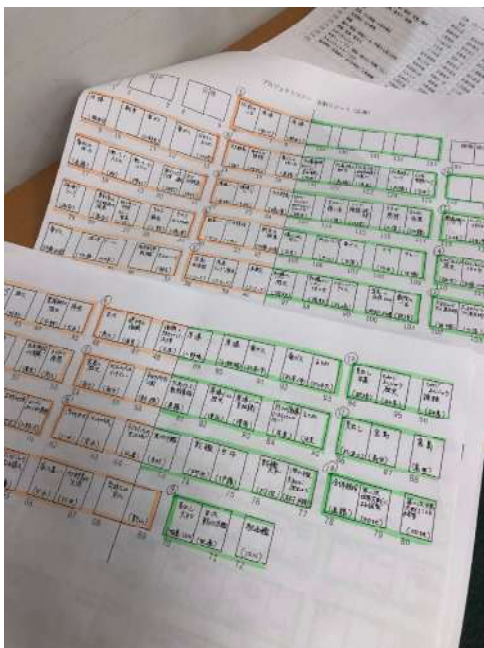
探究マガジン 2018

探究マガジン 東北

電子書籍であれば、生徒が作ったままのデータをフルカラーで作品に変換することができる。

2020/3/6公開

データだけではなく、見える形でも提示



データDVDの作成



紙



探求マガジン広島
2018
工学院大学附属中学校2年

読む

2020/3/6公開

探求マガジン東北
2018
工学院大学附属中学校2年

読む

2020/3/6公開

電子書籍

DVD

Romancer クラスルームの活用して、オリジナルの作品を

工学院大学附属中学校・高等学校

グループ管理

作品制作

作品一覧

新規追加

リストダウンロード

コメント

使用者管理

仮想グループ長管理

サイト設定

メニューを閉じる

作品一覧

すべて | 自分の作品 | グループ | 招待 | 公開作品

一括操作 適用 すべての日付 すべてのグループ 絞り込み検索

<input type="checkbox"/>	タイトル	ピックアップ	公開状態	グループ	作成者
<input type="checkbox"/>	中学1年生日記		全体公開 リーダー表示	教員	有山裕美子(設定管理)
<input type="checkbox"/>	探究マガジン広島2018		全体公開 リーダー表示	教員	有山裕美子(設定管理)
<input type="checkbox"/>	探究マガジン東北2018		全体公開 リーダー表示	教員	有山裕美子(設定管理)
<input type="checkbox"/>	論文の書き方		全体公開 リーダー表示	教員	有山裕美子(設定管理)

学校限定公開で、生徒の作品を共有

仮想世界のエイプリル

読む

2020/7/10公開

👁️ 7

👍 1

💬 0

中学1年生日記

2020年度入学 中学1学年

読む

2020/7/4公開

👁️ 10

👍 3

💬 0

工学院大学附属中学校・高等学校

メニュー

ログアウト

検索

新着順 | 登録順 | ピックアップ |

すべて

この桜が咲く頃に

あまりの地蔵汁

読む

2019/11/26公開

存在しない机

読む

2019/11/26公開

My Lover ~好きに理由はない~

読む

2019/11/26公開

恋に開かれる狼の話

スピリチュアルな

読む

2019/11/26公開

プロフィール登録も可能・教員作成の資料も

出版授業の展開

電子書籍づくりを、本格的な出版につなげたい。

- ・すでに自作の本を書いている。
- ・ePubデータになっていれば、出版は可能である。
- ・外に向けて、アウトプットできる仕組みは魅力である。

誰もが発信者になれる時代における、メディア情報リテラシーのあり方。

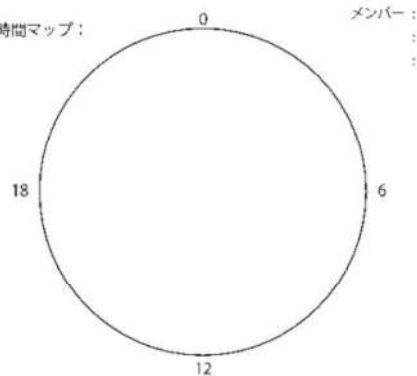
受け手としただけでなく、送り手として情報活用について学ぶための教材としての電子書籍の可能性。

授業例② 誰かのためのものを作ろう（高1）

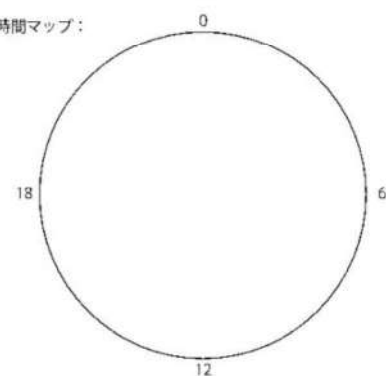
ペルソナシート

年齢： _____ 性別： _____
家族構成： _____
職業： _____
趣味： _____

平日の時間マップ：



休日の時間マップ：



誰かのためのものを作ろう ~3Dプリンターを使って

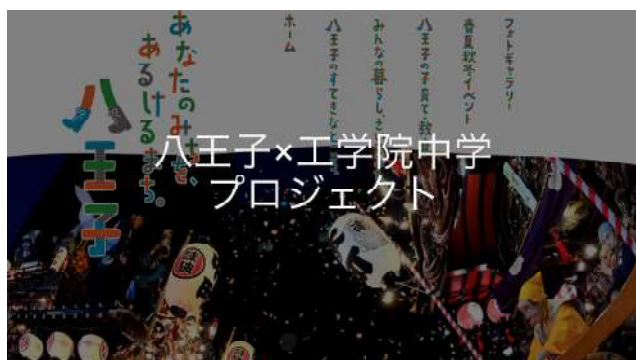


お風呂でお茶を飲みたいひとのために
浮かんで冷めないカップ



消しゴムのカスを床に捨てて、
いつも先生に怒られている小学生へ

消しゴムのカスを床に捨てないために
机装着型消しゴムカス入れ

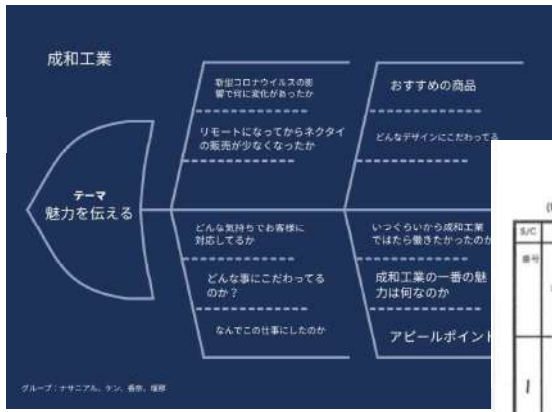


授業例③ 中1の取り組み

「八王子プロジェクト」

八王子市役所と
タイアップ

八王子のものづくりの現場取材し、3分間のビデオ動画にする。



事前準備をして企業訪問へ

絵コンテを使ってアイデアをカタチに

八王子プロジェクト 絵コンテ (1例)

(No. 1)

S/C	PICTURE	ACTION	DIALOGUE&SOUND	TIME
6		カット前の内容を書く。どんな映像を入れたいか、イラストで書いてみよう。	セリフや音楽など、音に関することを書く。	18P
1		タイトルを全体に映す。背景は工場の写真にする。	09時入社。10時作業開始。背景は工場の写真にする。	5/80
2		会社の看板を大きく映す。そこから映して工場に入る。	7:30スタート!! 今日は0000工場に入る。	5/80
3		09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	20/80
4		商品の写真を撮る。商品の写真を撮る。商品の写真を撮る。	09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	20/80
5		09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	20/80

※ 10:30に工場へ入社!! 11:00に作業開始!!

(No. 2)

S/C	PICTURE	ACTION	DIALOGUE&SOUND	TIME
6		カット前の内容を書く。どんな映像を入れたいか、イラストで書いてみよう。	セリフや音楽など、音に関することを書く。	18P
7		商品の写真を撮る。商品の写真を撮る。商品の写真を撮る。	09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	20/80
8		09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	20/80
9		09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	20/80
10		09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	20/80
11		09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	09時入社。工場に入る。そこから映して工場に入る。	20/80



「他人をプロデュース」

インタビューのどこを切り取って伝えるか? 難しい。

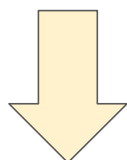
これって、「メディア・リテラシー」?

僕の意図が、反映されるってことだよな? テレビやネットと同じ。



Q.なぜ住宅地で酪農を続けているのか?

校内の映像祭で発表
八王子市役所の方が参観



「八王子のHPで、紹介していく方向で検討しています。」

単なる学校の課題ではない「本物」の作品でなければならない。作り手としての責任。

3

図書館の中にファブスペースを

誰もがあらゆる情報を収集、発信できる時代に、
学校教育は何ができるか

ファブラボ (Fabrication Laboratory) からヒントを。



「ほぼあらゆるものを作る (How to make almost anything)」
ことを目標とした、デジタル工作機を使ったファブリケーション

「ファブ」には、「Fabrication」(ものづくり)と「Fabulous」
(楽しい・愉快的)の2つの単語がかけられている。

ファブラボとSTEM教育とのかかわり
Science, Technology, Engineering and Mathematics

図書館の中にあるファブスペースは何でもつくれる場所
How to make~
Design, Community, Education, Research,
City, Policy, Tools, Business……

ArtをプラスしてSTEAM教育へ
リベラルアーツの再構築図書館との親和性
海外図書館の導入事例

さまざまな情報を蓄積し、構築して
学校図書館の中に、**ものづくり**
の場所を作りたい！

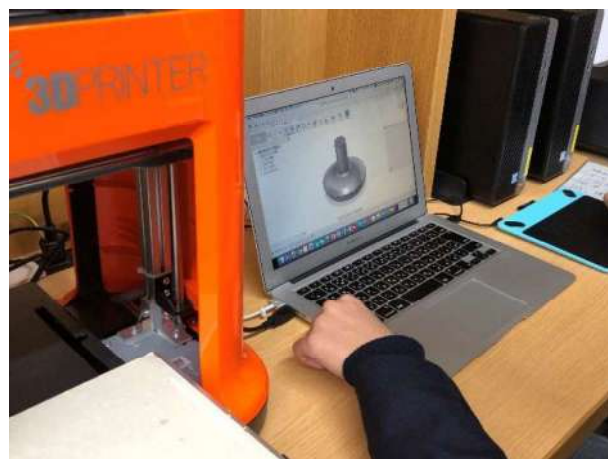
集密書架を撤去して、スペースを確保



改装データ 全体図



アイデアを目に見えるカタチに。触れるアウトプット



デザイン思考の授業以外にもさまざまなカタチで自由に活用
／学年を超えた学び合い



モデリングやプログラミングの講座を定期的を実施



講座で学んだり、自分で好きなものをつくったり



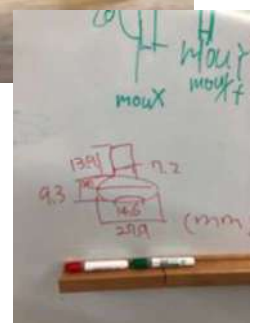
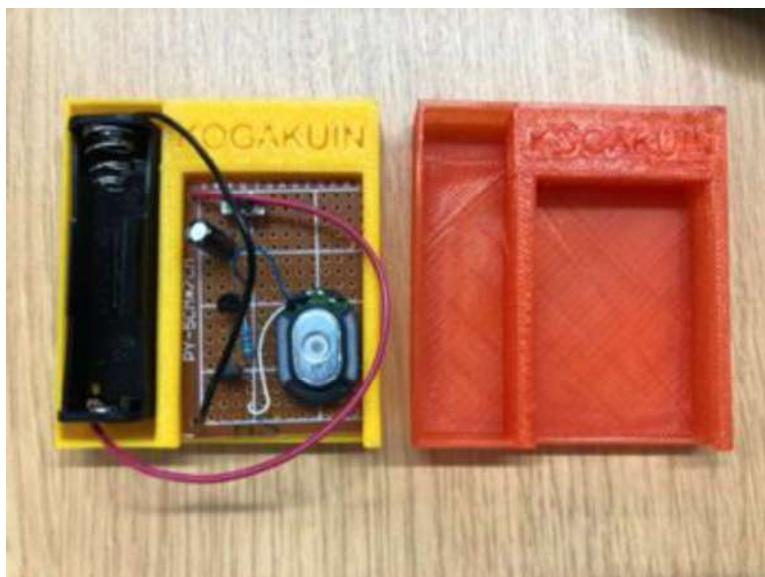
中学1年生初めての作品



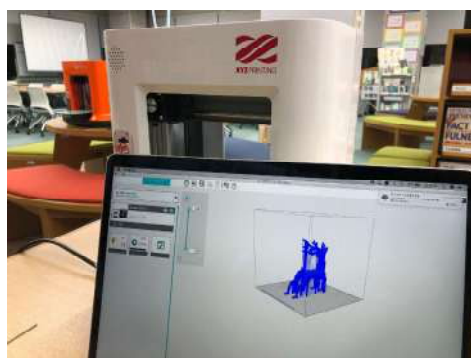
ゲームをプログラミング、操縦桿は3Dプリンターで作成。
MESHを使ってIoTも。



3Dプリンターを使って身近な課題を解決したり



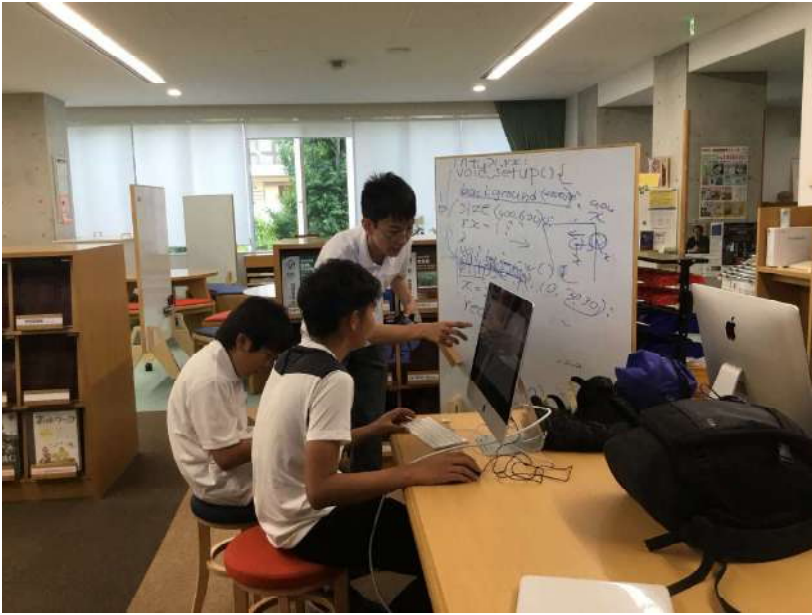
クリスマスツリーの オーナメントをつくったり



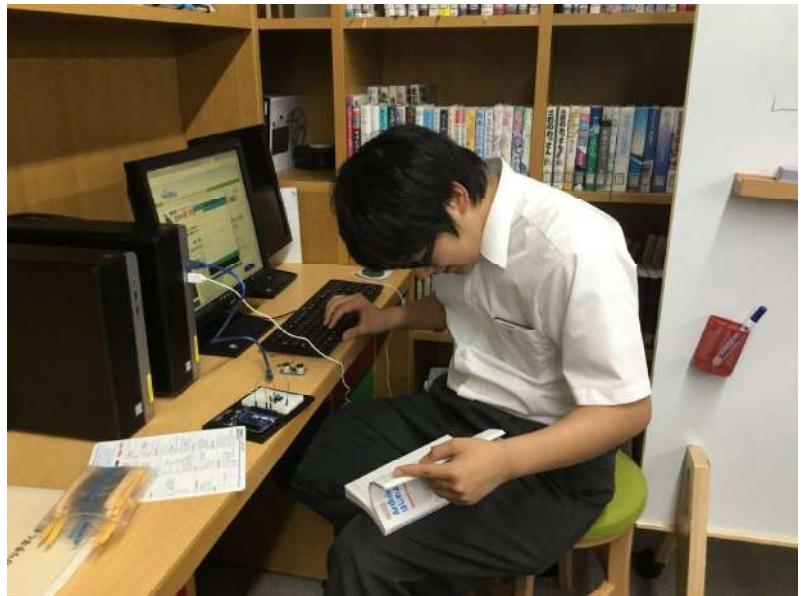
小学生向けの体験講座で栞やキーホルダーを作成したり



偶然通りかかった生徒がいきなり参加できるのも図書館ならではの



すぐそばに本や様々な情報があるのも図書館。



活動を通して生まれてきたもの

学内そして大学での認知度がUP
図書館が変わったぞ



そして、校内から
外部へと発信

挑戦・創造・貢献

慶應大学SFC研究所の
FAB 3D CONTESTに参加



アイデアを形にして、社会に貢献する。

挑戦・創造・貢献

Tokyo Maker Faireや、
Tsukuba Mini Maker
Faire

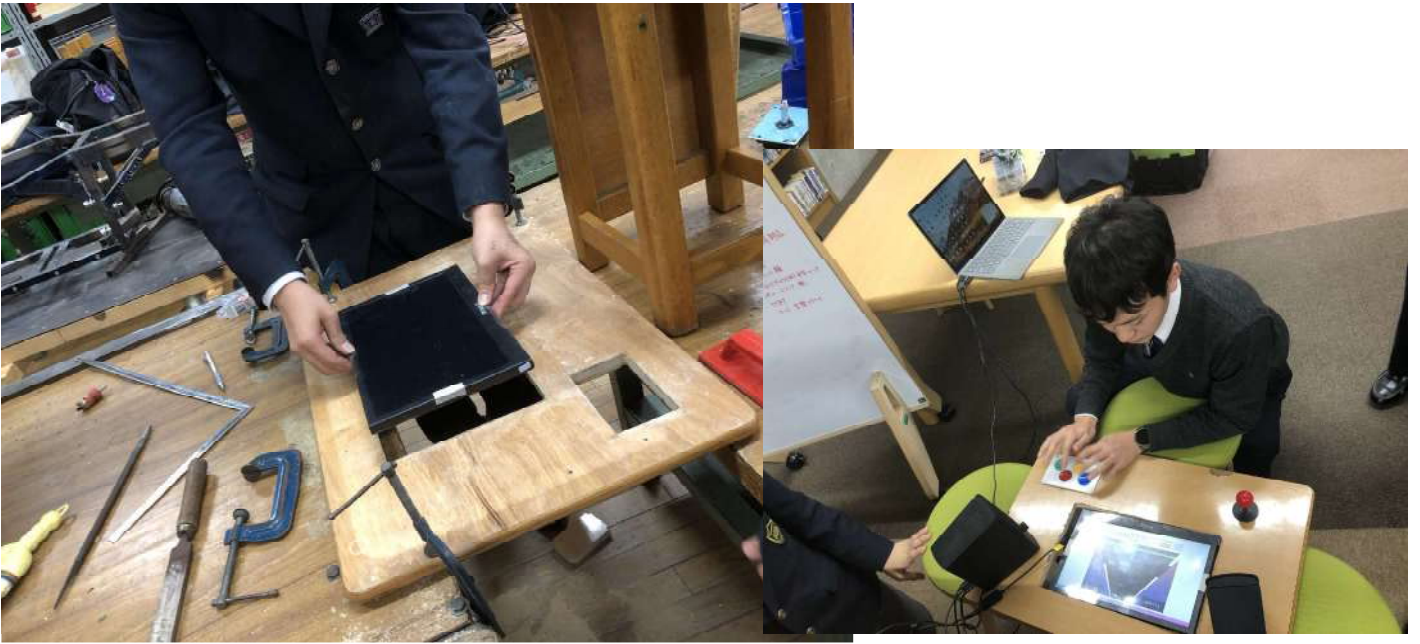
など、外部のコンテス
トに参加する生徒も。



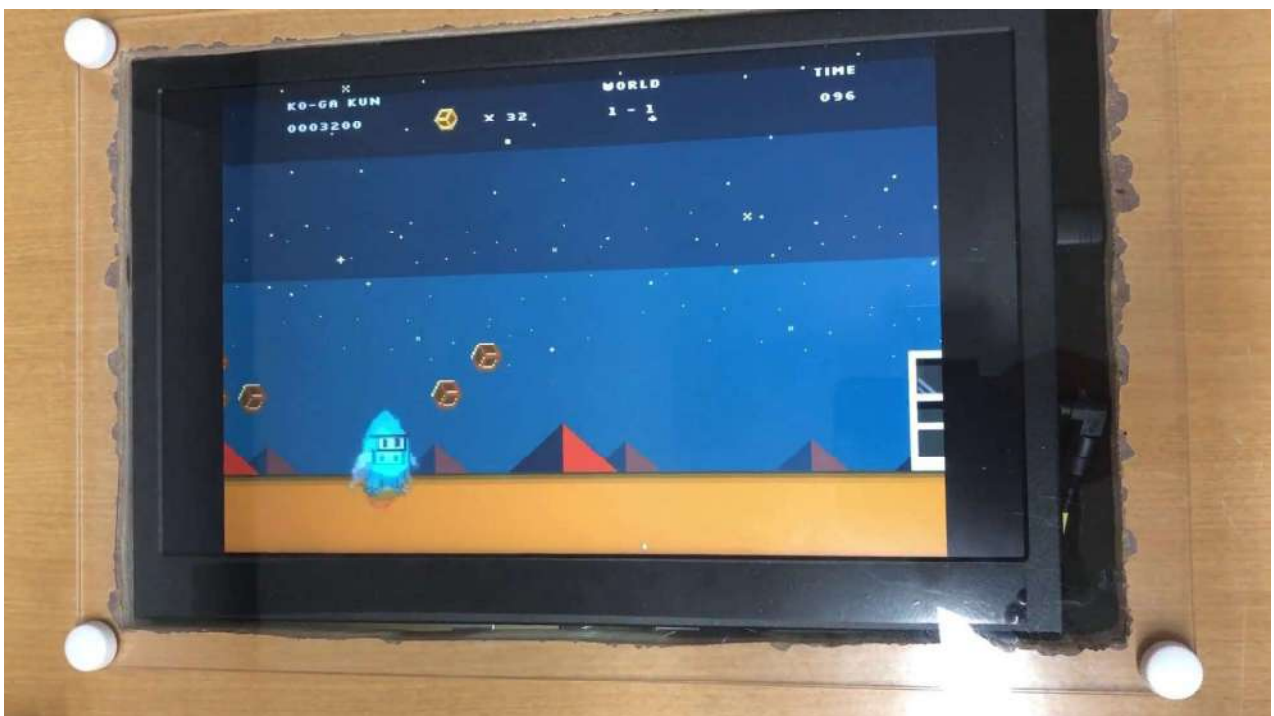
Tsukuba Maker Faire 出展作品「Dream Desk」



アナログとデジタルとを結びつけながら



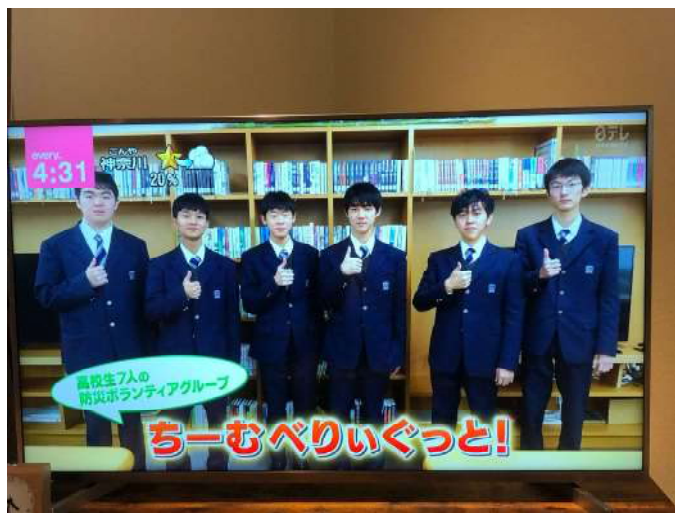
もちろん、ゲームもプログラミング



実は、図書館内にこんなスペースも！動画作成に活用



背景はプログラミング講座のメンバーがCADソフトを使って作成。



作成した動画を「YouTube」に公開
その活動は、全国ニュースで
紹介されたことも



昨年の「図書館総合展」で、学校図書館の様子をLIVE配信



図書館がスタジオに！

挑戦・創造・貢献

工学院大学新宿キャンパス新アトリウムデジタルアート
コンペティションに、大学生に混じって高校生が参加・入賞



なぜ、学校図書館にファブスペースか

学校図書館は「失敗しても良い場所」

それを支えるさまざまな仕掛けがある場所
そのひとつが、たとえばファブスペース

インプットからアウトプットまで、子どもた
ちの学びのプロセスを支援していく事が必要

図書館（学校）は、失敗できる場所

たとえば……



机を破壊したって

オリジナルのアイデアを
アウトプットできればOK！



ファブスペースがあることで

自分のアイデアを見える形にすることが出来る
失敗を繰り返しながら学ぶことが出来る
いろいろな人たちが使える/集まる
仲間と協働しながら学ぶことが出来る

インプットからアウトプットまで
思考（学び）のプロセスを図書館の中で

ファブスペースは創造的学修をささえ、課題解決のツールになる

学びを支えるための学校図書館の前提条件

モノ

様々な情報の中から、児童生徒に有用な**情報やツール**を提供すること。

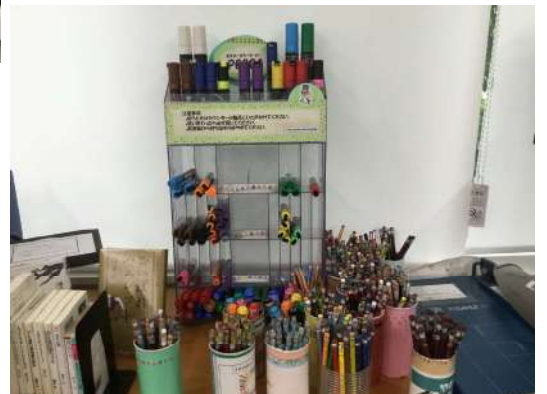
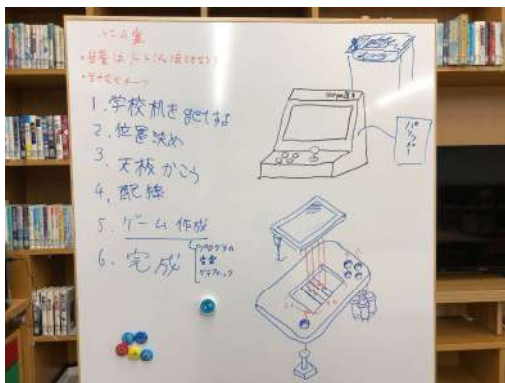
ヒト

情報を適切に扱うために必要な方法や技、ルール等を**伝える人**がいること。

コト

アイデアをカタチにするために必要な**場**を用意すること。

本はもちろん、文房具などのアナログなツールも創造的学修を支援



4

創造的学修を通して シティズンシップを育てよう。

誰もがあらゆる情報を収集、発信できる時代に、
学校教育（学校図書館）は何ができるか

溢れる情報をどう取捨選択し
ていくか。

また、偽情報や陰謀論の問題は、はたして日常
モラルと情報技術の特性を理解すれば解決する
だろうか。

誰もが情報の**受け手**にも**送り手**にも
なれる時代に、どう情報活用能力を育成す
れば良いのか。

著作権やクリエイティブ・コモンズなどの
ルールはもちろん、情報を扱うということ
について「自分ごと」として捉えるにはど
うすれば良い？モラル教育の限界。

デジタル・シティズンシップ教育とは

教科を選ばず共通に学ぶことができるユニバーサルな教育で
あり、ある特定の国や地域に特化した教育ではなく、
グローバル・スタンダードな教育である。

学習者中心／指導者も学習者も公平に学ぶ。

日本では、**情報モラル**に近いが、大きく異なる。

情報モラルは抑制的。シティズンシップは、**ポジティブ**。

(例) デジタル・シティズンシップ教育（軽井沢風越学園3・4年）

ねらい：デジタル・デバイスを使いこなす、デジタル・デバイスがなくても大丈夫な人を目指す

領域：

- デジタルを使う自他の健康をまもる
 - メディアバランス
 - コミュニケーション
 - ネット上のトラブル
- デジタル上の自分をつくる
- デジタル上の自分の情報を守る
- 情報の正しさを見極める

使用する教材：

- COMMON SENSE EDUCATIONなど

大切にしたいポイント：

- 自分ごととして、最適解を考える
- 参加しながら、参加のしかたを考える
- 日常的に考えたり、調整したりする
- 消費するだけでなく、つくることも

内容（2021年度予定）：

デジタルライフに必要なスキルと「行動」と「理由」について自己や他者との対話から学ぶ。

5月	マイ・メディア・チョイス
6月	デジタルのてがかり
7月	パスワードをパワーアップ！
9月	言葉の力
10月	称賛を与えよう
11月	クリエイティブ・コモンズを使ってみよう
1月	私たちのデジタル市民の誓い
2月	フォルダを掃除しよう
3月	未定

81

自分で情報を集め、
自分で情報を編集し、再構成し
「誰か」のために、
その情報を発信する。

これからの学校図書館

予測不可能な未来に向けて
学校教育（学校図書館）は何ができるか

限られた環境の中で、どう情報を提供するか

どう情報を収集、提供し、その質を担保していくか。情報活用能力をどう育てていくか。

① 情報提供

オンラインの情報の中から、必要な情報を取捨選択し、どう提供するか。

② レファレンス

生徒一人ひとりの疑問や要望に、どう応えていくか。

③ 学びのプロセス

生徒の学びのプロセスをどう可視化し、サポートしていくか。

④ 授業のサポート

「学校教育の展開」にどう寄与し、情報活用能力をどう育てるか。



オンラインでも「情報」を提供する図書館の役割は変わらない。

読書や探究に使えるサイトの紹介



図書館
Library

- 調べる・探す
- オンラインサービス
- 利用案内
- 教育・研究支援
- 図書館の紹介



図書館で「調べる・探す」欄の検索欄には、書籍やオンラインデータベースの検索が可能です。

- OPAC (法政大学蔵書検索)
- HQSEI Search
- オンラインデータベース (学内者限定)
- 電子ジャーナル・電子ブック一覧 (学内者限定)



Home

工学院大学附属中学校・高等学校図書館

工学院図書館：おすすめサイト・便利ツール一覧

本を読もう	学びのポータルサイト	学べるサービスいろいろ	探究の旅にしよう
プログラミングに挑戦!	調べ物ならここ	文化や芸術にふれてみよう	ちょっと息抜き



電子図書館

サインインしてください

Library card number (電子図書館利用権限)

Pin (パスワード)

サインイン

OverDrive

図書館主催モデリングバトル

ファブスペースで活動しているメンバーが発案
ZOOMを活用して、オンラインで開催

第1回 モデリングバトルエントリー作品 (エントリー順) 2020.4.19

				
① Webカメラフード	② 物理的にゲームを禁止するカバー	③ 居眠り防止板 (仮)	④ Apple Bottle	⑤ オープナー
				
⑥ ラップフェイスシールド	⑦ マグクランプ	⑧ ビュリダンのサイ	⑨ 分解できるペン立て	⑩ 見守りコーガくん

お題：休校中に家で使えるもの

他校の生徒も参加、大学生や大学の教員などが審査員として参加

第1回 工学院大学附属中学校・高等学校図書館 もでりんぐぼとる 2020

工学院大学附属中学校・高等学校図書館

Home

第1回 モデリングバトル：お発表表 「休校中に家で使えるもの」

模範的なもの、面白いもの、役に立つものなど、あなたのアイデアを自由にデザインしてください。

アイデアをカタチにする

～僕たちがやってきたこと～

～協力：工学院大学附属中学校・高等学校～

グローバル時代の活躍に不可欠な「思考力」や「アイデアをカタチにし実行する力」の育成

予測不可能な未来をどう生きるか

「アイデアをカタチにする」

問題把握 / 情報検索

情報処理・分析 / アウトプット

プレゼンテーション / 振り返り



探究的な学びはつながっている



学校図書館から大学図書館へ

あらゆる情報を扱う学校図書館だからこそできること。

「読み、書き、算盤（そろばん）」と並ぶ基礎・基本としての情報活用能力の育成。

初等中等教育から高等教育までを見据えた、「情報教育」、そして創造的学修の基礎・基本を支える図書館のありかた

① 情報教育の参照基準と学習指導要領の3つの柱を関連づける

情報教育の参照基準			学習指導要領の3つの柱		
			A. 知識及び技能		B. 思考力、判断力、表現力等
A: 情報及びコンピュータの原理	1	知識：情報一般 知識：機械情報	情報が持つ特性やその表現方法に関する知識・理解。		
	2	知識：機械情報 知識：情報処理	コンピュータや情報技術の基本原則とできることに関する知識・理解。		
	3	知識：機械情報 知識：人間社会	コンピュータやネットワークその上の情報の流れとコミュニケーションに関する知識・理解。		1-② 情報と情報技術の特性の理解
	4	知識：機械情報 知識：人間社会 知識：システム	コンピュータやネットワークにまつわるセキュリティの概念やそのための技術に関する知識・理解。		
	5	汎用：論理 汎用：問題解決	コンピュータやそこで動くプログラムの記述を通じて情報を取り扱ったり機器を制御する技能。		1-① 情報技術に関する技能
B: 情報の整理と創造	1	知識：人間社会 汎用：主体性	情報の記録や整理の方法が人間の情報に対する理解度、処理効率、アウトプットの品質に影響することに関する知識・理解。		2-① 情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 2-② 情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解
	2	汎用：論理 汎用：コミュ	文書などの情報を読み取り、論理構造や論理の欠陥を把握する技能。		1-① 必要な情報を収集・整理、分析、表現する力
	3	汎用：論理 汎用：コミュ	明確で論理的な構造・記述を持つ文書を作成する技能。		
	4	知識：人間社会 汎用：コミュ	受け手にとりわかりやすく魅力的な表現を構築する技能。		1-③ 受けての状況を踏まえて発信する力
	5	汎用：創造性 汎用：論理	適切な情報手段を用いて、情報を整理/保管/検索/分析/構築する技能。		2-② 情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解

② それらをもとに、図書館独自の体系表チェック項目を作成する

学習指導要領の3つの柱				情報活用能力体系表チェック項目		
A. 知識及び技能		B. 思考力、判断力、表現力等		C. 学びに向かう力・人間性等		
1-②	情報と情報技術の特性の理解			情報及び情報技術の原理	A	情報が持つ特性やその表現方法に関する知識・理解。
					A	情報の特性に応じた活用方法に関する知識・理解
					A	コンピュータや情報技術の基本原則とできることに関する理解。
					A	コンピュータやネットワークその上の情報の流れとコミュニケーション、およびセキュリティに関する知識・理解。
1-①	情報技術に関する技能			A	情報の特性を踏まえて使い分け、目的に応じてそこから情報を取り扱ったり、機器等を使いこなす技能。	
2-①	情報収集、整理、分析、表現、発信の理解			情報の整理と創造	A	情報の記録や整理の方法が人間の情報に対する理解度、アウトプットの品質の影響することに関する知識・理解。
2-②	情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	1-①	必要な情報を収集・整理、分析、表現する力		B	文書などの情報を読み取り、論理構造や論理の欠陥を把握する技能。
		1-③	受けての状況を踏まえて発信する力		A	明確で論理的な構造・記述を持つ文書を作成する技能。
2-②	情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解			B	受け手にとりわかりやすく魅力的な表現を構築する技能。	
1-③	記号の組み合わせ方の理解			A	適切な情報手段を用いて、情報を整理/保管/検索/分析/構築する技能。	
				記	A	モデルとは何かということや、汎用性のある代表的なモデル化手法に対する知識・理解。

③ 学校図書館サポート例を提示する

情報活用能力体系表チェック項目			学校図書館サポート例	
			ツール/司書教諭等によるサポート	場としての活用
情報及び情報技術の原理	A	情報が持つ特性やその表現方法に関する知識・理解。	メディアの種類やその特性についての授業	図書館ガイダンス
	A	情報の特性に応じた活用方法に関する知識・理解	日本十進分類法の活用、データベース等の利用方法の提示	
	A	コンピュータや情報技術の基本原則とできることに関する知識・理解。	関連資料の収集・展示。最新情報の収集、提供。PC等のソフトの管理、提供。	貸出用PC等
	A	コンピュータやネットワークその上の情報の流れとコミュニケーション、およびセキュリティに関する知識・理解。	セキュリティ等に関する注意喚起、ポスター等の提示。共用PCの利用方法案内。	
	A	情報の特性を踏まえて使い分け、目的に応じてそこから得られる情報を取り扱ったり、機器等を使いこなす技能。	情報活用ワークショップ等の実施。NIEや情報活用授業の実施。	参考図書、新聞、雑誌、DB等の提供
情報の整理と創造	A	情報の記録や整理の方法が人間の情報に対する理解度、処理効率、アウトプットの品質の影響することに関する知識・理解。	情報の整理、構築方法等の具体的例示、及び指導。	「情報活用シート等の」提供
	B	文書などの情報を読み取り、論理構造や論理の欠陥を把握する技能。	国語科の教員等と連携した、共同授業やコラボ企画。	
	A	明確で論理的な構造・記述を持つ文書を作成する技能。	論文の書き方の指導。	児童生徒が過去に作成した論文の構築
	B	受け手にとりわかりやすく魅力的な表現を構築する技能。	関連資料の収集・展示。最新情報の収集、提供。PC等のソフトの管理、提供。	プレゼンテーションの練習ができる場の提供
	A	適切な情報手段を用いて、情報を整理/保管/検索/分析/構築する技能	メディアの特性や、その情報の整理方法の提示。	

最後に軽井沢風越学園のこと



学校全体Libraryと100年前の機織り機と最新式3Dプリンターが同居する空間



創造的学修を支えるしかけ

学んだことを自分なりにアレンジし、その先の学びへ
予測不可能な未来社会へどう繋げていくか



「言語能力」「読解力」「思考力・判断力・表現力」
「情報活用能力」「主体的・対話的で深い学び」

その過程において、**創造的学修**はきわめて重要であり、
それを支え、高等教育へとつなげていくことは、学校図書館の使命

予測不可能な未来：オンライン授業を通して考えたこと

本 (HON) のつくり手をエンパワーするメディア
HON.jp News Blog


コラム



司書教諭が図書室という場を失って取り組んだこと～学校図書館の存在意義とデジタルトランスフォーメーション (DX)


🕒 2020年6月16日 06時00分 👤 有山裕美子

新型コロナウイルス感染拡大を受け、全国の小中高校などが臨時休校となった。そんな中でも「学びを止めない」ため、学校図書館はどのような取り組みを行っているか？ また、そこにはどのような問題があるのか？ 司書教諭の有山裕美子氏（工学院大学附属中学校・高等学校）に寄稿いただいた。前中後編の短期集中連載でお届けする。



「今我々はまさしく予想不可能な未来を生きているわけであるが、例えば今回のようにリアルな場としての「学校」を失う場合もあれば、電力が使用できなくなり、インターネットが遮断された未来が来ないとも限らない。東日本大震災の翌日に、石巻日日新聞が手書きの新聞を発行したことを記憶している人もいるだろう。」

時代が大きくデジタルに舵を切る中で、その両方をアーカイブしていく図書館の役割は大きい



「学校図書館だからこそその役割はもちろん、学校と言う狭い視野にとらわれることなく、広く社会につながる「情報教育」のあり方もまた、同時に考えていく必要があるだろう。」

新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程もまた、重要なキーワードになっている。

学校図書館は学校教育、その上の高等教育、そして社会をつなぐ窓でもありたい。」

私立大学図書館協会 東地区部会研究部
2021年度研修会
「ウイズ/ポストコロナの大学・図書館のリデザイン～事例を中心に」

これからの大学を支える図書館： 専門的職員であり続けるために

2021年10月25日(月)
武庫川女子大学附属図書館
川崎 安子

1

武庫川女子大学の紹介

- 大学10学部17学科・1専攻科
文、教育、健康・スポーツ科学、生活環境、食物栄養、建築、音楽、薬、看護、経営、音楽(専攻科)
 - 短期大学部7学科
日本語文化、英語キャリア・コミュニケーション、幼児教育、心理・人間関係、健康・スポーツ、食生活、生活造形
 - 大学院7研究科13専攻
文学、臨床教育学、健康・スポーツ科学、生活環境学、建築学、薬学、看護学
 - 附属中学・高等学校、附属幼稚園、附属保育園、13附置研究所

 - 大学学部生：8,418人、短大生：995人、大学院生：274人
 - 大学専攻科生：8人、卒業生：約19万人

 - 大学・短大教員数(教育職員・教務職員) 398人
 - 職員数(事務職員・技能労務職員) 194人
- (※ 2021年5月1日現在)

2

附属図書館の概要

- 所在： 兵庫県西宮市
- 館数： 中央図書館, 薬学分館, 甲子園会館分室
- 蔵書数： 図書 約69万冊, 雑誌 約1万種, 電子ジャーナル 約1万種, 電子ブック 約1万冊, 視聴覚資料 約1万4千点
- 資料購入費： 約1億円／年
- 入館者数： 約2万人／年 ※コロナ禍で約46万人から96%減
- 貸出冊数： 約5万冊／年 ※コロナ禍で約18万冊から72%減
- 職員数： 専任4名(うち有司書資格者2名)
委託職員39名(うち有司書資格者34名)

(2020年度実績)

武庫川女子大学附属図書館の取り組み

ノンフィクション作品コーナー



卒業生コーナー

①活字に触れる、楽しむ



電子書籍の森

④読活プロジェクト



MWU電子図書館

2021年度「読書に関わるアンケート調査」

文学賞受賞作品コーナー

オープン・ライブラリー



作家と語る

②良き読者を育てる



シラバスコーナー



読書に関わるアンケート調査



⑤地域・社会貢献



SDGs/LGBTコーナー

③書く力を身につける

学生のお薦め本コーナー



ライブラリー・カフェ



英語ライティング・プラザ



日本語ライティング支援デスク

重要答申から見た日本の高等教育政策

2005年

中教審「我が国の高等教育の将来像」

2008年

中教審「学士課程教育の構築に向けて」

2012年

中教審「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」

2017年

中教審「我が国の高等教育に関する将来構想について(諮問)」

2018年

中教審「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」

◆主体的な学び ◆建学の精神 ◆大学情報の開示 ◆PDCAサイクル
◆教学マネジメント(カリキュラムマップ、ナンバリング等) ◆アウトカムズ
◆学士力の確保 ◆グローバル人材の育成 ◆学修時間の確保
◆地域連携 ◆産学官連携 ◆大学連携 ◆高大接続 ◆教職協働
◆シラバスの充実 ◆組織的教育の確立 ◆eラーニング ◆遠隔教育
◆学修支援システム(LMS) ◆ポートフォリオ ◆学生カルテ
◆クラウド・コンピューティング ◆オープン・エデュケーション
◆アクティブ・ラーニング ◆TBL(チーム・ベースド・ラーニング)
◆PBL(プロジェクト/プロブレム・ベースド・ラーニング)
◆ラーニング・コモンズ
◆情報セキュリティ ◆情報倫理 ◆情報リテラシー ◆キャリア教育
◆入学前・初年次教育 ◆授業評価・改善 ◆イノベーション創出

5

コロナ禍以前の取り組みとして

- 図書館司書課程の教務主管部署に
⇒ 履修者約350名、「図書館×学生」協働の拠点へ
- 「武庫川女子大学紀要」の編集主幹部署に
⇒ 「iThenticate」で新規性に問題がないかチェック
- 必修科目「初期演習Ⅰ」「初期演習Ⅱ」の授業コマを担当
⇒ 「Turnitin」でレポートの剽窃チェック
- 貴重書のデジタル化事業
⇒ 「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画
(略称：歴史的典籍NW事業)」に参画

6

アカデミック・ライティング支援

英語ライティング・プラザ

(授業開講期 週3回)

英語文化学科, 共通教育部, 外国語教育推進室と協働

2015年度「教育改善・改革プラン」採択
多読書コンテンツの爆発的利用

日本語ライティング支援

(レポート・論文提出時期)

国内外の大学のライティング・センターを視察
2017年度よりサービス開始

7

「MWU電子図書館」の構築

- 約1,200自治体の教員採用試験過去問題集
- 雑誌「教員養成セミナー」
- リポジトリ公開不可の本学修士論文・卒業論文
- 司書課程の学生による特集
- 「電子書籍の森」



8

「シラバス電子教科書」事業

WITH
CORONA

- ・電子教科書・教材配信システム「ActLearn2」を使用(アプリ版・ブラウザ版あり)
- ・マルチデバイス対応(1つのIDで3台まで同時利用可能)
- ・履修登録時、シラバスから教科書の試読が可能

評価方法 Evaluation Method	レポート(作成含む)(25点) ・平常点等(75点) 平常点等配内訳: 毎授業時のミニツクペーパー (5点×15回)
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 Task Feedback	ミニツクペーパーとレポートは評価後、翌授業時に解説を行う。
教科書 Textbook	図書館サービス課(ライブラリー図書館情報学; 5) 第2版 / 金沢みどり/学文社



9

「SARTRAS」連携チーム

WITH
CORONA

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 総務部 ○ 教務部 ○ 大学事務室統括部 ○ 研究開発支援室 ○ 附属図書館 ○ 教育開発推進室 ○ 人事部 ○ 総合情報システム部 ○ 附属中学校・高等学校 ○ 広報室 | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業目的公衆送信補償金制度の手続き ・改正著作権法第35条運用指針の周知 ・FD研修の企画 ・教員からの問い合わせ対応 |
|--|--|---|

10

必修科目「初期演習 I・II」



前期「初期演習 I」

(2コマ)

- 「図書館の活用方法」
- 「文献と情報活用の倫理」
- 28種のパスファインダー
- 施設紹介動画

後期「初期演習 II」

(2コマ)

- 「図書館を活用した情報収集」
- 「アカデミック・ライティングの基礎」
- 「あなたの卒論応援します」(YouTube)
- ゼミオリエンテーション

SDGsと大学教育



- 2015年9月、国連サミットで加盟国の全会一致で採択された国際目標
- 国連加盟国すべてが2030年までに持続可能なより良い世界を目指す
- 17の目標と169のターゲットを設定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ESD(持続可能な開発のための教育)

- 2002年、日本が最初に世界に向けて推進を提言した教育
- 2019年12月の第74回国連総会では「ESD for 2030」が採択され、「すべてのSDGsの成功への鍵として、ESDはSDGsの達成の不可欠な実施手段である」「国際社会に対し、幼児教育から高等教育、遠隔教育、職業技術教育まで、すべての教育段階において包摂的かつ公正な質の高い教育を提供するよう求める」ことなどが決められた
- 2020年度から施行された小学校、中学校、高等学校の新学習指導要領の前文ならびに総則において「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられ、各教科・領域でESDに関連する内容・記述が多く盛り込まれている

13

「SDGs/LGBTコーナー」の設置

WITH
CORONA



- ◎セクシャルマイノリティの学生たちとの出会い
- LGBTの分類に収まらない性的指向や性自認
- QIA+も含めた様々な資料を読みたいという切実な願い



- ◎全盲の大学院生の入学をきっかけに
- 点字案内
- テキストデータの提供
- PC-Talkerに対応した音声ソフトウェアの導入

14

SDGs/LGBTコーナー

- ・約4,000冊の紙書籍を収集
- ・MWU電子図書館にジャンル追加
- ・Webアプリ『BOOK GACHA』



15

経営学部 必修科目「実践学習」

WITH
CORONA

- 1年生後期からスタートし、卒業までに4単位が必修
- 1単位につき、45時間の活動時間にて実施（9単位まで可能）
- 就労体験を通じて、実社会を学び、適性を知る
- 2021年度より図書館プログラムがスタート「SDGs/LGBTコーナーを活用した社会貢献活動」

<活動詳細>

- ① 武庫川女子大学におけるSDGs認知度調査の実施
- ② SDGs/LGBTコーナーを活用した社会貢献活動の実践
- ③ ライブラリー・カフェのプロデュース
- ④ 小冊子「MWU LIBRARY for SDGs」の制作・発行

16

地域貢献

WITH
CORONA



オープン・ライブラリー

- ・ 緊急事態宣言中、学生よりも利用滞在時間が長かったのは、市内在住・在校の中学生・高校生
- ・ 一般開放に否定的な学生も、自分自身の経験から中高生の利用には寛容

17

リカレント教育

WITH
CORONA

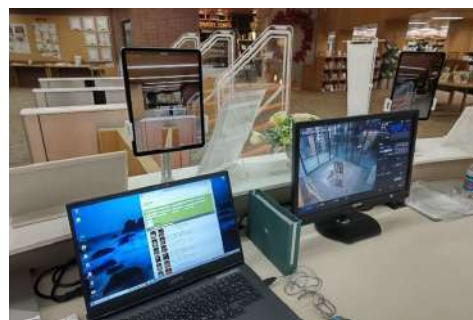
AI顔認証入退管理システム「SAFR」を導入

<目的>

- ・ COVID-19対策を含むリスクマネジメントの強化
- ・ 生涯学習支援のさらなる充実

<対象>

- ・ 本学の卒業生、在学生保護者
- ・ 西宮市教育委員会の教職員
- ・ 連携協定校
- ・ オープン・ライブラリー



18

これからの大学を支える図書館

- 大学改革は図書館から
 - ⇒ 自大学の理念、教育方針に則った図書館運営を
図書館を自大学のブランドに
- 専門的職員であることを自覚し、研鑽に努める
 - ⇒ シラバスを読み込み、授業運営を理解する
教員からの授業相談に積極的に関わる
- 図書館員自身が生涯学習者に
 - ⇒ 図書館司書の資格一択では役に立たない
一定の学歴・資格武装は必要
- 学生の声を丁寧に拾う
 - ⇒ 学生は最大・最高のステークホルダー
少数意見でも叶えるべき要望はある（シーズとニーズの往来）

※ あくまでも
実体験からの
私見ですが...

19

日本私立大学連盟の改革提言

「ポストコロナ時代の大学のあり方～デジタルを活用した新しい学びの実現～」 （令和3年7月）より

「職員についても、基準で想定されている専門的職員（第38条3）である司書は図書館機能の多様化に伴って、図書館職員に求められる能力も多様化したため、形骸化している。また、アドミッション・オフィサーやリサーチ・アドミニストレーターなど新たな「専門的職員」が次々に登場している今、大学が必要とする「専門的職員」独自の定義や職能及び役割について規定することが必要である。

質保証方策の一つとして教職協働の推進を目的に義務化されたスタッフ・ディベロップメントをさらに実質化するためにも、教員と職員の定義や職能及び役割に関する基準を明文化するべきである。

なお、大学はデジタル化を推進し、事業や予算のさらなる効率化を図り、常に冗費を省く努力をしなければならぬが、この効率化は、教職員の削減を目的としたものではない。むしろ教職員の連携と組織的体制の中で、学修者本位のオンライン教育プログラムを開発し、効果的な授業運営のコーディネートのもとに質の高い授業を実践しなければならないのである。予測困難な時代に大学が即応し、そのダイナミズムによって教育を深化させるには、教員や職員のこれまでとは異なる能力や技術も必要となる。多様な能力をもった教職員の協力があってこそ、新たな教育が実現できるのである。」

20

ご清聴ありがとうございました。



武庫川女子大学附属図書館
川崎安子
anзу01@mukogawa-u.ac.jp

Googleフォームを使った 新入生ガイダンスの作成

2021年10月25日
和歌山大学図書館
藤井亜希子

概要

- ①和大人書館ビギナース【入館編】 4/1-5/21 (延長6/30)
- ②和大人書館ビギナース【レポート準備編】 4/1-5/21 (延長6/30)
<https://www.wakayama-u.ac.jp/lib/news/2021032900036/>
- ③和大人書館ビギナース【検索実習編】 4/30 (教育学部基礎セミナー)
3月末授業依頼、オンライン授業に変更になったため急遽作成
- ④スカベンジャーハント 4/12-5/21 (延長6/30)
館内ポスターにQRコード掲載

経緯

- 新入生図書館ツアー実施（20～30分程度で職員が館内を案内）
2019年：30グループ（425名）参加 ※1年生全体の半数程度
2020年：新型コロナ感染症拡大により中止→紹介動画作成
- 2021年に向けて代替案を検討
参加率、より効果的に学べる工夫
オンライン形式を組み合わせたガイダンスが必要
- 参考
 - * 第106回全国図書館大会和歌山大会(オンライン大会)
第2分科会①ゲームを活用した情報リテラシー教育
 - * 2020年度図書館総合展「Libardry Form」

作成

- 他大学の事例を学ぶ
- まず問題案を出し合う
- Googleフォームで作ってみる
 <欲張らない>
 <ストーリー性>
- 試行を多数依頼

No	区分	項目(目的)	問題	解答	備考
1	現地	OPAC検索	→どの本を検索する	現地に行く(タミー)→本を用意しておく?	現地での問題へ誘導?
2	オンライン	OPAC検索	→どの本を検索する	検索履歴参照	
3	現地	館内利用	1)随時館内サービスマンに声を、新聞バックナンバーの左から右目、上から5冊目迄順番に読み進める		現地での問題へ誘導?
4	現地	館内利用	レポート作成で役立つ本を探す	1)蔵書カードの資料に行く	現地での問題へ誘導?
5	オンライン	館内利用	レポート作成で役立つ本を探す	1)蔵書カードの資料、2)随時バックアップ、3)貸出状況	
6	現地	館内利用	1)随時(ラウンディングバイザー)席に1冊、各自の担当席の冊子を読み、常備品は10冊、2000冊、ラウンディングバイザー)館内蔵書の冊子を読み	1)随時席に行く	現地での問題へ誘導?
7	オンライン	館内利用	1)随時(ラウンディングバイザー)席に1冊、各自の担当席の冊子を読み、常備品は10冊、2000冊、ラウンディングバイザー)館内蔵書の冊子を読み		
8	現地	館内利用	3)随時和歌山大学コーナーに行き、1)和歌山大学50年史を探る	現地に行く(タミー)→本を用意しておく?	現地での問題へ誘導?
9	オンライン	館内利用	和歌山大学の先生が書いた本を探す	1)随時(随時)蔵書、2)随時随時資料、3)随時和歌山大学コーナー	
10	オンライン	館内利用	南方熊楠について調べる	1)随時(随時)蔵書資料、2)随時伊予系関係資料、3)随時(随時)	
11	現地	館内利用	2)随時(随時)蔵書について調べる、入口の注意書きを調べる	1)随時(随時)蔵書に行く(入るとどうするか)のことで問題?	現地での問題へ誘導?
12	オンライン	館内利用	静読空間で集めて勉強する	1)随時(随時)蔵書、2)随時(随時)蔵書、3)随時(随時)蔵書	
13	オンライン	館内利用	友達と相談しながら勉強する	1)随時(随時)蔵書、2)随時(随時)蔵書、3)随時(随時)蔵書	
14	オンライン	館内利用	電卓機能のある本を取り出す	1)随時(随時)蔵書、2)随時(随時)蔵書、3)随時(随時)蔵書	

① ビギナーズ【入館編】



- ★入館への障壁をなくしたい
- ★様々な使い方ができることを知ってもらう

- 所要時間 2 ～ 3 分
- ①建物、入口の案内
- ②入館（学生証が必要）
- ③ラーニングコモンズ等の使い方
- ④本のある場所と並び方
- ⑤検索端末があること

② ビギナーズ【レポート準備編】



- ★初めてレポートに取り組む学生を想定

- 所要時間 3 ～ 4 分
- ①友だちと相談できるスペースがある
- ②データベース、参考図書の紹介
- ③OPAC検索（調べたい本がある時）
- ④OPAC検索（テーマで探す時）
- ⑤電動書架の使い方
- ⑥レポート作成に役立つ資料がある
- ⑦本の借り方

③ ビギナーズ【検索実習編】

図書館ビギナーズ (検索実習編: 教育学部基礎セミナー)

基礎セミナーで予定していた図書館利用の代わりに、図書館ビギナーズ (検索実習編) を作成しました。調べ方の基本がこれで分かるはず！問題は全部で7問あります。

図書館ホームページに、(入館編) (レポート準備編) を掲載していますので、あわせてご覧ください。←指図で飛ぶ立てパンが当たります！
<https://www.wakayama-u.ac.jp/contents/2021/02/08/0006/>

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 不正行為の報告 - 迷惑メール - プライバシーポリシー

★教育学部基礎セミナー用に限定公開

• 所要時間 20 分程度

- ①レポート作成の手順 (キーワードの定義確認)
- ②百科事典の特徴
- ③ジャパナレッジの検索
- ④レポート作成の手順 (客観的な事実を確認)
- ⑤OPAC検索 (シラバス参考図書 of ISBN)
- ⑥OPAC検索 (キーワード検索)
- ⑦OPAC詳細検索 (配架場所から)

<https://forms.gle/zz6QW59CTZBC5G6d7> ※研修会用

④ スカベンジャーハント

スカベンジャーハント2021: 和大人図書館

*必須

制限時間は60分、質問は14あります

はじめに、好きな数字を1つ選んでください。*

337
 379
 444

戻る 次へ

2/21 ページ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 不正行為の報告 - 迷惑メール - プライバシーポリシー

Google フォーム

★図書館を探索しながら利用方法を知ってもらう
★スマホを利用、現地に問題を掲示

所要時間 60 分程度

- 分類番号を知る
- グループ学習室に行ってみる
- 別置コーナーを知る (和歌山関連、アカデミックスキル、文庫新書等)
- 電子ブックがあること
- 配架場所と請求記号で本を探す
- ラーニング・アドバイザーを知る
- 購入リクエストができる
- 自動貸出機を使ってみる

<https://forms.gle/PVaMRoGEuAmZ6yKd6> ※研修会用

※フィードバック

景品

- ビギナーズ【入館編】【レポート準備編】の両方をクリア
→抽選で30名に焼き立てパン2つプレゼント



- スカベンジャーハント
→全問正解者のうち抽選で30名に500円券をプレゼント



※図書館 1階ニューヤマザキデイリーストア 和歌山大学店協賛

広報

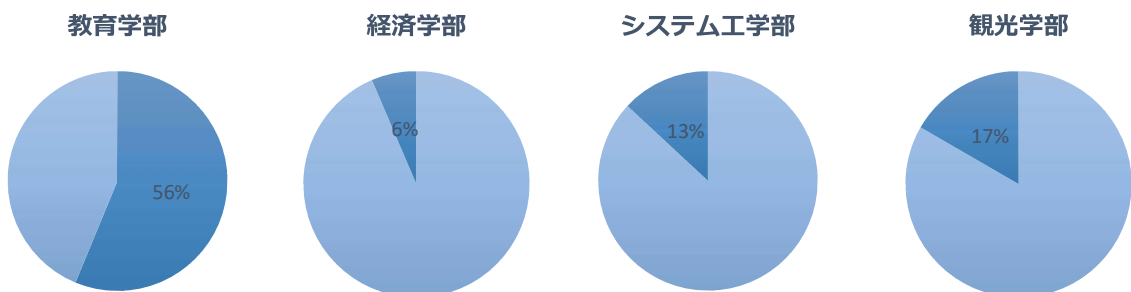
- 教員メール配信 (3月末)
- 図書館webサイト (4/1)
- 館内ポスター掲示
- 対象者メール配信 (1、2年生)



参加状況

- ①和大人書館ビギナーズ【入館編】：370人
うち学生番号記載271人（入館経験あり216人、なし55人）
- ②和大人書館ビギナーズ【レポート準備編】：369人
うち学生番号記載255人
- ③和大人書館ビギナーズ【検索実習編】：134人
教育学部1年生対象（171人）
- ④スカベンジャーハント：18グループ（44人）

【入館編】 1年生参加率



学生番号を記載してくれた1年生 / 各学部1年生
133 / 171人

21 / 306人

50 / 332人

26 / 130人

① 【入館編】 感想・コメント

コメント 82 人 (学生番号記載してくれた 1 年生 : 230 人)

まだ利用したことがない人

- 楽しかった、図書館に行きたいと思いました 等 (5 人)

図書館に行ったことがある人

- 図書館の感想 (51 人) …話し合える 1 階がお気に入り、本が多い、居心地が良い、課題がしやすい 等
- ゲームの感想 (17 人) …面白かった、興味がわいた、ゲーム感覚で利用法が知れた、もっと活用したい 等
- 図書館要望 (4 人) …もっと広く、充電、図書リクエスト 等

② 【レポート準備編】 理解できた内容

このゲームで理解できた内容にチェックをいれてください。いくつでも！

357 件の回答



② 【レポート準備編】感想・コメント

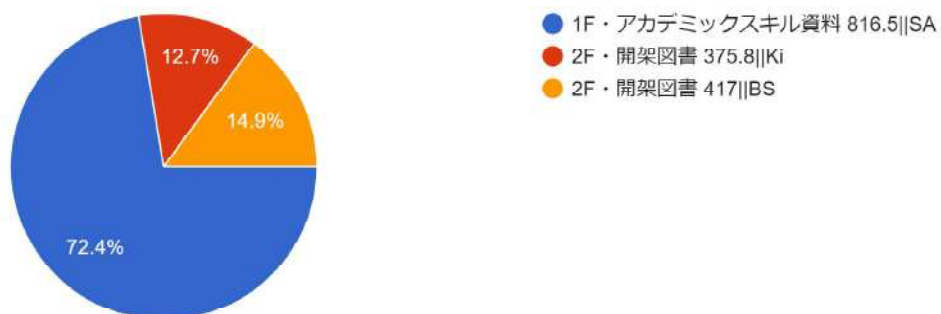
コメント55人（学生番号を記載してくれた1, 2年生：255人）

- 利用法がわかった（22人）…図書の検索についてよくわかった、クイズで確認することでとても頭に入りやすかった、わかりやすく非常に実践的だった 等
- 利用したい（15人）…図書館に興味があいた、ぜひ利用してみたいくなった、休校期間があけたら一回本を探して借りるという練習をしてみようと思った 等
- 電動書架の利用（4人）…初めて見たときはどのように使えばいいのかわからなかったので詳しく知ることができて安心した 等
- 質問内容が少しわかりづらかった（1人）
- もっと知りたい（2人）

③ 【検索実習編】正答率（ISBNで検索）

OPACで基礎セミナーの参考図書を検索してみよう。配架場所と請求記号が正しいのは？ ISBN 9784061586048 で検索すると便利！

134件の回答



③ 【検索実習編】 キーワード検索

• 質問

好きな科目（例：国語、数学、理科、社会、音楽、体育…）を1つ選んで、気になるテーマ（心理、文化、経済など）で掛け合わせ検索してみよう。
例) 数学 文化 / 音楽 経済

→読んでみたいと思った本を1冊選んで、タイトルと資料番号を記入してください。

• 回答（抜粋）

あなたはこうしてウソをつく 120200006056

算数・理科を学ぶ子どもの発達心理学

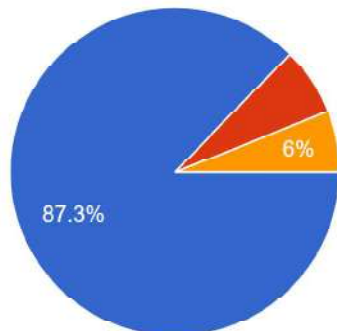
世界史とつながる日本史 120180000100

英語学を学ぼう：英語学の知見を英語学習に活かす / 高橋勝忠著 120170005555

③ 【検索実習編】 正答率（詳細検索）

検索した時に、一番上に表示されている本は？

134 件の回答



- 大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる!
- プレゼンテーション入門：学生のためのプレゼン上達術
- レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド

③【検索実習編】感想・コメント

コメント40人（参加134人）

- O P A C検索、利用法がわかった（27人）…図書の検索についてよくわかった、クイズで確認することでとても頭に入りやすかった、わかりやすく非常に実践的、探している本がどこかわかりにくく困っていたのでこの機能が知れて良かった、図書の検索の仕方をゲームを通して楽しみながら学べて良かった 等
- 利用したい（8人）…登校できるようになったらもっと利用したい、積極的に使っていこうと思った、学習の参考にする本などを借りて自分の学びに活用したい 等
- 図書館の感想（2人）…ラーニングコモンズは高校になかったため新鮮だった 等
- 思っていたよりも難しかった（1人）

④スカベンジャーハント

参加：18グループ（うち全問正解14グループ）

期間：1か月半想定→臨時休館により17日間

感想：5件

- 開架図書が楽しかったです！
- 楽しかったです疲れましたありがとうございます！
- 楽しく図書館のことを知ることが出来ました！
- 図書館の色んなところを知れて楽しかったです！！
- とりあえず疲れました。スタンプラリー形式で一周する感じが良かったです。

成果と課題

- 和大人書館ビギナーズ
 - Googleフォームを使った内容は概ね好評
 - 課題は授業との連携
- スカベンジャーハント
 - 目的（新入生ツアー代替orイベント?）
 - 授業内での実施方法
 - 時間設定、距離の再検討
 - フィードバック（スマホを使った代表者のみ）

ありがとうございました

J. F. Oberlin University

コロナ禍における桜美林大学図書館の
オンラインガイダンス・イベント実施について

2021.10.25

2021年度私立大学図書館協会東地区部会研修会

図書館メディアセンター
鬼沢恵子/糸数ナンシー美香

発表者紹介

鬼沢恵子（入職11年目）

- 2011.4 桜美林大学 図書館入職
情報サービス課
以降 閲覧業務・情報システム業務・庶務業務等を担当
- 2015 私立大学図書館協会事務局

糸数ナンシー美香（入職20年目）

- 2002.4 桜美林大学 外国語教育センター入職 ELP（English Language Program）事務室
- 2005.10 教務課学事係
- 2009.3 図書館事務課 逐次刊行物担当
- 2013.4 図書館閲覧担当
- 2015-2016 私立大学図書館協会事務局
- 2016.3 図書館資料受入統括・資料費予算の管理・図書イベント企画・運営
- 2021.6 図書館メディアセンター 係長（資料受入全般、予算管理、マネジメント業務）

本日の内容

私立大学図書館協会東地区部会 研修会

1

桜美林大学・桜美林大学図書館の紹介

2

ガイダンス・イベント実施環境について

3

ガイダンス実施状況

4

図書館でオンラインイベント
「図書館で45分留学」「図書館で異文化交流」

5

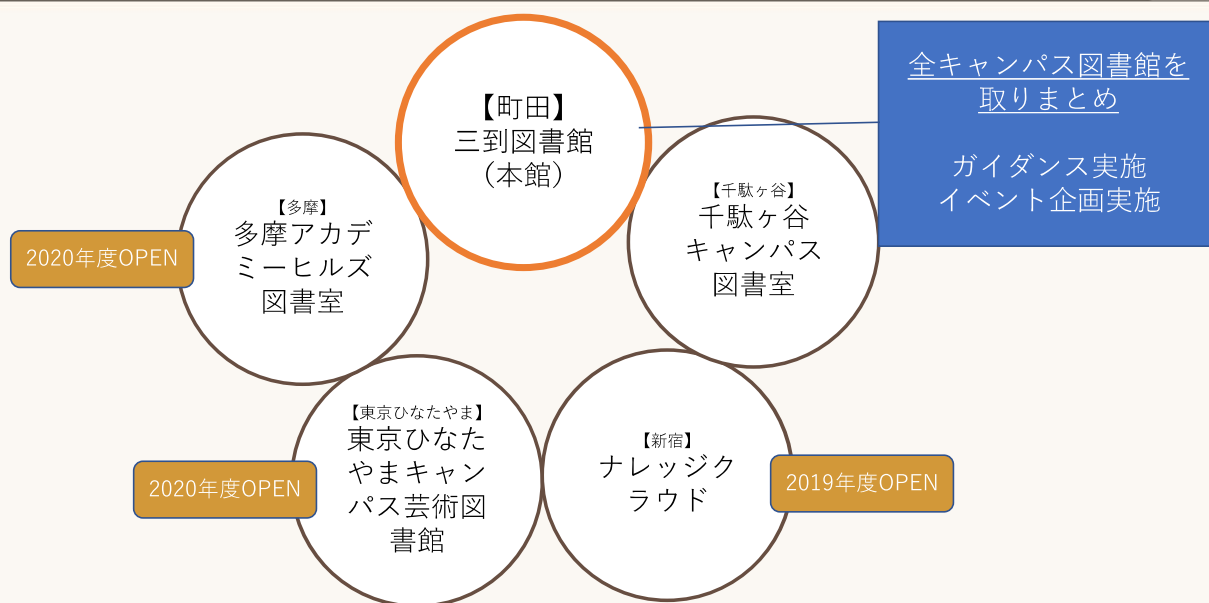
今後の展望

1 桜美林大学・桜美林大学図書館の紹介

桜美林大学

- 1921(大正10)年 創立者 清水安三が中国・北京に創設した崇貞学園を源流とするキリスト教主義の大学
- 学生数：学群生 9,983名 / 大学院生 272名
- 学群およびキャンパス：
 - 町田キャンパス： リベラルアーツ (LA) 学群・健康福祉学群
グローバル・コミュニケーション (GC) 学群
 - 千駄ヶ谷キャンパス： 大学院
 - 新宿キャンパス： ビジネスマネジメント (BM) 学群
 - 東京ひなたやまキャンパス： 芸術文化学群
 - 多摩キャンパス： 航空・マネジメント学群

1 桜美林大学・桜美林大学図書館の紹介



2 ガイダンス・イベント実施環境について

接続環境： Zoom

- 全学の授業や学生のオンライン対応を全てZoomで一本化
- 全キャンパスの教室、教員研究室、各部署にZoomアカウントを付与・配布

接続機器：ノートPC (カメラ・マイク付き)

- 働き方改革の一環でコロナ前から全職員にノートPCを貸与済

**オンライン対応への接続方法一本化&全学的に設備が整ったため
一気にオンラインへ移行**

ガイダンス・イベント開催：



3 ガイダンス実施状況

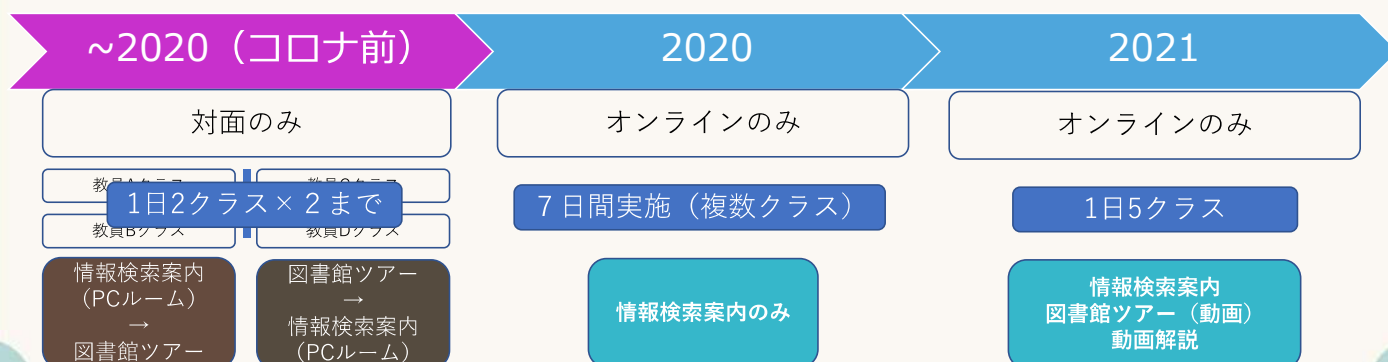
2020~2021にオンラインで実施したガイダンス

- ・ 新入生オリエンテーション：3学群＋院生
各学群＋院のオリエンテーションで簡単な利用説明
- ・ 新学期ガイダンス（初級編20分・論文作成編45分）
- ・ 専攻演習（3年生ゼミ論）
- ・ オンラインデータベースガイダンス
- ・ **リベラルアーツセミナー**（通称：LAセミナー）
（リベラルアーツ学群1年生向け）
- ・ 日本語コミュニケーションⅠ（芸術文化学群1年生向け）

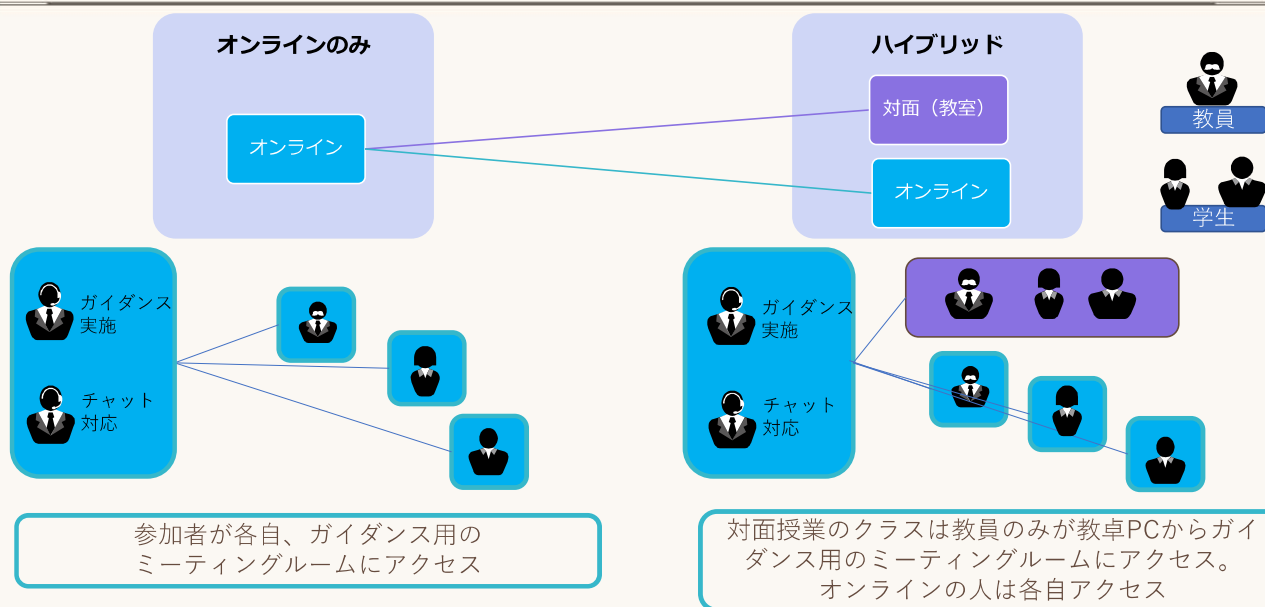
3 ガイダンス実施状況

リベラルアーツセミナー（リベラルアーツ学群1年生向け）

・ リベラルアーツ学群の1年生（約950人）が1クラス15名程度に振り分けられ、担当の教員に大学の学修基礎を学ぶ。オプションとして、図書館ガイダンスを1コマ選択可能（約90%の教員が採用）。



3 ガイダンス実施状況



3 ガイダンス実施状況

- 情報検索
- 図書館ツアー
(動画視聴)
- 動画解説
- Q&A

PPT資料での利用案内
+
Zoomの画面共有機能を利用しながら
図書館HP・
OPAC・データベースの
学外利用方法を説明



3 ガイダンス実施状況



作成した図書館ツアーの動画URL(YouTube)をチャットで流す

↓
学生が各々視聴

↓
視聴後、チャットでzoomに戻ってきたことを連絡



約6分間

3 ガイダンス実施状況



YouTubeを画面共有し、視聴動画画面を静止画の状態に切り替えて、要所要所で説明

➡ ガイダンスを録画し、学内関係者のみ閲覧可能なWebページにアップ



3 ガイダンス実施状況

メリット



- 移動距離ゼロ！（自宅からでもガイダンスできる）
- 出席できなかった人にも案内可能
- 以前より多くのクラスに対してガイダンスを実施
- 大学の授業実施形態に拠らずに実施可能
- 海外からもアクセス可能
- 感染リスク回避

デメリット



- カメラOFFのため、学生のリアクションが見えない（講師役の職員のテンションが上がらない）
- 学生のOPAC検索状況やデータベースへのアクセス状況が確認できない
- インターネットの回線状況に左右される（音声、画像）
- 複数教員の担当する学生が入るため、会話が混線する
- すぐに対処できないことが突然起こる
- 講師が操作に慣れるまでが大変
- なぜか対面よりも疲れる

3 ガイダンス実施状況：まとめ

現在桜美林大学は対面授業の全面再開を目指しているが、図書館員が他キャンパスに出向き、対面でのガイダンスに戻すことは難しい。

そのため図書館としてはオンラインでのガイダンスも継続していきたいと考え、教員のニーズに応じて柔軟に対応していきたい。

4 図書館で45分留学

「図書館で45分留学」とは

- * 留学先で必ず体験するような場面を想定した英会話のセッション
- * 説明も含めすべて英語で行う
- * 図書館の資料の案内や、海外でも使えるデータベースなどにも親しんでもらう



4 図書館で45分留学

「図書館で45分留学」は2018年春より本格的にスタート

- * 2018-2019 (アクティブラーニング、月に2~3回のペース)
- * 2020 ~ (オンライン開催、月に2回のペース)

【背景】 本学の中期目標に沿ってより多くの留学生を派遣するという本学の動きに対し、当時図書館で何ができるか？

留学に行く前の準備として図書館で所蔵しているたくさんの語学学習の資料を促す前に学生が自ら「勉強しなきゃ」「もっと調べなきゃ」と思わなければ、利用しないため「気づき」を与えることが大事である

- * プチ留学を体験させて、自分の弱点に気づけば、どこに力を入れるべきかが分かる
- * ネイティブの先生に協力してもらう

【学内の連携・協力】

- * 本学の国際交流担当部署との連携
- * 本学の創業者である清水安三の留学先、米国オハイオ州のOberlin Collegeからアジア各国の交流を進めているNPO団体「Oberlin Shansi」を通じて、卒業生を3名を迎え英語教員として2年間、本学で教えている

図書館で45分留学の様子



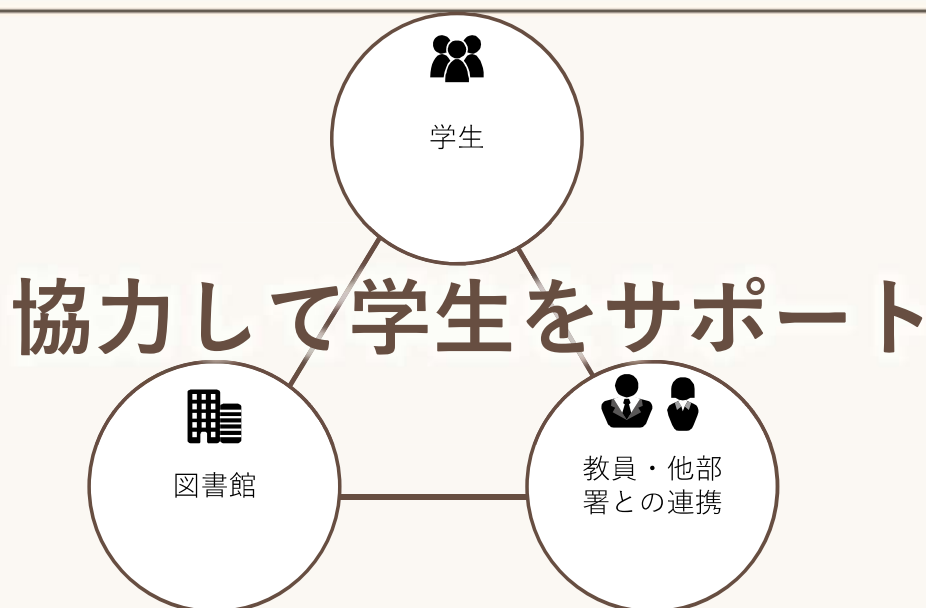
対面



オンライン



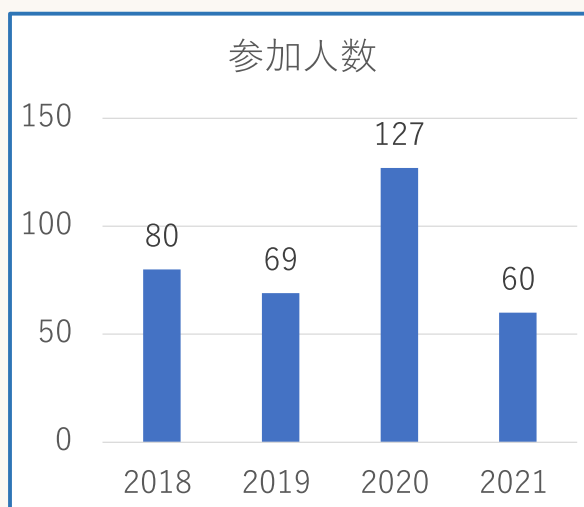
4 図書館で45分留学



4 図書館で45分留学

図書館で45分留学(2018年4月～2021年10月)

年度	回数	方法	参加者人数 (延べ)
2018	17	対面	80
2019	19	対面	69
2020	17	オンライン	127
2021	9	オンライン	60
累計	62		336



4 図書館で45分留学

各セッションのテーマ

Topics (2020)		Topics (2020)	
1	Casual Speech / Slang	10	Planning A Trip
2	Expressing Emotions	11	Hospitality
3	Expressing Opinions	12	Overcoming Challenges
4	Summer Celebration	13	Asking for Advice
5	Meeting New People / Small talk	14	Reading the Room
6	In case you get sick	15	Hobbies
7	Sharing memories / Telling a story	16	Humor
8	Giving Thanks	17	Inviting people out
9	Holidays		

オンラインにおけるメリット／デメリット

メリット



- ・ 場所の制約がなくなったことで他キャンパスの学生も参加可能
- ・ 2020年度先生方は帰国となったが、アメリカと繋いで継続は可能だった
- ・ 感染リスク回避

デメリット



- ・ ブレイクアートルームで会話の練習をするため全体を見渡すことは難しい
- ・ 全体に言えるものでもブレイクアートルームにいる場合は全員が集合するまで一旦保留
- ・ その場で仲良くなってもイベント以外でのやり取りに発展しにくい。お互いの連絡先交換をするタイミングがない
- ・ 対面の際は図書館の資料を使ってリサーチをしながら行うことが出来たが、オンラインではそれが難しくなった

4 図書館で異文化交流

「図書館で異文化交流」は2020年コロナ禍においてスタート

【背景】先に述べた「図書館で45分留学」は海外に留学したい学生向けのイベントであるのに対し、その逆の発想で「**図書館で異文化交流**」は日本に留学しているにも関わらず、コロナの影響で入国できず、日本語の勉強も、友達もできずにいる学生のためにスタート。

* コロナの影響ですべての授業がオンラインとなり、以前のように授業と授業の間に交わされるようなクラスメイトとの会話や、ランチの約束などできないまま過ごしているため、少しでも気軽にお話しでき、お互いの文化や習慣についてもシェアできる場があってもいいのではないかという試みで進めています。職員も一緒になって話に入り、アドバイスができる場所はし、また違う観点で職員との交流自体を楽しみにしている学生もいる。

* 現在は月に1回のペースで開催

* 運営に関わる学生が数名おり、テーマ決めやプレゼン、当日のファシリテーションのサポートなども行う。

図書館で異文化交流の様子



4 図書館で異文化交流

図書館で異文化交流(2021)

開催日	オンライン開催	参加者人数	テーマ	備考
2021/4/21	ZOOM	8	大学生活における10か条	17:00~18:00
2021/5/19	ZOOM	20	留学・海外旅行・在住経験を通して伝えたい お得情報、そこで起こったあり得ない事件	17:00~18:00
2021/6/16	ZOOM	5	ストレス解消法・支えになっている言葉	17:00~18:00
2021/7/22	ZOOM	5	「お金も時間も自由に使っていいから好きなこと としていいよ」と言われたら何をする？	17:00~18:00
2021/8/25	ZOOM	6	一番のお気に入りの写真、大切な物とそのエピソード	17:00~18:30
2021/9/22	ZOOM	5	モチベーション、どうやって上げる？	17:00~18:00
2021/10/27	開催予定	開催予定	世界の祭	17:00~18:00

5 今後の展望

新型コロナウイルス感染拡大によって社会が大きく変わり、大学図書館でもこれまでとは異なる利用者サービスが求められている。

大学の授業形態にオンラインが追加されたことで、図書館資料の貸出・返却、レファレンスサービス、図書館ガイダンスなど、これまで対面が前提だった利用者サービスがオンラインでも実施されるようになった。

オンラインには学生・教職員双方に場所、移動時間等の制約が解消されるという大きなメリットがあるが、対面にも対面のメリットがあり、双方ともにデメリットもある。

私たち大学図書館員は、これからも学生のニーズをしっかりと受けとめつつ、対面サービス・オンラインサービスを使い分け、より効果的な図書館サービスの提供に努める必要があると考えている。

桜美林大学図書館

ご清聴頂きありがとうございました

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2021 年度研修会 (2021/10/25)

事例紹介：気がつけばバーチャル図書館員？！

慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター

森嶋桃子(momoko_m@keio.jp)

【背景】

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC : Shonan Fujisawa Campus)

→環境情報学部・総合政策学部 + 看護医療学部の 3 学部 + 2 研究科 (<https://www.sfc.keio.ac.jp/>)

学際的な研究活動が特徴

※2019 年 7 月 SFC BYOD (Bring Your Own Devices/ノートパソコン必携化)

<https://www.sfc.keio.ac.jp/news/013495.html>

2020 年 3 月 16 日 新学事日程決定 & オンライン授業推奨

3 月 23 日 教員向け講習会開始 (Webex Training)

→植原啓介. “慶應 SFC における遠隔授業とアンケート調査結果”.

https://www.nii.ac.jp/event/upload/20200605-5_Uehara.pdf

4 月 3 日 4/6-6/10 まで臨時休館決定

4 月 6 日 セミナー実施決定→全 6 回 (4/8-17) 実施、計 573 名参加

4 月 7 日 在宅勤務開始

→メールフォーム (<https://www2.lib.keio.ac.jp/online/susume/index.php>) にとどまらないサービスを模索

【新しいかたちのレファレンスサービス】

- チャット (2020/4-) チャットプラス社 : ミニマムプラン (年契約 1,500 円/月)
 - ウェブサイト (<https://www.lib.keio.ac.jp/sfc/index.html>) 右下に表示
 - 1 アカウント : 複数サイト (湘南藤沢メディアセンター・看護医療学図書室) 運用
 - 担当者 3 名 (湘南藤沢 : 2 名、看護医療 : 1 名)
 - 平日 9:15-11:30, 12:30-17:00 (時間外や休館時はメッセージを残すことができる)
 - PC ブラウザによる運用
 - ボット設定 : よく聞かれる質問に自動応答
 - チャット終了、もしくはメッセージ受領時にはメール送信

- LINE (2020/7-) <https://www.linebiz.com/jp/signup/> (基本は無料)
 - 日吉メディアセンターで 6 月に導入 & 湘南藤沢では 7 月に開始
 - 業務用メールアドレスでビジネスアカウントを各自作成 & 公式アカウントに紐づけ
 - PC ブラウザによる運用
 - 担当者 3 名 (湘南藤沢 : 2 名、看護医療 : 1 名)
 - 平日 9:15-17:00 (時間外や休館時はメッセージを残すことができる)
 - AI 応答 (ボット設定) も可能
 - 履歴は基本 1 年間保存、ダウンロード可

➤ メッセージ機能（無料だと1,000通/月が上限）⇒広報に利用できるが、ブロックされるきっかけにも

● Zoom（2020/5-）

- 2020年5月 従来のオリエンテーションの延長としてサービス開始
- 2021年3月 「図書館のことはカモに聞け！」広報開始
- 2021年10月 飛び込み相談開始（所属者のみ利用可能のURLを公開）

● 特徴

- チャット：○視認性が高い／○気軽／×その場で対応要／×画像添付不可／×有料
- LINE：○なじみがある／○既読がつく／○画像添付可／○無料／×「友だち」登録要
- Zoom：○画面共有しやすい／○デスクの延長としてサービスしやすい／×利用者のハードル

【統計概観】

年度別レファレンス件数と入館者数の推移

	利用指導	文献所在調査	事項調査	その他	計	入館者数
2019年度	599	169	64	72	904	226,741
2020年度	448	35	24	36	543	9,728

※入館者数は前年度の4.3%であったが、レファレンス件数は前年の60%を維持することができた。

口頭+電話/オンラインの別

	口頭+電話		オンライン	
2019年度	805	89.0%	99	11.0%
2020年度	99	18.2%	444	81.8%

※オンラインの割合が増加した。

内訳の推移（%）

	2019年度	2020年度
利用指導	66.3%	82.5%
文献所在調査	18.7%	6.4%
事項調査	7.1%	4.4%
その他	8.0%	6.6%

※利用指導の割合が増加した。

オンライン内訳

	LINE	チャット	メッセージ	Zoom	メール	計
2020年度	117	101	27	6	193	444

※新たに導入したツールも利用されていることがわかった。

【SNS】

サービスを知ってもらうために&コロナ禍での図書館のプレゼンスを高める→広報強化の必要性

- Twitter (2010/7-)

https://twitter.com/sfc_mediacyenter

※発信を強化し、コロナ禍の前後（2020年3月～5月）でフォロワー数約400人増

- Facebook (2011/7-) 年齢層が高め

<https://www.facebook.com/keiosfcmc/>

- Instagram (2020/11-) 年齢層が低め

https://www.instagram.com/sfc_mediacyenter/

- Facebook Business Suite (<https://www.facebook.com/business/facebook-business-suite>)

- 無料で利用可&ビジネスページの作成が前提
- FacebookとInstagramの同時投稿が可能
- いいね！やコメントをまとめて管理、反応も比較できる
- インサイト機能から属性等が分析できる

参考：総務省. “令和2年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査”.

https://www.soumu.go.jp/iicp/research/results/media_usage-time.html

参考：カレントアウェアネスポータル. “米国11大学の図書館アカウントによるInstagramへの投稿内容の分析（文献紹介）”. <https://current.ndl.go.jp/node/42272>

【まとめ】

図書館のプレゼンスを高め、サービス利用につなげる可能性として…

仲間をつくる／がんばりすぎない／試行錯誤OK／規程・ガイドラインの確認

※文中 URL はすべて 2021/10/22 にアクセス確認済



2021年10月25日(月)
私立大学図書館協会東地区部研究部
2021年度研修会

東京都立中央図書館における チャットボット実証実験

東京都立中央図書館 情報サービス課
森口 歩

1

目次

- 東京都立図書館の紹介 & 自己紹介
- レファレンス受付手段の多様化
- チャットボット実証実験概要
 - (1)チャットボット(自動応答)
 - (2)有人チャット
- 利用概数 & 利用者アンケート結果

2

東京都立図書館の紹介



中央図書館
調査研究用資料全般(約217万冊)



多摩図書館
児童・青少年資料と雑誌に特化(約19,000タイトル)

3

東京都立図書館の紹介

- ・個人貸出不可(公立図書館への協力貸出は可能)
- ・都内公立図書館へのバックアップ、学校の教育活動支援等も担う
- ・調査研究から身近な生活に役立つ情報収集まで支援
※令和2年度 Eメールレファレンス件数:5,213件
(中央図書館 4,342件、多摩図書館 837件)
- ・人員体制:職員 98名(うち司書職 71名)、会計年度任用職員 数十名、
業務委託スタッフ 百数十名

4

自己紹介

8:30	出勤	13:00	Eメールレファレンス調査
9:00	新着資料配架		
9:30	会議資料準備		
10:00	レファカウンター当番	14:30	次期システム検討会議
11:30	Eメールレファレンス点検	16:00	レファレンス電話当番
12:00	昼休み		
		17:30	Eメールレファレンス修正・送信
		18:00	退勤

5

自己紹介

- ・2014年度 司書職として入都。東京都立中央図書館内をぐるぐる異動中
- ・2014～2015年度 資料管理課 収書担当(和図書の収集、電子書籍)
- ・2016年度 企画経営課 システム担当
(図書館情報システム、ホームページ)
- ・2017～2020年度 情報サービス課 社会・自然科学担当
(利用者サービス、システム作業部員)
- ・2021年度～ 情報サービス課 人文科学担当
(利用者サービス、システム作業部員)

6



7

LINEを使う70代の割合は？

- 1 19.9%
- 2 49.3%
- 3 58.9%
- 4 76.2%

8

【令和2年度】主なソーシャルメディア系サービス／アプリ等の利用率

	全年代(N=1,500)	10代(N=142)	20代(N=213)	30代(N=250)	40代(N=326)	50代(N=287)	60代(N=282)	70代(N=282)
LINE	90.3%	93.7%	97.7%	95.6%	96.6%	85.4%	76.2%	49.3%
Twitter	42.3%	67.6%	79.8%	48.4%	38.0%	29.6%	13.5%	4.3%
Facebook	31.9%	19.0%	33.8%	48.0%	39.0%	26.8%	19.9%	7.1%
Instagram	42.3%	69.0%	68.1%	55.6%	38.7%	30.3%	13.8%	3.2%
mixi	2.3%	2.1%	3.8%	3.6%	3.4%	0.7%	0.4%	0.4%
GREE	1.3%	2.1%	4.2%	1.2%	0.6%	1.0%	0.0%	0.7%
Mobage	2.7%	4.9%	6.6%	2.4%	0.9%	2.4%	1.4%	0.4%
Snapchat	1.5%	4.9%	5.6%	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.0%
TikTok	17.3%	57.7%	28.6%	16.0%	11.7%	7.7%	6.0%	2.1%
YouTube	85.2%	96.5%	97.2%	94.0%	92.0%	81.2%	58.9%	33.3%
ニコニコ動画	14.5%	26.8%	28.2%	14.8%	12.0%	7.7%	7.8%	2.8%

出典：
総務省.令和2年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書. 2021年8月 p.90

LINEを使う70代の割合は？

- 1 19.9% → 60代Facebook利用率
- 2 33.3% → 70代YouTube利用率
- 3 49.3% → 70代LINE利用率**
- 4 76.2% → 60代LINE利用率

表1 レファレンス受付手段別の特徴

	表現方法			時間的 特性	空間的 特性
	文字	音声	映像		
対面式	×	○	○	同期型	同室対面型
電話	×	○	×	同期型	遠隔分散型
文書	○	×	×	非同期型	遠隔分散型
電子メール	○	×	×	非同期型	遠隔分散型
チャット	○	×	×	同期型	遠隔分散型
Twitter	○	×	×	非同期型	遠隔分散型
Facebook	○	×	×	非同期型	遠隔分散型
LINE	○	○	○	同期型	遠隔分散型

出典：齋藤泰則. 利用者志向のレファレンスサービス—その原理と方法. 2009, p.91 をもとに一部改変 ¹²⁾

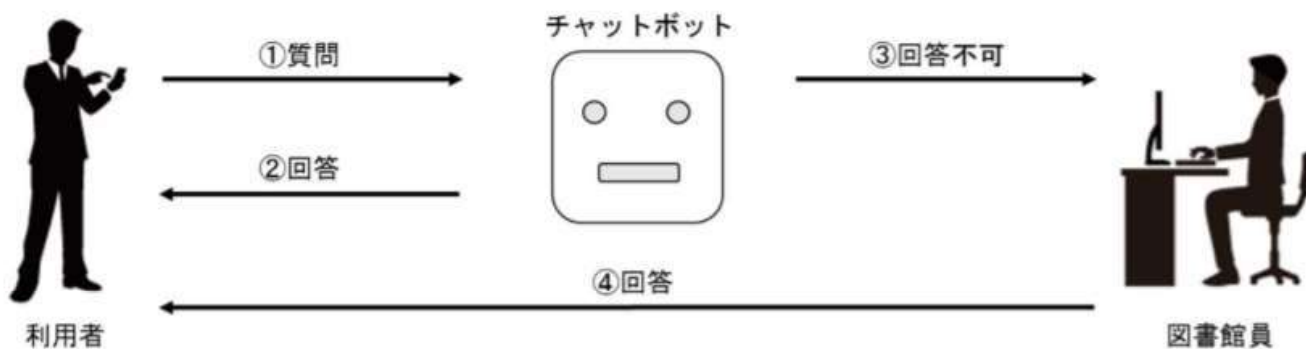
出典：
松野南紗恵. ヴァーチャルレファレンスの特徴と課題 - 受付手段による質問傾向から-. 明治大学図書館情報学研究会紀要. (10), 22-27, 2019年3月 p.24

チャットボット実証実験

- ・2020年12月1日～25日実施
- ・実証実験用LINEアカウントを友だち登録して利用
- ・トーク画面に入力した質問に
 - (1)チャットボット(自動応答)
 - (2)有人チャット
 が回答



チャットボット・有人チャットの流れ



出典：
東京都立図書館. 第29期協議会提言.
2021年3月
p.8

13

(1) チャットボット(自動応答)

- ・24時間応対
- ・質問内容をAIが自然言語解析
⇒FAQ(よくある質問と回答)の中から
最も近いFAQを推定して回答
- ・回答が役に立ったか評価
⇒選択すると応答終了



14

(1) チャットボット(自動応答)

- FAQはレファレンス記録、図書館ウェブサイト内の検索キーワードランキングをもとに約 200 件登録
 - 図書館の利用案内に関する質問
[例]資料を借りたい、駐車場はあるか
 - 東京の郷土資料・情報源についての質問
[例] 都内の古い住宅地図、関東大震災に関する資料
- ※応答を自動で最適化するような自己学習機能はない

15

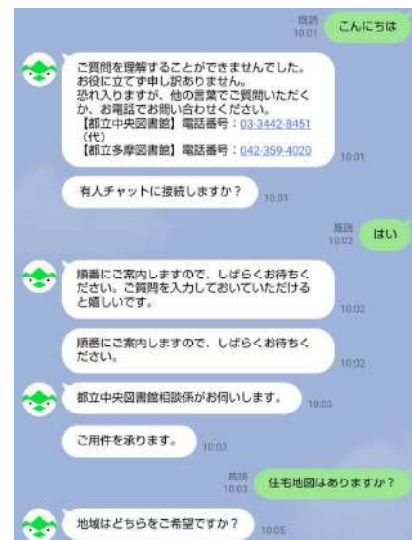
(1) チャットボット(自動応答)

質問	言い換え	回答
都立図書館はだれでも利用できますか	利用 資格	都立図書館はだれでも利用できますか というご質問ですね。
	利用 条件	
	紹介状はある?	都立図書館はどなたでも利用できます。年齢、居住地等による入館の制限はありません。
	入館 身分証	現在、一部予約制等にて人数を制限して開館しています。
	利用 証明	予約方法、利用方法等はこちらをご確認ください。
	年齢 制限	¥n https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/guide/information/6019_20200612.html
	18歳以下	
	大人でなくても利用できるか	
	子ども 利用	
	高校生 利用	
	都民でなくても利用できるか	
	都外 利用	
	県在住 利用	
	foreign	
	誰がつかえるの?	
	どんな人が使えるの	
	利用可能な人は	
	利用ができる人は	

16

(2) 有人チャット

- ・開館時間中(午前10時～午後9時)のみ対応
- ・チャットボットの回答が役に立たなかった場合、質問内容に近いFAQが選択できなかった場合、有人チャットへ切り替えを提案
- ・質問内容は限定せず、司書が即時に回答
- ・1時間30分交替の専任体制を確保
- ・対応する職員向けに事前研修を実施



17

実証実験期間中の利用概数

	件数
友だち登録ユーザー数	452人
自動応答セッション数	645件
自動応答メッセージ数	5,822通
有人チャットセッション数	45件

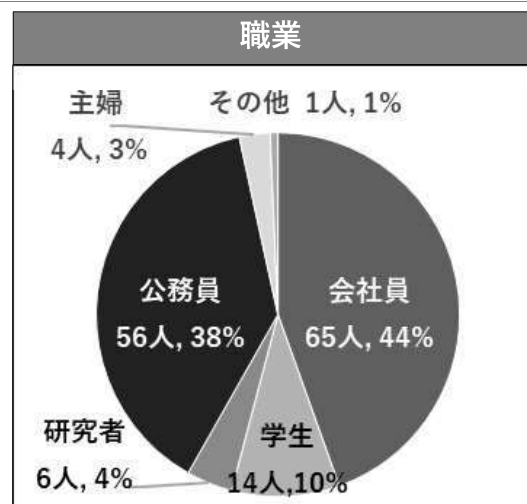
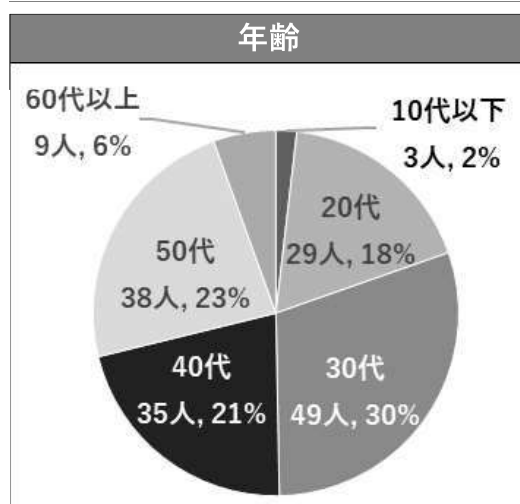
18

利用者アンケート結果

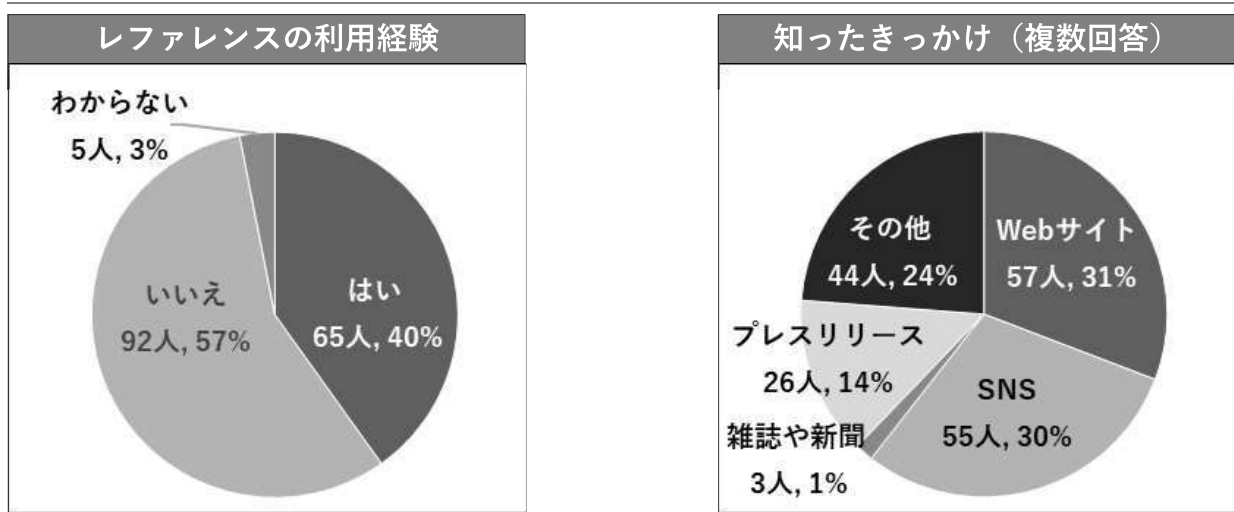
- ・2020年12月26日～2021年1月16日実施
- ・162件回収



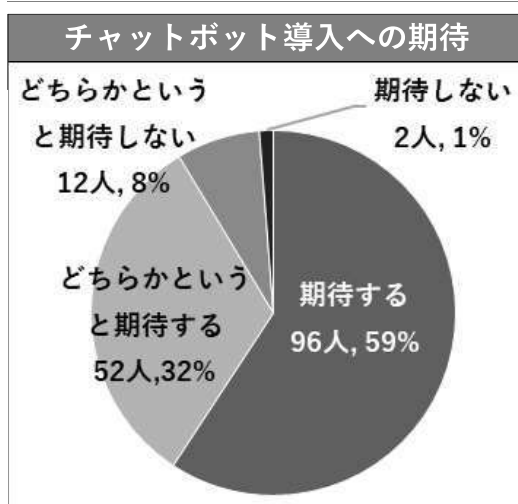
利用者アンケート結果



利用者アンケート結果



利用者アンケート結果



利用者からのコメント

- ・有人チャットに切り替えた時の司書さんの対応が丁寧で良かった。対応語句のリストがあればもっと利用しやすかった。(20代・学生)
- ・手軽で簡単。電話する手間や実際に図書館へ出向く必要がなくなり便利。(50代・会社員)
- ・質問できる範囲や内容がわかりにくく、ほとんどが「有人へ繋がりますか?」となってしまったのが残念。自由な文章の質問に対応できないのなら、選択肢に沿った質問の方がまだ活用できるように思える。(30代・会社員)
- ・レファレンスというより、(図書館の情報を)検索するツール。文章にすると全くヒットしなかった。(40代・公務員)



ご清聴ありがとうございました